

# 建築設計製図優秀作品集 2024

「速度のまやいに 速度的手法を用いた都市の交通結節点の提案」 姫野由衣

「記憶をつなく箱舟」 園田悠太・小林弘真・勝野琉生・田中修斗

「一級建築士対応製図コース」 佐々木省太郎・佐藤栄香

「川越再群落化計画 ～時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ～」 菊池康太

「環境と住宅を考える  
―水辺に建つ住宅―」 依田怜佳・川俣  
逢・小口紗也加

「ランドスケープとプレゼンテーション」  
磯部莉緒・川村吉平・牧野元汰  
糸魚川颯大・江口和李・藤井光稀

「地域とつながる都市型集合住宅」 木村舞優・依田怜佳

「水族館」 大野紗矢香・田村萌依

「鎌倉における大仏殿の再生計画 ―観光地の特徴を利用した避難施設としての提案―」 尾沢圭太

「水辺に佇むマイ・スペース+ others」 高山翔太・木村花漣・酒井英舞

「ミクロの世界に立ってみよう」

棟居龍之介・松下聖人ムテキ・北村太陽・窪寺陽平・武井裕次朗・添田冴樹・太田 知

「街のアーティミュージウム」 渡辺 徹・水野隼斗

「国際団地 移民と日本人の共生のモデルケース」 勝野琉生

「現代版竹取物語」 菊池康太・姫野由衣・若松瑠苒

「点、線、面から空間をつくる」

神田耀彰・木ノ内陽菜・窪寺陽平・小水咲季・澤田彩音・

鈴木颯太・高山翔太・武井裕次朗・棟居龍之介

日本大学理工学部 海洋建築工学科

# 建築設計製図優秀作品集 2024

---

## CONTENTS

1年生 (ベーシックデザイン演習) .....	2
2年生 (デザイン演習 I、デザイン演習 II) .....	8
3年生 (デザイン演習 III、建築計画及び演習) .....	16
4年生 (総合演習) .....	27
卒業設計 .....	33
修士設計 .....	41
コンペ受賞歴一覧 .....	48

# 1年生（後期：ベーシックデザイン演習）

【担当】 佐藤 信治  
江川 香奈  
長谷川洋平  
菅原 遼  
奥村梨枝子  
金子 太亮  
木内 厚子  
高野 洋平  
門間 正彦

## ベーシックデザイン演習 （後期）

### 第1課題

「ミクロの世界に立ってみよう」  
（出題：佐藤信治）

#### 【課題趣旨】

課題は普段見慣れたものの視点を変える訓練から始まります。皆さんの体が身長15～18mm位の大きさにまで小さくなったとします。見慣れていた文具や家電など手に取ることでできる小さなものがまるで未来都市や巨大な構築物のように見えるでしょう。ミクロの大きさになった皆さんは普段は外側から見ているものの中に自由に入りし内部空間をじっくりと眺めることができます。見たことのない空間に入り周りの質感や表情を見つめます。細部まで想像してください。さまざまな驚きや発見があるでしょう。内部空間にあなた自身が立ち最も魅せられた光景を表現してください。空間は意外なところにも存在します。あなたが見つけたこの内部空間を丁寧に描いてください。そして絶妙のタイトルをつけその空間の特質を説明してください。

#### 【提出物】

- (1) ケント紙に描いた作品。裏面に①担当講師氏名、②学生番号＋氏名、③描いた対象物とタイトルを記入
- (2) 作品タイトルと空間の説明文を記したA5サイズレポート用紙1枚。レポート用紙の最初に、同じく上記を記入

#### 【採点基準】

- (1) 描く対象物への着眼点（誰でも知っている身近なものでありながら、一見とてものようには見えないという視点を選んでください）
- (2) 表現の密度
- (3) 説明の適切さ
- (4) 必ずどこかに立っていることがわかるような視点であること

### 第2課題

「点、線、面から空間をつくる」  
（出題：菅原 遼、江川香奈）

#### 【課題趣旨】

これまでの課題をとおして、空間のスケール感や表現方法の基礎について学びました。今回の課題では、シンプルなエレメントを組み合わせて、空間やその造形を考察し、模型や図面を用いてアイデアの具体化を試みます。ここでは、空間は線材や面材といった部材の集合によって成立させます。もちろん模型として成立することが前提ですが、構造は重要視しなくても良いので、より純粋にここにあるべき空間を導き出してください。計画地は本学テクノブレース15の吹き抜けです。以下を参考にしながら、具体的な使い方（機能）や造形のテーマは各自で設定してください。

- ・空間的機能の例：屋内の休憩スペース、休憩スペース、レポートの作業場、グループ学習のスペース、友人との語り場、カフェなど
- ・形態操作の例：反復、相似、増幅、入れ子、すれ、回転、反転、連続、流れ、貫入、断片、隙間など

#### 【学習目標】

- (1) 計画地に赴き、実際の空間を体感する。
- (2) エスキース（計画のスケッチ）と模型製作を繰り返すことで完成品を作り上げる過程を理解する。
- (3) 「かたち」ではなく、「空間」をつくることを意識する。
- (4) デザインの主旨を、言葉（文章）、スケッチ、模型で表現する。

#### 【採点基準】

- (1) 表現したいコンセプトやイメージが実現されているか。
- (2) スケール感を把握しているか（空間に人物模型を置いて、空間と人との関係を示すこと）。
- (3) 水面を設けた人は、水の魅力を生

かしているか。

- (4) 模型やデザイン主旨をきちんとつづけているか。

### 第3課題

「水辺に佇むマイ・スペース  
+ others」  
（出題：金子太亮、奥村梨枝子）

#### 【課題趣旨】

マイ・スペースは文字通り自分の空間でありながら、+（プラス）の要素が求められます。それは社会や環境、自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有することです。誰は1人でも複数人でもかまいませんが、そこで起こるコミュニケーションにより「空間」や「場所」に新たな意味が生じるのです。個の空間を考えると同時に、仲間と、あるいは地域と共有できる建築、その場所に存在する意義を持った建築、そしてそこを訪れる人々に「素敵なかを」与えられる提案を期待します。

#### 【設計条件】

計画地は、本学キャンパスより東葉高速線船橋日大前の北約600mの坪井近隣公園内に位置する。南側は遊歩道に、北側は調整池に面した、間口20m×奥行22mのなだらかな傾斜をもつ水辺空間である。休日はジョギングする人、家族で憩う人など、公共的な広場や公園的な機能として賑わいがある。該当敷地は公園広場と水辺との間の水際に位置し水陸の環境要素と計画内容がどのような関係をもって魅力ある場所と成り得るかを計画するものとする。

- (1) 「マイスペース」という定義は住まうスペースではなく、趣味や遊び、自身のアトリエやギャラリー、リスニングルームなどプライベートに活動する場所をイメージする。各自でストーリーを設定すること。自身がかわるスペースであれば設定は自由。

- (2) 「+（プラス）」はマイスペースを中心とし、社会や環境、誰かとの共有の場をプラスすることを意味する。誰かを招いたり、地域の人と活動する場、周囲へ情報発信する場としてもよい。自分以外の人や社会と共有される価値を付与すること。

- (3) 水辺を積極的に利用。水辺の水質はきれいな状態であると想定する。建物と水辺との動線は必ず確保し、水辺と岸辺、陸地など場所性をとらえ、関係を深める提案を行う。

- (4) 計画地：千葉県船橋市坪井町1371

- (5) 敷地面積：300㎡（約90坪）

- (6) 延床面積：30～100㎡（ピロティ・外部階段・テラス・バルコニー・庇等は面積不算入）

- (7) 構造：自由

- (8) 階数：自由（ただし周辺環境を留意した高さとする）

・地盤は表層から支持地盤となり得る良好なものとする。

・電気・ガス・上下水道は供給済み。

・建築基準法、都市計画法などの関係法規は適用外とする。

#### 【提出物】

A2判ケント紙横使い4、5枚。以下の①に1枚、②～⑤に3、4枚を当てる。

- ①表紙：設計趣旨や計画説明を文、図（スケッチ・パース等）、写真で構成。

- ②配置図：1/100（建築物を屋根伏で表現し、道路、隣地、遊歩道、池との位置関係を示す）

- ③平面図：1/50（各階平面図。1階平面図には外構計画を表現する）

- ④断面図：1/50（2面以上。1面は水際線を横断し、水域と建物との関係を表現する）

- ⑤立面図：1/50（各面4面以上）

- ⑥模型：1/50（プレゼンテーション用。池・遊歩道など周囲もきれいに作成し、建築はこの地盤にしっかり固定すること。現物提出、採点後返却。写真は①に貼付）

■講評

ミクロの世界に立ってみようの目的は、空間の中に自分を置いてその状況で空間をスケッチで伝達することです。空間を表現するときに最も大切なことは、自分の立ち位置である足下の床からその空間がつながっているように表現することです。ぜひ、1/100の自分になったつもりで空間を想像してみてください。

ください。

●棟居龍之介「ミキサーだよ」：透明な囲まれた空間に鉄の危険なワナ。よく見るとそれはミキサーの中からの情景です。ミキサーの中から見た、取っ手や蓋の様子がよくわかります。とくにミキサーの羽の立体模様などが丁寧に描かれていますが、ミクロの立ち位置が解りづらいのでそこが残念です。

●松下聖人ムテキ「陰陽パズル」：STAR WARSのタイトル画面のように謎の宇宙船が描かれています。これから宇宙空間に飛び出すような構図が丁寧タッチで描かれています。ああ、これは鍵穴に差し込まれた鍵なのです。

●北村太陽「ミステリースペース」：

よく描けたスケッチです。これは一体何を表しているのでしょうか？ そのヒントは床の点々と上部に穿たれた穴です。さらに床には上部の穴からの光が差し込まれています。これは、クロックスというサンダルの中に立って見た情景でしょう。

●窪寺陽平「コピーします」：作者はどこに迷い込んでしまったのでしょうか。無機質な造形のなかに光のようなモノが見えています。よく見るとこれはコピー機の中をのぞき込んだ情景のようです。

●武井裕次朗「警沢準備室」：この作品は、SF映画を思い起こさせるような未来的な構図です。画面の下からシュッと刃物が飛び出るように丁寧に描

かれています。これは、キャッシュディスプレイの開口部から見た構図がそのダイナミックさをよく表現しています。

●添田冴樹「インク先の先」：なかなかよく考えられた構図です。さて一体なんでしょうか。これは、ボールペンのリフィル軸の上に立ってペン先を見ている情景なのです。作者の立ち位置も明確であり良くできた作品です。

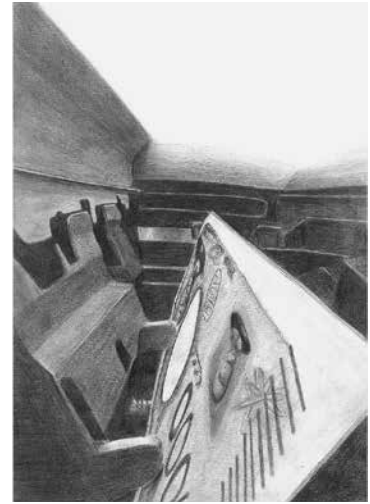
●太田 知「一人」：タイトルが秀逸です。これは、作者が1人いるときに郵便受けに封筒が投函された瞬間を捉えたモノなのでしょう。その時、作者のなかには心の扉を開いて光を受けたように感じているのかもしれない。(佐藤信治)



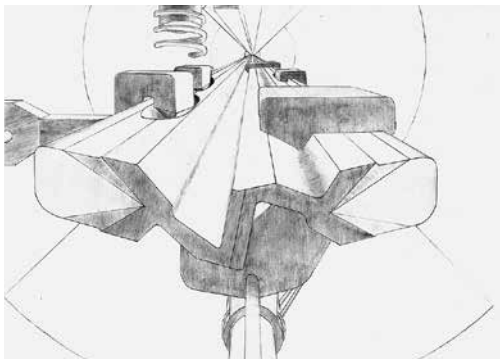
棟居龍之介「ミキサーだよ」



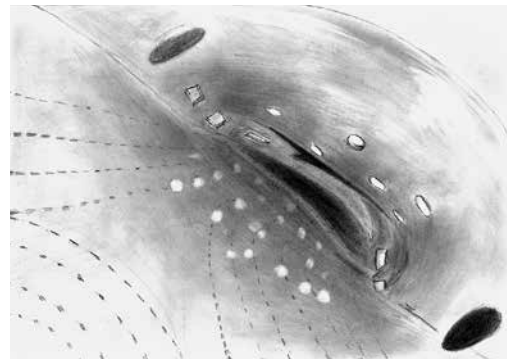
窪寺陽平「コピーします」



武井裕次朗「警沢準備室」



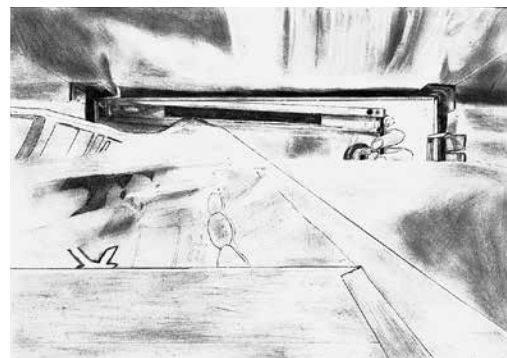
松下聖人ムテキ「陰陽パズル」



北村太陽「ミステリースペース」



添田冴樹「インク先の先」



太田 知「一人」

点、線、面から  
空間をつくる

■講評

- 神田耀彰「魚群」：緩やかな曲率をもつ天井や壁を魚群に見立て、海の中の潮の流れを視覚化できている。天井を支える構造を繊細な部材で2方向に限定することで、さらに浮遊感のある空間を表現できている。
- 木ノ内陽菜「Piece of Planet」：個々の部材（個性）が色々な方向でつながり、全体を構成している空間は、人が集まって学び、知見を広げるといったキャンパスの施設特性に即したデザインが表現できている。
- 窪寺陽平「整う arch」：壁と天井を同様の接合方法、ユニットを用いて緩やかに、曲線的な全体になるようにつ

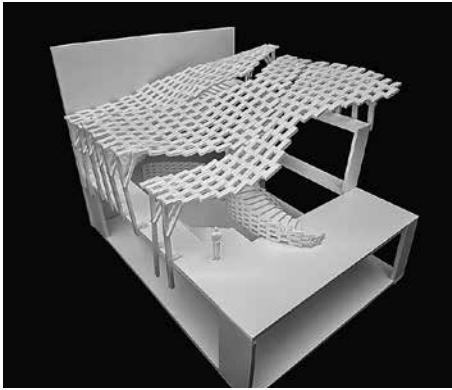
ないでいるため、統一感がある落ち着いた空間を体験できるようになっている。

- 小水咲季「Stair oasis」：上部からは隙間なく床面があるようにみえるが、高さ方向の設置場所を上手く調整し、線材に見える部分を多めに配することで、開放的な雰囲気もある二面性を有する空間である。
- 澤田彩音「Imagination Tree 創造が生まれる場所」：線材を水平・垂直に複合的に組み合わせることで、樹冠に囲まれたような一体的な空間をつくり出している。
- 鈴木颯太「repeat」：面材を互い違いに組み合わせ、階段状の面的な覆い屋根を複層的につくり出すことで、各

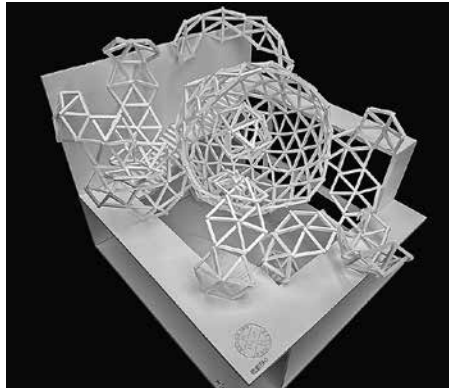
フロアとのレベルを考慮した空間づくりを実現している。

- 高山翔太「Flowing Line」：長さが異なる線材を意図的に組み合わせることで波を表現し、地下階から天面へと上昇していくような上下階のつながりを演出している。
- 武井裕次朗「時と嗜む」：線材・面材を螺旋状に組み合わせ、かつ、縦横無尽に張り巡らせることで奥行きのある有機的な空間をつくり出している。
- 棟居龍之介「人工と自然の調和」：特定のルールで徐々に広がるかたちで積層された線材の群は樹冠のように空間を覆い、樹木に包まれたような空間をつくり出している。

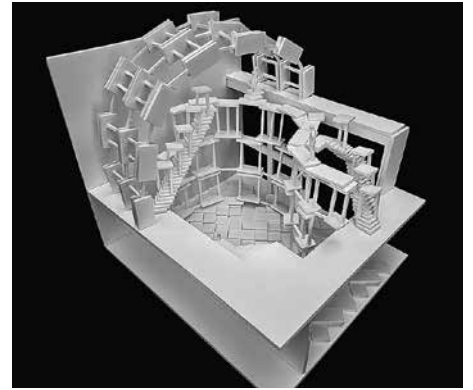
(江川香奈、菅原 遼)



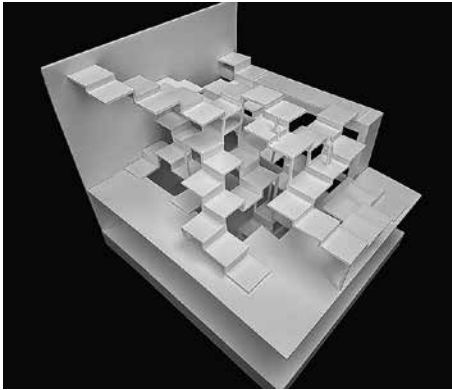
神田耀彰「魚群」



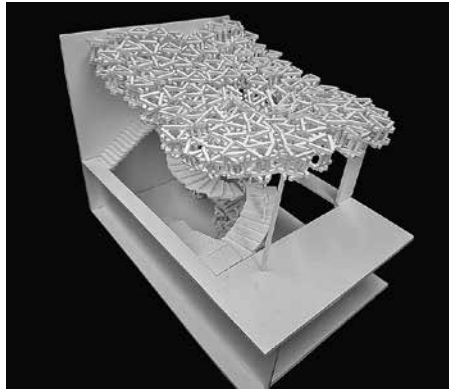
木ノ内陽菜「Piece of Planet」



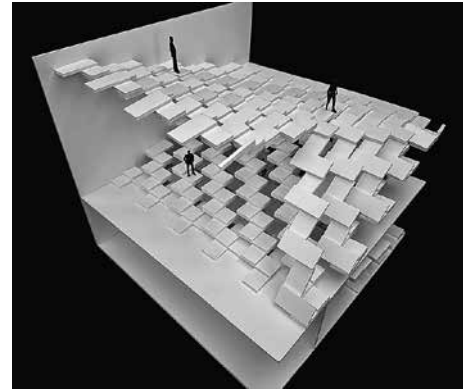
窪寺陽平「整う arch」



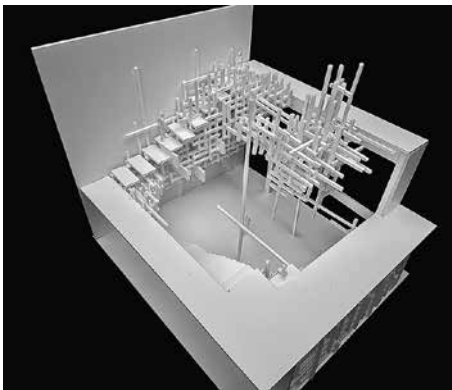
小水咲季「Stair oasis」



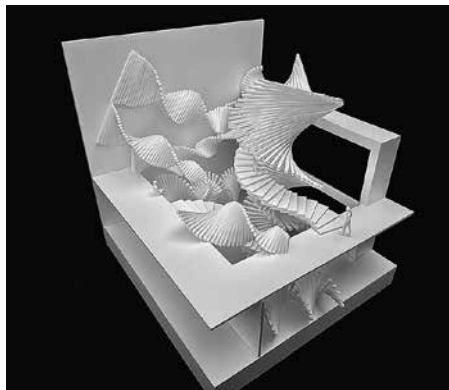
澤田彩音「Imagination Tree  
創造が生まれる場所」



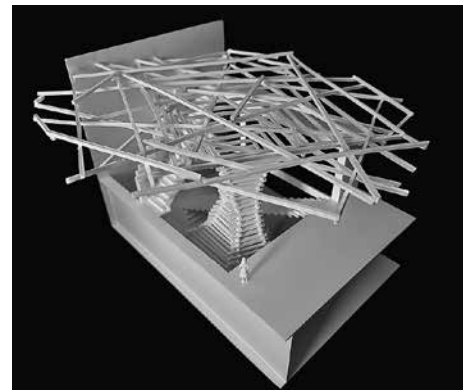
鈴木颯太「repeat」



高山翔太「Flowing Line」



武井裕次朗「時と嗜む」



棟居龍之介「人工と自然の調和」

ある空間をつくり出し、まるで自然に  
溶け込んでいるようなデザインとした。

高山翔太

「星を待つ空間」

■コンセプト

昼に活動する人と夜に活動する人の  
双方を引き込む建築を提案する。

建築は読書やワークスペースをメイ  
ンに、昼は自然の光を感じることがで  
き、夜は室内の明かりを周囲に広げる  
ことで人々を引き込み、星を眺めなが  
ら落ち着くことができるように、全面  
をガラス張りとした。また、木材を等  
間隔に積層させることにより温かみの


■講評

「星を待つ空間」は、others のため  
の読書スペースと屋上テラスで構成さ  
れた計画です。

建物は、薄い層が重なるような外観  
をもち、周囲の樹木の中に浮かぶよう  
に繊細に配置されています。外観を構  
成する層状の本棚は、樹木と視覚的に  
重なり合い、緑が室内へ流れ込むよ  
うな、内外が連続する空間体験を生み出  
しています。

模型では内部と外部の関係が多様な  
視点で丁寧に検討され、層状構成によ  
る緩やかな分節が全体の統一感を支え  
る、説得力のある提案です。(高野洋平)


日建学院賞



## 星を待つ空間

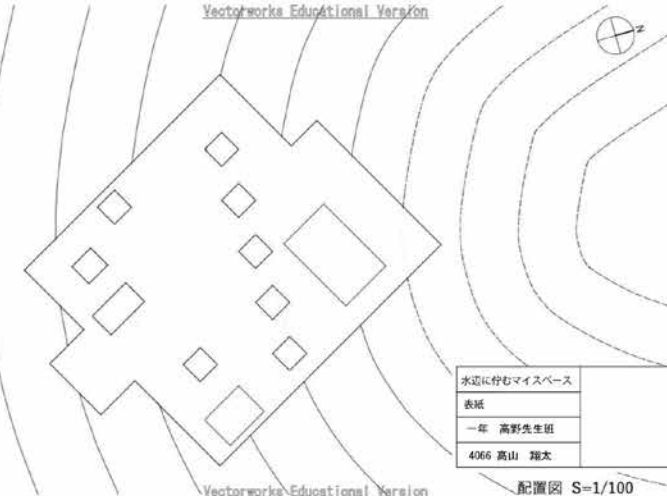
## Concept

公園の視察では昼時で小さな子供や高齢の方たちで賑わっていたが、暗くなって行ってみると静まりかえっていた。そこで夜になっても賑わい、昼に活動する人や夜に活動する人の両方が関わることができ周りを引き込む空間を提案する。



## Design

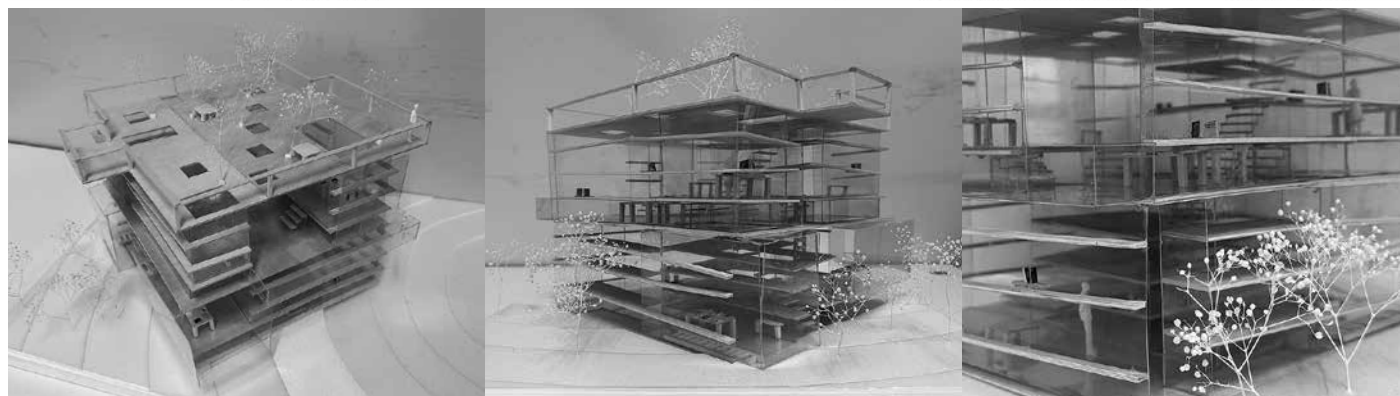
読書やワークスペースというマイスペースをメインに、昼は自然の光を感じられ夜には明かりで暖かさを出して周りの人も引き込め、星を見ながら落ち着けられるように全面をガラス張りにして、木材を等間隔に積むことで温かみのある空間を生むとともに自然にまるで溶け込んでいるようなデザインにした。



Vectorworks Educational Version

水辺に佇むマイスペース	
表紙	
一年	高野先生班
4066	高山 翔太

配置図 S=1/100



木村花漣

「スイーツアイランド」

■コンセプト

本提案は、世代間で共通の目的をもてるよう、お菓子をつくるための施設と自然の中でくつろぎながら食事がとれるスペースを計画した。キッチンと食事スペースは一人で利用できる場と共有スペースをそれぞれ設けた。天井の一部をガラス張りにする事で自然光が差し込み、周囲の自然と密接な関係を生み出せるようにした。

■講評

本課題の敷地は、公園内の池のほとりにあり、隣接する施設などはなく、計画するものはどの方向にも開くこともできるし閉じることもできる。故に敷地から手がかりを見つけることが、学生にとっては難しいようで、建築の内部と外部（周辺環境）の間をどのようにつくるか、「半屋外空間」をどのようにつくるか、を深く考えるように

と伝えている。

木村案は、この課題では多くアイデアとして出てくる円形を用いた案である。円形を用いた場合、周辺に対して連続的につながっていきける形状ではあるが、中心性が強くなりすぎる傾向にある。この案はいくつかの円を巧みに配置し、重ねながら、my space と other を上手く計画しており、光を感じることのできる半屋外空間が立体的に配置されている。

それから書き添えたいのが、授業時のエスキースを自分なりに消化して、毎週、ブラッシュアップさせたスタディ模型を持参し、ここに至った経緯も、建築をつくる上でとても大切であるので評価したい。(木内厚子)

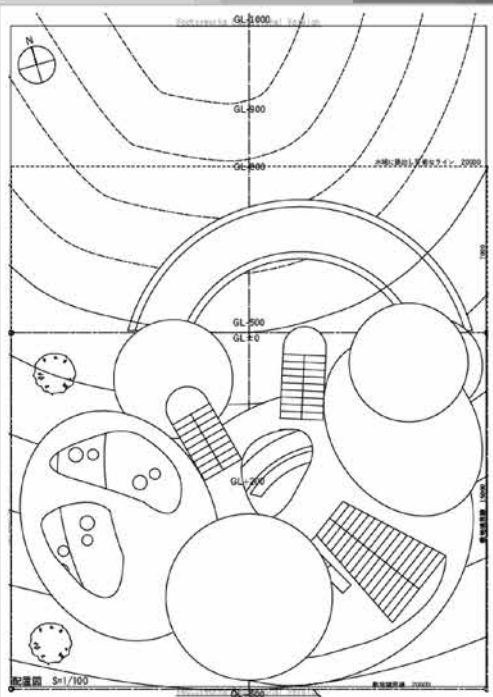
日建学院賞


## My space + others


# スイーツアイランド

**コンセプト**  
 この公園は多くの地域住民によって利用されているが、利用目的が年齢層によって異なるため交流する機会が少ない。そこで世代間で共通の目的を持って、お菓子を作るための施設と自然の中でくつろぎながら食事がとれるスペースを提供する。

**建築物について**  
 キッチンと食事場は一人で利用できるスペースと他人と共有できるスペースのそれぞれに設置。天井の一部をガラス張りすることで自然光が差し込み、四方の開放的空間からは自然とのより密接な関係を演出する。







水辺に佇むマイスペース+others	
表紙	
一年 木内先生班	
4033 木村花漣	

酒井英舞

「音楽がもたらした感動を空間に宿す」

■コンセプト

この建築は、私が音楽と出会い、心を揺さぶられた一連の体験をもとに創り上げたものである。

ある日、芝生の上で寝転びながら耳にした柔らかな音楽。その音が心の中に波紋を描き、自然と音の出どころへと足を向けさせた——この心動かされる瞬間を、建築空間として表現した。訪れる人々が心から安らぎを感じられる

る芝生エリアを出発し、音に誘われるようなアプローチや階段で中心部へと導かれる。波のような形状のスロープや、座ることのできる長い段差の階段は、人々が自由に空間を楽しむための工夫である。そして、中心の演奏スペースは、音楽の波紋が広がる様子に似た同心円状の形状となっており、音楽とその余韻を身体全体で感じることが出来る設計とした。

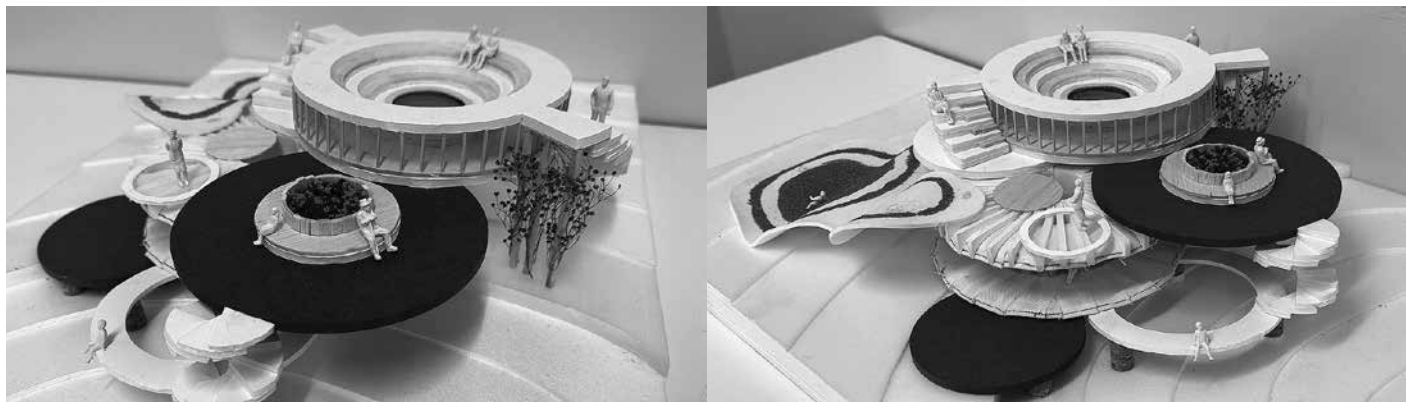
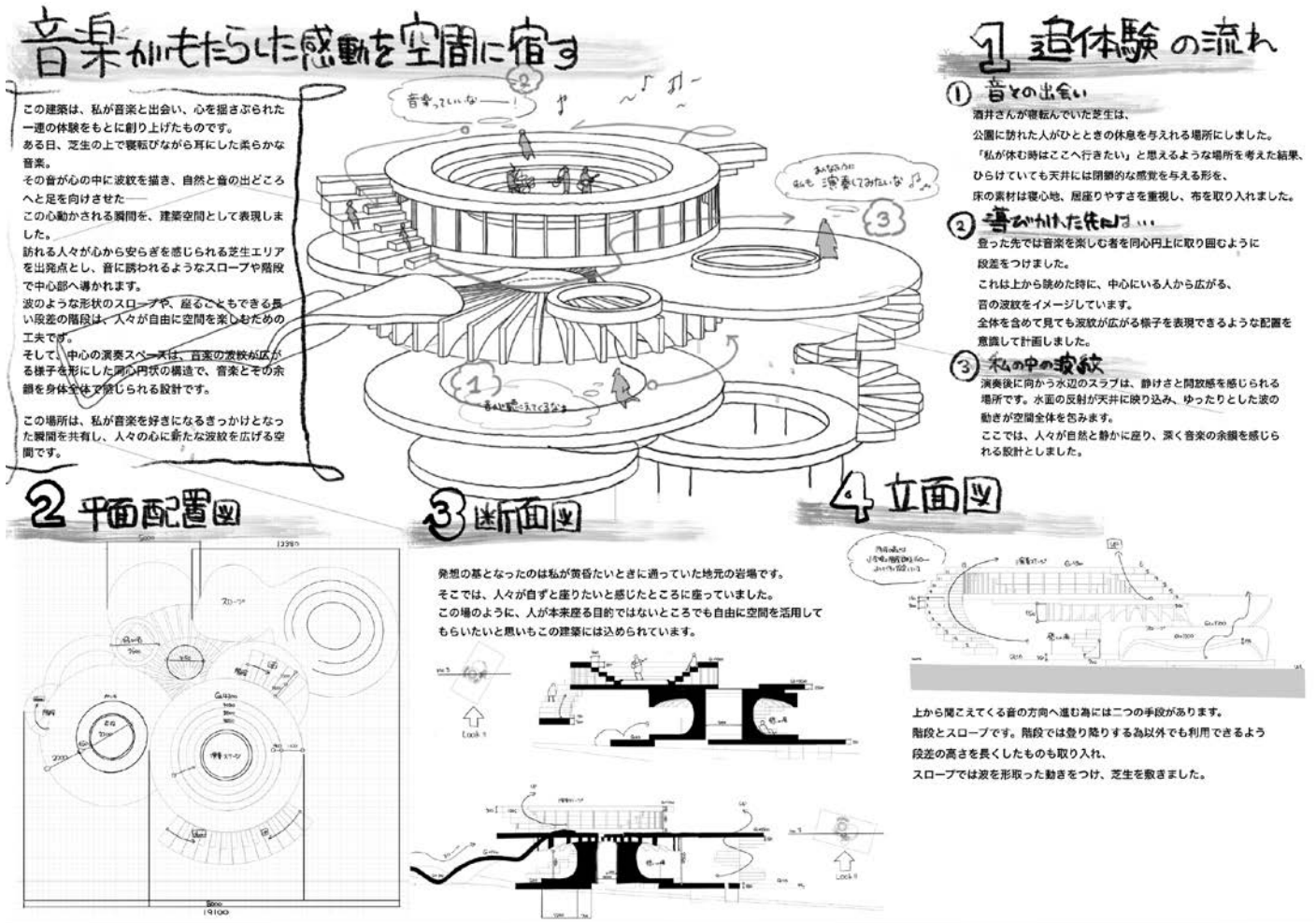
■講評

本課題では、自分のための空間であると同時に自分以外の誰かとの接点を想定し、その場所を共有することが求められている。酒井さんの提案では音楽を基軸に、空間と作者の想い・体験を共有し、その造形の如く緩やかにつながりを作る仕掛けとなっている。

「音」を音の輪、波紋へと造形化した。その立体的な重なりの中いくつかのポケットスポットが生じており、

おのおのの居場所を作っている。それぞれは、他者との距離、聴く、座る、寛ぐという動作から導かれた緻密な寸法からなる。どこに行んでいても同じ音楽を耳にし、少し距離を置いた他者と音楽を通じた想いを共有する。形のない「音」と建築を介して人々をつなぐというコンセプトメイキングや有機的な造形も含めて共感でき、魅力的な作品になっている。また自らが心地の良い居場所を選ぶことや他者との程良い距離感は、現代のコミュニケーションの在り方を体現した建築になっているという点でも興味深い。彼女の感性が垣間見られる素材感豊かでユニークな模型も印象深く、これからの活躍に大いに期待する。(奥村梨枝子)

日建学院賞



# 2年生（前期：デザイン演習Ⅰ、後期：デザイン演習Ⅱ）

	前期	後期
【担当】	佐藤 信治 江川 香奈 長谷川洋平 菅原 遼 金子 太亮 田中 克典 船曳 桜子 星 裕樹 森田 敬介	長谷川洋平 勝又 洋 田中 克典 玉上 貴人 筒井 紀博 船曳 桜子 星 裕樹 森田 敬介 山田 晶子

## デザイン演習Ⅰ（前期）

### 第2課題

#### 「環境と住宅を考える 一水辺に建つ住宅」

（出題：金子太亮、船曳桜子）

#### 【課題趣旨】

社会的な背景を踏まえて現代の家族像や生活スタイルを念頭に、周辺環境を考慮した住宅設計を行います。敷地は江東区門前仲町付近、江戸時代の埋立地に造られた運河の大横川に面した古くからある街区を設定しています。都心で利便性が高いと同時に、富岡八幡宮や深川不動尊の門前町など江戸の下町風情や足跡を残した地域です。大横川護岸沿いの散歩道とレベル差を有しながらも視覚的なつながりを持っています。敷地をA～Cから選択し、その特性を捉えた計画をしてください。

#### 【学習目標】

現代の家族像や、その暮らし方について考察/住空間のスケールや基本寸法を習得/エスキースからプレゼンテーションまでのプロセスを学ぶ/製図記号等の図面表記を習得/住宅としての機能だけでなく空間的魅力を考察/現地調査を通じて敷地の特性を読む

#### 【敷地条件】

〈敷地A〉江東区永代2-1-6周辺  
準工業地域、建ぺい率:60%、容積率:300%、その他:第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域

〈敷地B〉江東区永代2-19-10周辺  
準工業地域、建ぺい率:60%、容積率:300%、その他:第3種高度地区、準防火地域、下町水網地域

〈敷地C〉江東区門前仲町2-1-4周辺  
商業地域、建ぺい率:80%、容積率:400%、その他:防火地域、下町水網地域

〈敷地A～C共通事項〉  
・最高高さ制限10m以下  
・構造は自由  
・地盤は良好

#### 【設計条件】

- ・家族の生活スタイルを各自設定する。
- ・家族構成は2～6人程度、年齢や性別、職業などの属性は各自設定する。
- ・キッチン、ダイニング、リビング、風呂・洗濯室、主寝室、個室、便所、その他を適切に計画する。
- ・動線を熟考して計画する。家事動線に十分配慮する。収納を適切に設置。
- ・駐車スペース（最低1台）を家族構成に応じて適切に計画する。
- ・家族の距離感や関係性に配慮する。気配が感じられる距離を取り入れる等。
- ・現地調査を実施し、敷地の特性や方位を踏まえた計画とする。
- ・内部と外部の境界について意識する。
- ・延床面積120㎡～200㎡程度とする。
- ・階数制限なし、最高高さ制限厳守。

## デザイン演習Ⅱ（後期）

### 第1課題

#### 「街のアートミュージアム」 （出題：玉上貴人、星 裕樹）

#### 【課題趣旨】

門前仲町エリアの、都心のオープンスペースである都市公園に隣接した計画地において、街のアートミュージアムを計画するものである。タイトルに「街の」とつけているのは、街の顔となり、地域とつながりを持つ建築の提案を求めるためである。アートミュージアムが街にどのような影響を与えるのか、選定した展示コンテンツにふさわしい空間の質はどうあるべきか、敷地の特性を読み取り、具体的なイメージを膨らませて図面を描いてほしい。

#### 【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：3,813.12㎡

- (1) 敷地形状、接道条件、周辺状況等は添付資料敷地図を参照。
- (2) 現況は区立牡丹町公園として利用されており地盤の起伏が3mほど

あるが、更地として計画する。

- (3) 敷地の西側には、第2課題の集合住宅の敷地が隣接している。
- (4) 南側には、古石場川親水公園が隣接。
- (5) 敷地は北側の幅員約15mの道路、東側の幅員約8mの道路と接する。
- (6) 用途地域：準工業地域、建ぺい率60%、容積率300%、準防火地域。
- (7) 電気・ガス・上下水道完備、地盤良好。

#### 【設計条件】

- ・延床面積：約1,000㎡とする。
- ・構造形式は自由。階数は地上2階建て程度、必要によって地階も可。

#### 【展示コンテンツ】

- ・立地環境からどのような展示コンテンツがふさわしいかを考察すること。街のアートミュージアムとしてふさわしい展示テーマを各自選択し、具体的に設定すること。
- ・主要なコンテンツとして建築、彫刻、絵画、音楽、文学、演劇、映画、メディア芸術などが挙げられる一方で、漫画、アニメ、絵本など身近な題材もアートとして評価されている。自由な視点でテーマを設定してよい。

### 第2課題

#### 「地域とつながる都市型集合住宅」 （出題：筒井紀博、船曳桜子）

#### 【課題趣旨】

古石場川親水公園の一部を敷地として、都市との関係性に配慮した集合住宅を計画するものである。

敷地は門前仲町駅から徒歩3分程度の住宅エリアに位置する。門前仲町は、深川不動尊や富岡八幡宮の門前町として古くから賑わいある街として発展してきたエリアであり、少し広域の視点で見ると、北側の清澄白河エリアでは、アートギャラリーや話題のコーヒーショップに人々が集まるなど、新たな文化圏が形成されつつあり、下町のストリートに新たな賑わいを見ることができると期待されている。

昨今の都市型集合住宅の接地階は、たんに集合住宅としてのエントランス空間のみで形成されているのではなく、カフェやワークスペースなど住人以外が利用できる機能が積極的に導入されている。都市に住む人々のライフスタイルの変化により、集合住宅は「まちへ開かれていくスタイル」へと変わりつつあり、本設計課題では、下町情緒ある都心の住宅エリアにおいて、「そこで暮らす人々と地域の人々が自ずと交流できるような、魅力的な都市型の集合住宅の提案を求めている。

計画に当たっては、とくに以下のことに配慮すること。

- (1) 居住者間の交流や、居住者と地域の人々が自然と交流できるような公共空間を計画する。
- (2) 第1課題「街のアートミュージアム」とのつながりを計画する。
- (3) 住戸と古石場川親水公園との関係、共用部と親水公園との関係を考慮して計画する。
- (4) 80人のための新しい暮らしを提案する。

#### 【計画敷地および周辺条件】

計画地面積：2,493.16㎡

- (1) 敷地は、添付資料敷地図参照のこと。
- (2) 敷地は準工業地域および準防火地域。建ぺい率の限度は70%、容積率の限度を150%とする。地域、地区等および特定行政庁による指定、許可等並びに日影による中高層の建築物の高さの制限はないとする。
- (3) 電気・ガスおよび上下水道は完備。地盤は良好。
- (4) 更地。現存する建物はないとする。

#### 【設計条件】

- ・地上2階建て以上を条件とし、5階建て程度までの中層集合住宅とする。構造種別は鉄筋コンクリート造とするが、一部を他の構造種別と併用可。
- ・規模は80人が集まって住むために必要な戸数とする。1戸の床面積および間取りの設定は自由。

し、住み手が交流できる場とした。

依田怜佳

「土間が紡ぐ物語」

■コンセプト

計画地は桜が植樹された公園に隣接しているため、住み手だけではなく、道路の通行人に対しても公園の桜が見えるように住宅に吹き抜けをもうけ、外部と内部の一体感を生み出すようにした。この住宅は祖母と夫婦が暮らす住宅であり、祖母の暮らしと夫婦の暮らしを分けつつ、交わりを生み出すよう、吹き抜けの1階部分は土間と

並ぶ。「幅広の廊下」は、1階は縁側として、2階はカウンター、3階は本棚で、「土間空間」と「リビングと個室」を特徴付けてつないでいる。土間空間は、3枚に分割された傾斜の違う屋根が架けられ、その隙間から採光・通風を室内に取り込み、刻々と変化する光や風を楽しむ環境に呼応した空間となっている。ここでは、みんなの玄関として日常利用され、休日はダイニングとして1つに集まる場になるのも良い。強いて言うなら、水辺との関りについても言及してほしかったが、土間空間を介して、祖母を見守り、核家族における孤独感を和らげ、それぞれの距離と時間を紡いだとても魅力的な住まいの提案となっている。(金子太亮)

■講評

核家族と祖母が共に暮らす住宅で、「紡ぐ」をキーワードにした住まいの提案です。

1階が祖母の住まい、2、3階が核家族の住まいで、三層吹抜けの土間空間がつながり構成です。平面計画は、パブリック、セミパブリック、プライベートを意識して、「土間空間」(パブリック)に面して「幅広の廊下」(セミパブリック)があり、それに各世帯の「リビングと個室」(プライベート)が

日建学院賞

# 土間が紡ぐ物語

住人設定：夫婦家族（夫、妻、子供）  
 祖母

A敷地は裏に公園があり、桜の木が立っている立地となっています。そのため、この敷地に住む人だけではなく道路側の通行人にも裏側の桜が見えるように横の吹き抜けを写真のように作り、外と中の一体感を生み出しました。

又、横の吹き抜けによって1階部分の住居人が交わる土間は外から見えなくなるようにくもりガラスをつけるようにした。

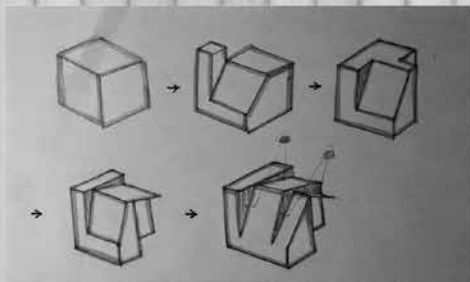


この敷地の住宅に住む住人設定では祖母と夫婦家族と一緒に暮らす住宅と設定した。祖母の暮らしと夫婦家族の暮らしを分けさせつつ、決して祖母と夫婦家族の交わりを断絶してしまわない家を作ろうとし、この土間が生まれた。

1階部分を祖母が暮らす空間とし、土間と祖母の空間を縁側で分け、祖母のプライベート空間を作りつつ、縁側に座っていれば外から帰ってきた夫婦家族と会うことができ、また、この土間は幅4mあるため、休日に机を広げて一緒に食事をとることもできる。又土間から上部を吹き抜けとし、夫婦家族と祖母の空間の重なりを作ることを意識した。

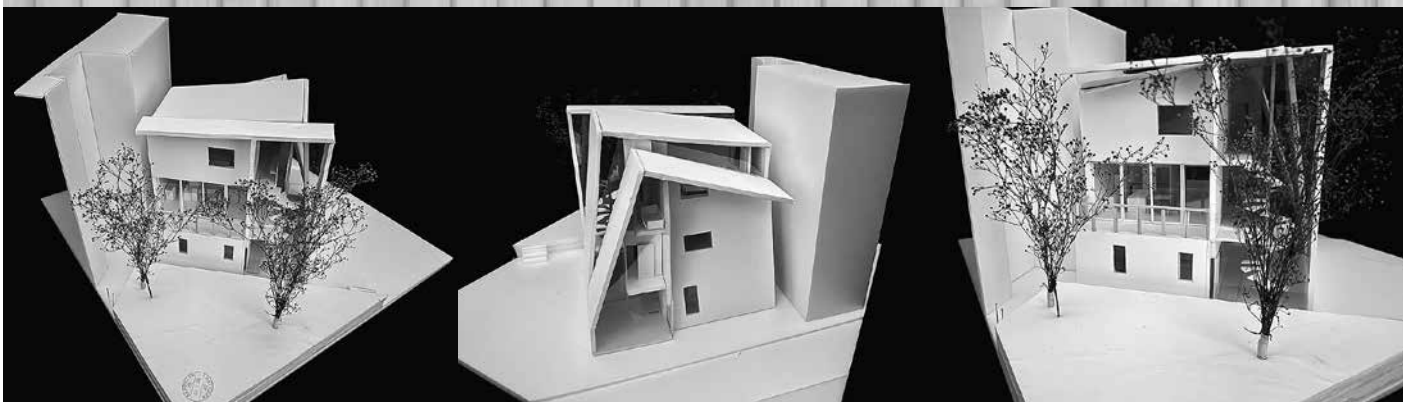


夫婦家族のみの空間も意識し、2階から上部を一部吹き抜けを作り、夫婦家族同士の空間の重なりを作った。祖母と夫婦家族の距離感を適度にとれる空間を目指した。



←  
 ダイヤグラム

環境と住宅を考える		
表紙		
2年	金子師班	
3135	依田 怜佳	



デザイン演習 I 第2課題  
環境と住宅を考える  
—水辺に建つ住宅—

川俣 達

「SNOW HOUSE」

■コンセプト

東京の都心部にスキーヤーが集まれる場所をつくりたいと思い、そのような施設を取り入れた住宅を設計した。1階から1.5階の駐車スペースまでが来訪者のスペース、2階が住宅となっている。公園側は大きなガラス壁の開放的な空間とし、公園を通りかかった人々の興味を引くように設計した。内部には坂道となる小道があり、S字に

滑っていくアルペンスキーをイメージしている。屋根はスキージャンプをイメージして形状を設計した。2階の住宅はリビングを開放的な空間とし、家族同士のコミュニケーションを誘発させる場とした。

■講評

私の授業では1人でも多い設計課題の成功体験を目指して、とても短い課題期間の中で深く案を考えながら作業時間も確保するために、コンセプトとプランの早い決定を最も大切なことの1つとしています。具体的には、1回目のエスキースで必ず10個のコンセプトを熟考して提出し3つに絞り、2回目のエスキースで3つ以上の平面図またはデザインを無理にでも絞り出して提出すること、そして提出1週間前に清書図面を完成させることをクラスのコミットメントとしています。

川俣達さんの作品は、こうした意味でも優れた取り組みでした。敷地見学から2回の授業ですでに『スキーヤーが集うメンテナンスショップ』という

コンセプトと『遊歩道との土地の段差を長い斜面として屋内スペースを段々に配置する』という計画の原型に行き着くことができました。

プランが早く決まり気持ちに余裕ができるので隣地を含めた小路のあり方や円い光庭まわりの階段の処理から2階の動線など、短い課題期間の中にあってもエスキースごとにブラッシュアップしていく時間がとれて、難しい曲面の壁と曲面の屋根が接合する模型も納めることができました。

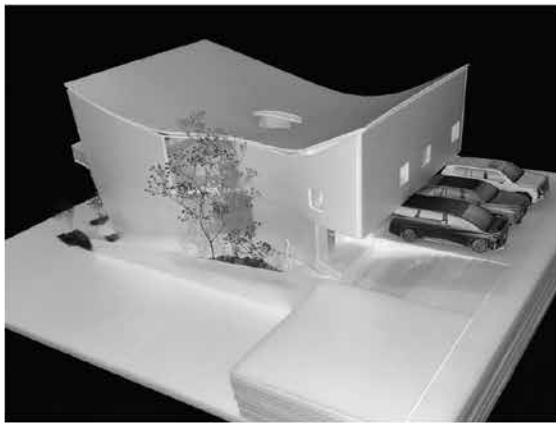
これから大学3年・4年と成長して社会に出て働き、家庭も持つかも知れないけれど、いつも気持ちを楽しんで設計の仕事を進めたいと思っています。(森田敬介)

日建学院賞

# SNOW HOUSE

## Concept

東京の都心部でもスキーヤーが集まれる場所を設計しました。



## Summary Of Design

大学でスキー部に入り、スキーを好きな人は雪国だけでなく東京にもたくさんいると知ったので、東京の都心部にスキーヤーが集まれる場所を作りたいと思い、そのような施設を取り入れた住宅を設計しました。

1階から1.5階の駐車スペースまでがお客さんとスペース、2階部分が住宅スペースとなっています。

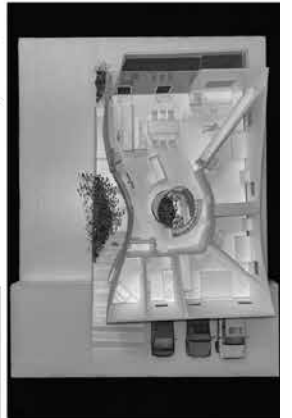
## Outside Space

公園側の1階は大きなガラス壁になっていて、とても開放的な空間を造りだしています。そのため、公園の道を通った際にお客さんの興味を引くように設計しました。お客さんの出入口はスキーを運搬させるような、森に入っていくイメージに木が設置してあります。その出入口の東側には、坂道になっている小道があります。この小道は、S字に滑っていくアルペンスキーをイメージして設計しました。公園側と道路側を自由に移動することが出来ます。屋根はスキージャンプをイメージして設計し、中庭が一番低い地点となっています。雨が降ると、中庭のガラスを雨が伝って滝を作り出し、とても幻想的になります。駐車スペースは3台分、1台は自宅用の車となっています。スキーへ行く際には大きな車が好まれるので、大きめ乗用車で駐車できるようなスペースになっています。



## Private Space

住宅のメインは2階ですが、1.5階の玄関の横に、キャンプ道具やテニスなどのアウトドア道具などを置けるスペースを設けました。2階では、リビングを開放的な空間にし、家族同士のコミュニケーションが多くなるように設計しました。部屋は3部屋+書斎、脱衣所、浴室、トイレがあります。書斎は、図面を描いたり、パソコンで作業したり、本で調べものをすることやコピー機を使用することが出来ます。より良い建物を設計するために、製図机の前の窓は大きめになっていて、公園側の景観を楽しみながら設計することが出来ます。書斎の隣の部屋とその隣の部屋は姉妹の部屋となっていて、履の置き場りが自由にできるように両側から開けることが出来る共有のクローゼットとなっています。浴室では、湯船にゆっくり浸かりながら小道の様子を眺めたいことが出来るように窓を配置しました。公園側には大きめのバルコニーがあり、水辺と公園の空間を楽しむだけでなく、バーベキューなどをして楽しむことも出来ます。バルコニーからすぐ近くにキッチンがあるため、バーベキューの下準備をしてから持ち込むことも可能です。



## Customer Space

お客さんの出入口は公園側が基本となっていますが、スキー板などの運搬も出来るように、1.5階の駐車スペースに繋がる出入口を設けました。1階から1.5階に向かう階段にスキー板を飾ることのできるスペースを設け、OFFシーズンなどで使われない時はそこに置いておくことが出来ます。お客さんそれぞれの自宅、板のメンテナンスをするのは難しいと考え、チューンナップルームという板のメンテナンスをする場所を設けました。スキーから帰ってきてこの場所に寄り、チューンナップをして板を置いておけるという仕組みです。階段の手すり替わりににブーツ棚があり、ブーツも置いておくことが出来ます。公園側から一番近いスペースには、シアタールームがあり、スキー大会の録画や、撮影してきた滑っている映像を見て反省会をしたりすることが出来ます。映像を映し出す壁の裏には小さいキッチンがあり、コーヒーやお茶、軽い食べ物などをすぐに用意することが出来ます。



もインドアのように快適に過ごせるようにした。バルコニーは住宅のフロアをずらすことで、各階にリラックススペースやサウナ、プールなどを設けた。

小口紗也加

「屋外でものんびり快適に過ごせる空間」

■コンセプト

夫婦ともにお菓子づくりが好きで、アメリカのお菓子や手作りのお菓子を売っている住宅である。住宅は、家族全員が集まることができるような吹き抜けとステップを利用し、コミュニケーションを取りやすいリビングを設計した。リビングから直接バルコニーに入ることができるようにし、アウトドアで

保。2つめは立体的に建物をスライドさせることで、上層の住宅階にも眺望の開ける大横川側に「テラス」を創出している。立体的なスライド効果は建築計画にも活かされ、層間のズレによりカフェと住宅のテラス間の視線を緩やかに制御している。また、住居側の「庭」もスライドした住宅ボリュームが北側建物からの視線を緩やかに遮断し、立体的に伸びやかな屋外プールのある庭を創り出している。明快なダイアグラムを初期段階で取りまとめ、スタディ模型も早期に着手し、スライドする室内の連続性についても入念にスタディを行っており、水辺を楽しむライフスタイルが想像できる作品となった。  
 (田中典興)

■講評

B敷地は北側に6m道路を挟んで雑居ビルが立ち並び、南側は大横川に直接面している。このコンテキストに小口案は「カフェを経営する住宅」という設定を行った。

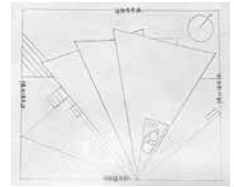
カフェと住宅の二面性に対して、2つの形態デザインを試みている。1つめは建物平面を三角形にすることで、それぞれ「テラス」と「庭」を確



リビングから直接バルコニーに出られるようにして、アウトドアでもインドアのように快適に過ごせる空間を考えた。バルコニーは、住宅の階をずらして作ることで2階、3階に設けることができ、リラックススペースや、サウナ、住宅側の庭にはプールやテラスを設置。住人が建物の中だけでなく、水を眺めたり、気持ちいい空気を取り入れながら外でものんびり過ごすことができるような親水空間を設計した。家族で様々な利用の仕方があり、特に父はアメリカ人なので、アメリカから友人が遊びに来てBBQをすることも可能。



<配置図>



<ダイアグラム>



視線定まらない 背景が広がるように見える。

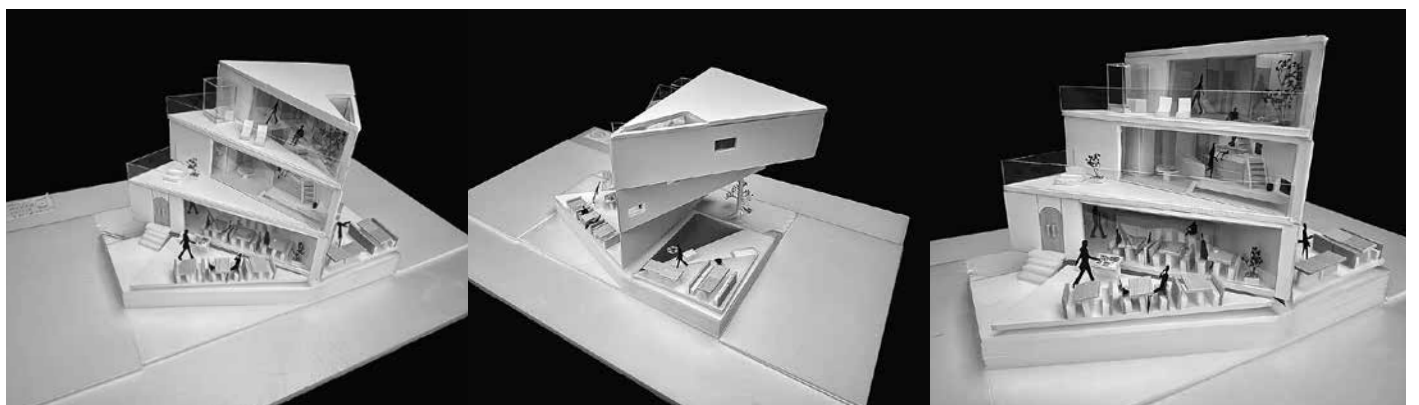


夫婦が営むカフェを建設するのに、敷地Bは商業地域であり、駅が近いためひとが集まりやすく、河川を間近で見れるのでテラスを作って景色を楽しみながら、それぞれのお茶タイムを楽しむ空間を作るのに最適な敷地であると考えた。

夫婦共にお菓子作りが大好きで、アメリカのお菓子や、手作りのお菓子を売っている。よって、誰かが作り始めたら家族みんなが集まれるように吹き抜けとステップを利用し、コミュニケーションを取りやすいリビングを考えた。



水辺に建つ住宅	
表紙	
2年 田中先生班	
3028 小口紗也加	



渡辺 徹

「Sculpture village 彫刻村」

■コンセプト

門前仲町に計画された美術館は、北の大通りと南の親水公園に挟まれた、周囲より1000mm高い地盤に位置する。1880年以前に埋立てられたこの地では自然を感じにくいことから「土」をテーマに陶彫を展示し、体験もできる美術館を構想した。中央に池を設け、その周囲に3つの異なるボリュームを配置する。池を囲む散策路は、水や自然

を感じながら心を整える導入空間とした。建築は地形を活かし、掘り起こしたようなコンタや高低差により、公園との一体感を生み出している。北にカフェ、西に企画展示室、東に常設展示室と体験ブースを設けた。体験ブースでは土をこね、彫刻し、焼き固める工程を体験できる。断面にレベル差を設けることで空間の変化を演出し、池や散策路、多様な居場所を計画した。美術館全体が1つの作品のような、特別な体験の場となることを目指す。

■講評

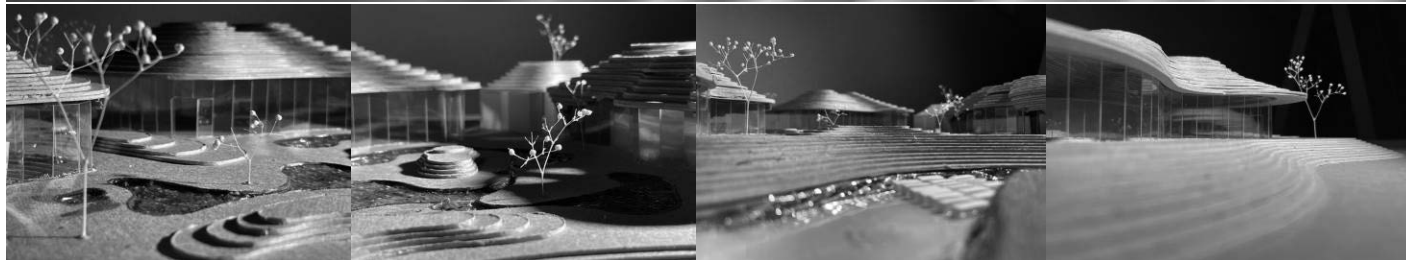
美術館の計画敷地は、隣接する親水公園よりも1m地盤が高く、境界は擁壁になっている。計画の上で親水公園との関係をどう考えるかは、この敷地の魅力を引き出す大切な要素の1つだ。彼はこの1mの段差を「地形」と考え、丘が連なるような「土」をテーマとした美術館を提案した。  
ゆるやかな地形と分散配置した建物

が程よいスケールの庭をつくり、人々を心地よく導いている。建物はガラスのファサードが垂直に立つ他は壁も天井も土を掘り抜いたような曲線で構成されている。室内のフロアレベルはGLよりも少し下げ、ガラスを通して庭の風景が内部の展示空間まで滑り込む。地表とつながりながらも土の中

にいるような不思議な空間の中、来場者は土の作品を鑑賞し、土と触れ合う。  
当初彼は、過去や未来といった「時間」をどうしたら美術館で表現できるのかを模索していた。「Sculpture village 彫刻村」は、「土」を通して時を感じることができる、イメージと展示内容がうまく結びつき形になった作品である。  
(山田晶子)



門前仲町に位置する敷地に、「土」をテーマとした美術館を計画した。敷地は北側に通道、南側に親水公園が広がり、周囲の地盤よりも約1000mm高い特徴を持つ。また、この敷地は1880年以前に埋め立てられた土地であり、周辺の住民が自然の大地を直接感じることは難しいと考えた。そこで、陶彫を展示するだけでなく、来館者が実際に土に触れ、陶彫を体験できる空間を設けた体験型美術館を提案した。  
この美術館では、土をこね、彫り、焼く工程を体験できるブースを設置し、作品を鑑賞するだけでなく、自らの手で創造する機会を提供する。また、周囲の都市空間とは異なる、まるで時代を遡るような特別な体験を生み出す場とした。



敷地の中心には池を設け、その周囲に3つの異なるボリュームを持つ建物を配置した。池を囲むように整備した散策路を歩くことで、来館者が自然との触れ合いや静けさを感じながら、展示空間へと気持ちを整える導入部となるよう計画した。建築は、まるで地面を掘り起こして生まれたかのようなコンタを持ち、陶彫作品を際立たせる空間とした。

立面図



断面図



断面計画では、各空間にレベル差を設け、来館者が空間の変化を感じながら移動できるようにした。これにより、空間に奥行きと緊張感を与え、美術館全体が一つの体験として立ち上がる構成とした。

敷地の高低差を活かし、北から南、南から北へと続く緩やかな段差を設けた。これにより、親水公園との一体感を高め、来館者が自然と調和した空間を移動しながら体験できるようにした。

配置図



平面計画では、北側の賑わいに応える形でカフェレストランを配置し、西側に企画展示室、東側に常設展示室と体験ブースを設けた。各施設は機能ごとに分節されながらも、池と散策路によってゆるやかにつながる構成とした。平面的には池や散策路、断面的には地形を活かしたレベル差によって、多様な居場所とシークエンスを創出した。来館者が美術館内を巡る中で、「土」と深く関わる特別な時間を過ごせる空間を目指した。

水野隼斗

「ひたひた 鶴田謙二美術館」

■コンセプト

親水公園と隣接している計画地と水路の関係性から水にかかわった建築・展示をしたいと考え、私は漫画が好きなので、漫画家の鶴田謙二の作品を展示する美術館を計画した。

代表作である「Forget-me-not」はベネチアを舞台にしており、今回の計画ではこの世界観、ベネチアの街並みを美術館の設計に落とし込もうと考

えた。街の中に水路が張り巡らされたベネチアの景観の水路と建物の形を単純化して考えると、建物のボリュームに水路が挟まれた谷型のシルエットが現れる。このシルエットを来館者に見せる設計が美術館のねらいになっている。

また、来館者を内観に誘導するために開口部を減らすことで興味を引き付け、反対に館内は開口部を広く設け、人や視線が自由に行き交うことができるようにし極端な対比を作ることで、館内と水路の関係性を強調する。

■講評

漫画家の鶴田謙二の作品を展示する美術館の計画である。代表作の舞台であるベネチアの街並みを、水路を埋め立て整備された親水公園が隣接する敷地に重ね合わせている。

東京は江戸時代から舟運の発達により水の都として栄えた歴史があり、ベネチアとの類似性が指摘されてきた。

とくに深川周辺は水路が縦横に張り巡らされ、そうした歴史的な脈が色濃く残る地域であり、これより本計画は単にベネチアの街を模すだけに留まらず、かつての水辺の記憶を呼び起こす提案として評価できる。

具体的には、ベネチアの建物に囲まれた水路がある街並みを想起させるように、大きな開口部を持つ矩形の展示室が、中庭側の水路を取り囲み配置されており、水と建築との関係を抽象化して表現している。外側はあえて開口部を絞り、よくデザインされたスリット状の開口部やコーナーウィンドウを配置しているが、もう少し内部の様子がうかがえる場所があってもよいと感じた。  
(長谷川洋平)



ひたひた  
鶴田謙二美術館

設計趣旨

計画地に隣接する古石場川親水公園との関りから、水路を引き込んだ建築・展示展示コンテンツには漫画家の鶴田謙二の作品を選んだ。

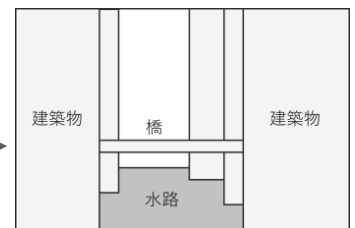


鶴田謙二の代表作「Forget me not」がベネチアを舞台にしていることから、ベネチアの街並みや水路をモチーフにした設計をする。

敷地と親水公園の関係性  
×  
ベネチアの街と水路の関係性



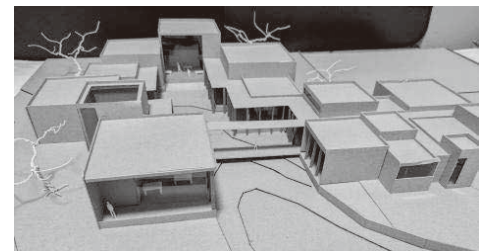
単純化



- 1, レベル差に従って水路を設定
- 2, 水路を挟むようにボリュームを配置
- 3, ボリューム間を繋ぐ橋を配置
- 4, 水路に面するボリュームを公開部分  
そうでない部分を非公開部分に設定



展示室のボリュームに水路を挟んだ谷型のシルエット



木村舞優

「Future artist's nest  
 未来の芸術家のすみか」

■コンセプト

機能性やコストが重視され、無機質化した現代の都市設計や建築デザインから自然の豊かさを取り戻し、人々の温かみや個性の感じられる「居場所」となるような集合住宅を設計した。バイオフィリックデザインを通して、江東区が目指す「みどりの中の都市」を実現するために、植物が人間に与える

影響の1つである「創造性の向上」に焦点を当て、「音楽」「美術」「建築」「服飾」の4分野を学ぶ学生を対象に未来の芸術家のすみかを築く。これらの分野は創造的な表現活動であり、個人の感性や思想が大きく影響されるため、80人の共同生活を通して互いに高め合うことで、それぞれの創造性に反映させてほしい。滑らかで視界の開けた曲線的な動線を持つ空間に植物を点在させ、人間の本能の部分から創造性を高めるとともに、学生間が互いに影響を及ぼし合える空間を提案する。

■講評

音楽・美術・建築・服飾、この4分野を学ぶ学生のための集合住宅。

各階ごとに用途を分割し、1階は作品公開の場、2階は作業空間、3階が寝室をベースとした個室、4階は共有リビングとしている。3階の個室はカプセルホテルのような最小モジュールで展開させ、2階と4階の公私の棲み分けを意識させるフィルターの役割を

持つ。この空間構成によって、居住者がさまざまな意識下において、違和感なく交流し、創作活動を活性化させる仕掛けが特徴的である。

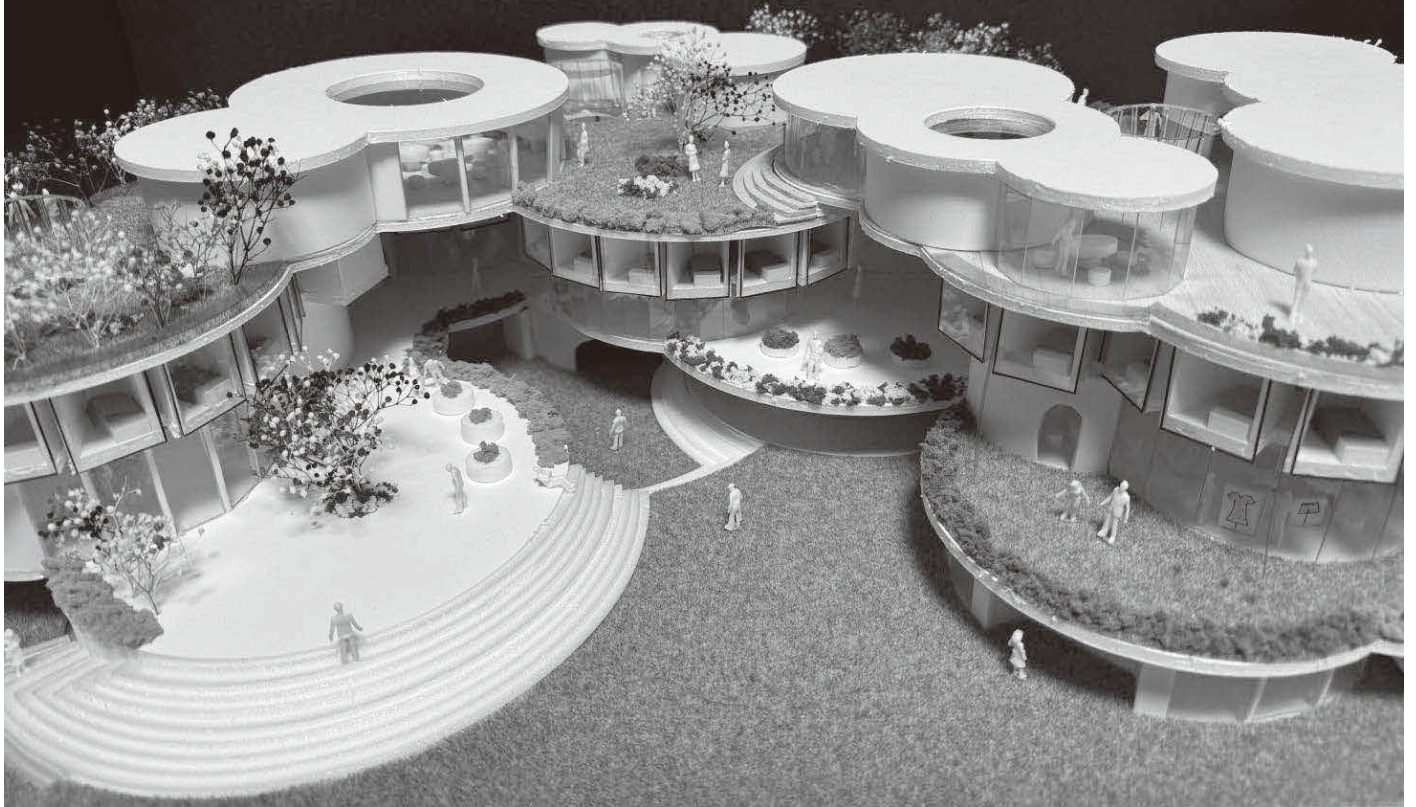
周辺環境に対しては、低層階は隣接する親水公園の一部のような動線計画とし、界隈性を感じながら人々が気軽に立ち寄ることのできる空間構成。

各階が微妙なズレを伴いながら積み重なることにより、上下階とのつながりも感じられ、そのズレを活かした植栽や水の流れといった自然との共存によっても、創作意欲を高める。

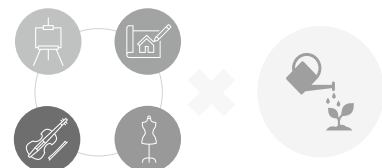
木村さんが毎週、提案と問題提起を自ら行い、ブラッシュアップしていく姿が非常に高い熱量を感じた。今後の活躍も楽しみである。(筒井紀博)

# Future artist's nest

未来の芸術家のすみか



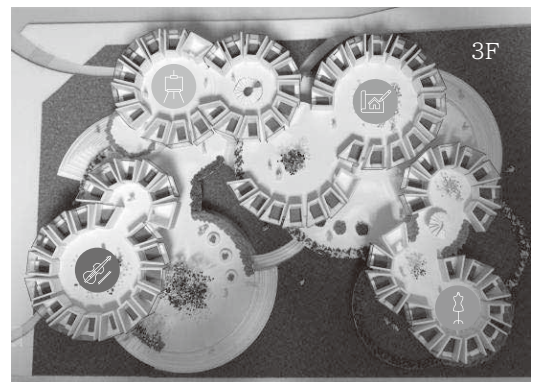
植物が人間に与える「創造性の向上」



3Fを個人が1日のはじまりとおわりを過ごす生活の軸とし、それぞれが思うままに生活や人々の交流を展開できる。睡眠を主とした居室であり生活のリセットの場となる。



- 居住者共有スペース
- 居住者居室
- ワークスペース
- 共有スペース



依田怜佳

「alley  
 ~路地から広がる賑わいの循環~」

■コンセプト

現代の集合住宅は住戸が集合した住まいであるのに、住民同士の人間関係の稀薄化が問題点として挙げられている。私は、この問題から自然を感じ人々との関わりがもてるように、そしてその自然と人々の関わりが循環し賑わいの循環となっていけるような集合住宅を構築しようと考えた。

門前仲町の特徴として、江戸情緒あふむ町並と自然環境豊かな環境が広がっている。また、路地が多く存在しており、その路地から多くの飲食店が並び、賑わいが溢れている。

この特徴から、積層路地という、門前仲町の地域に存在する路地に似せて住戸を配置した平面の路地が層になって積み重なるようにし、フロアごとの空間の空きと層によって生まれる賑わいの輪が生まれるような構想とした。フロアごとにシェアダイニングやワークショップなども加え、地域住民との交流場も生まれる。

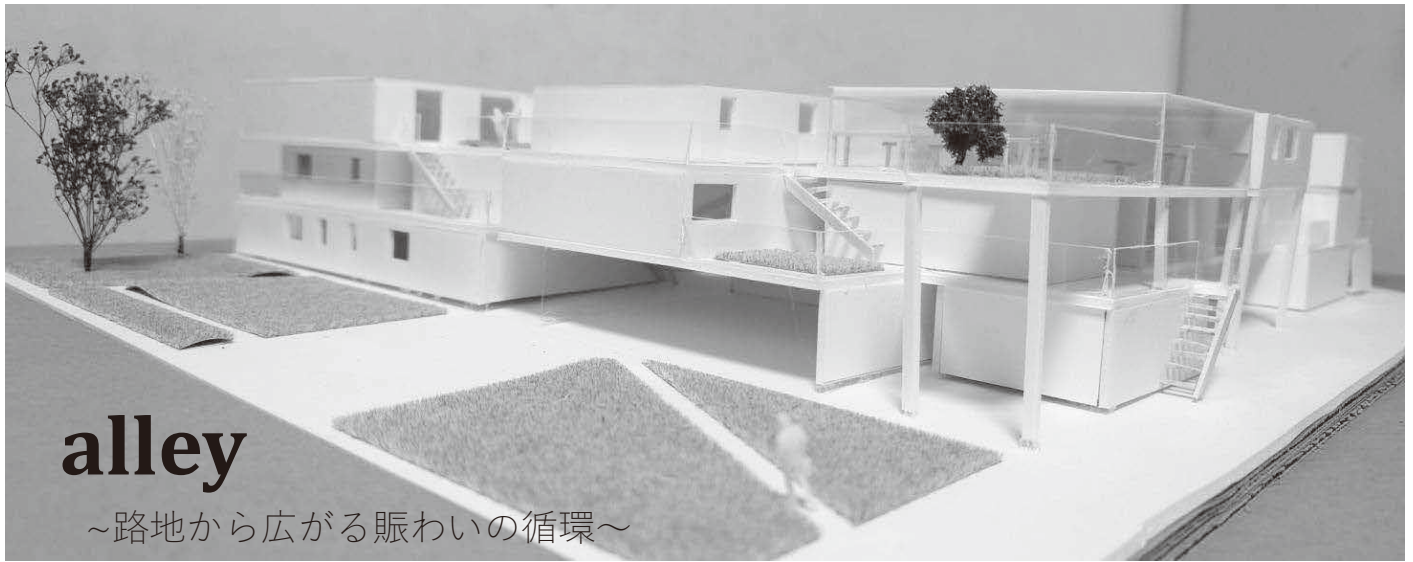
■講評

路地の魅力とは、公私の境界の曖昧さ、風景が複雑に絡みあう奥性、居住者の生活が滲み出す距離感にある。依田さんは、路地の特性に着目し、路地によって描かれる住空間を立体的に重ね合わせることで、人と人、人と街をつなぎ合わせることを目指した。作品の中では語られていないが、実際の敷地周辺の地図から路地をトレースし、

住環境にあわせて平面図を編集、余白を与えながらボリュームを整え、周辺環境との関係性を再構築するといった設計手法が新鮮であった。そして、路地を住居の外部空間で完結させるのではなく、内部空間まで展開し、地域のアクティビティをバランスよく取り込みながら、平面形状が異なるすべての住戸プランを丁寧に描いている点が高く評価された。

社会や都市に住まう人々が求める、安心して孤独でいられるために、つながりを感じたいという気持ちを炙り出し、みんなで集まって住まう喜びや親しみ、ここで暮らすことの豊さを期待できる新たな路地建築である。

(勝又 洋)



**concept**

路地のように様々な道が入り組んでいる建物の配置を1階から3階まで考え、その入り組んだ道の間、地図で言う空き地のような場所に人々が集える空間を作り、建物全体から門前仲町を体感してもらえるように考えた。



1階

2階

3階

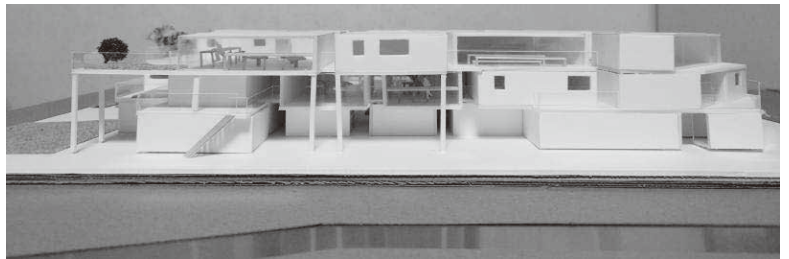
門前仲町の特徴

- ・江戸情緒を感じる
- ・自然環境に恵まれている
- ・路地が多い



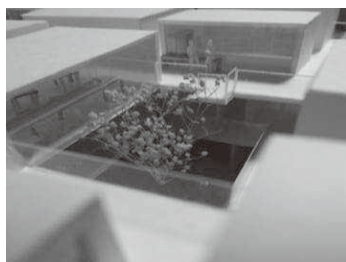
地域とつながる集合住宅

**積層路地**



積層路地として階ごとに住戸の区切り方を変えることにより様々な路地が発生する。また、この路地を作る際の区切り方を実際に門前仲町の地域の路地の区切り方を似せることによって、よりこの地域性が現れると考えた。

これにより、人々の距離感が近くなり下町感のある空間が発生する。さらにこの集合住宅の路地に入り込む際のワクワク感が生み出されると考える。



# 3年生（前期：デザイン演習Ⅲ、後期：建築計画及び演習）

## デザイン演習Ⅲ（前期）

### 第1課題

#### 「海の駅」

（出題：鶴田伸介、長谷川洋平）

#### 【課題意図】

海の駅とは、国土交通省により登録された、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える」船舶係留施設である。離島振興策からスタートして、当初は大型のヨット、モーターボート等の利用環境整備や情報のネットワーク化・提供を目的に設置が推進された。誰もが利用できる船舶係留施設、施設の予約受付案内担当者の配置、公衆便所の設置の3点が必要最低登録要件となっている。このような行政的解釈から『海の駅』とは、休憩施設と地域振興施設が一体となった施設であり、単体としての機能に加えて海の駅ネットワークの構築が図られた結果、以下の3つの機能が浮かび上がってくる。

- (1) 休憩機能 海路利用者が24時間自由に利用できる休憩施設の提供
- (2) 情報発信機能 来館者に対してその地域の文化・名所・特産物などを活用したサービスの提供
- (3) 地域連携機能 それぞれの地域（町）の核となり、海路を介した地域（町同士）連携の促進

計画地：みなとみらい

「山下ふ頭周辺地区」

課題は、漁村等の地域振興型ではなく、海上交通の起点としての都市機能の一部を包括する施設といえる。隣接する山下公園との関係性を踏まえ、海上からの都市景観を意識した新たな都市の結節点として、賑わいを演出することのできる施設計画を求める。

#### 【設計条件】

##### (1) 敷地条件

敷地形状、接道条件、周辺状況は、別添図面を参照。電気・ガス・上下水

道は整備されている。地盤は軟弱であり、杭基礎とするが、耐圧盤下の表現は不要。敷地設定範囲外への提案については、各班ごとの指導による。

##### (2) 建築条件

構造形式は自由。下記程度の規模であれば、建ぺい率・容積率の考慮は不要。基本的に隣地および道路境界より1m以上セットバックさせる。

##### (3) 計画諸元

- ① 建築諸室：延べ面積約2,000㎡（各室面積の±10%を許容範囲とする）  
・客用部門（計1,450㎡）：玄関ロビー（200㎡）、休憩ラウンジ（100㎡）、レストラン・カフェ（300㎡）、物産販売店舗（400㎡）、展示スペース（250㎡）、来館者用化粧室（80㎡）、廊下・階段・客用EV（120㎡）  
・管理部門（計550㎡）：事務室（170㎡）、会議室・応接室（50㎡）、宿直室（15㎡）、給湯室・従業員トイレ（15㎡）、管理エントランス・廊下・階段・人貨用EV（100㎡）、倉庫（100㎡）
- ② 屋外施設：アプローチ、広場、散策路、植栽などを建築と一体のランドスケープとしてデザイン。来館者用駐車場は、周辺施設との共用も検討可能だが、専用駐車場として大型車用5台、身障者用1台、サービス用5台程度の駐車スペースを確保すること。

#### 【提出物】

- (1) 表紙：作品タイトル、設計趣旨（テキスト・ダイアグラム、パース、スケッチ、模型写真等で明快かつ視覚的に表現）
- (2) 配置図（縮尺1/500）：建築物は屋根伏とし、外構計画を表現
- (3) 平面図（縮尺1/200）：各階平面、室名は凡例をつけて略号も可。1階平面図には周辺の外構も記載
- (4) 立面図（縮尺1/200）：4面すべて、影や素材等を表現
- (5) 断面図（縮尺1/200）：2面以上、水域と建物との関係がわかること

（南北、東西それぞれ）

※水域まで入れる断面図のみ1/300とする

- (6) 模型（縮尺1/200）：模型提出のほか、模型写真2カット以上を表紙にレイアウト
- (7) 内観パース：手描きでもCGでも表現方法は自由。1カット以上

### 第2課題

#### 「水族館」

（課題担当：佐藤信治、川久保智康、桔川卓也）

#### 【課題趣旨】

海の駅の隣接敷地に水族館を計画します。山下ふ頭周辺地区は、老若男女が集まり、新たな文化や価値を生み出す拠点として存在しています。

現代にふさわしい魅力的な水族館とは何でしょうか。生態系を扱う建築物としては、昨今の環境問題を軽視した建築を作ることはできません。海辺の生態系を扱うことを通じて、これからの時代の「水族館」という施設の在り方を考察してみてください。

#### 【課題のポイント】

- (1) 敷地条件の把握 立地、敷地の大きさ、施設規模、既存動線の位置を把握し、計画概要を捉える。
- (2) 水族館機能の把握 観客スペースと管理スペースの関係性。
- (3) 水族館機能の検討 教育、研究、展示、アミューズメント機能の関係性。
- (4) コンセプトの創出 説得力のあるコンセプトに基づく海と陸を結ぶ新しい水族館の創出。
- (5) コンセプトの表現 コンセプトを具体化する水際空間の設計、屋外展示を含む造形性と表現力。
- (6) 地域再開発的配慮 敷地に隣接する第1課題の海の駅と後期課題の宿泊施設との連動性。
- (7) プレゼンテーション 上記各段階

で何を考え選択したか、過程と結果を表現する。

#### 【計画諸元】

- (1) 敷地面積：約10,008㎡（予定）
- (2) 延床面積：約5,500㎡
- ① パブリック部門：約3,000㎡（観覧室、レクチャールーム、レストラン+カフェ、ミュージアムショップ、休憩ロビー・休憩ラウンジ、エントランスホール+廊下、来館者用化粧室）
- ② 管理部門：約2,500㎡（展示水槽、作業室、飼育室+研究室、荷解きスペース、事務室、会議室、館長室、宿直室、給湯室+従業員化粧室、更衣室、管理エントランス+廊下、機械室）
- ③ 屋外施設：（導入施設、駐車場施設、その他のランドスケープ）

#### 【提出物】

- (1) 図面表紙  
配置図：縮尺1/500  
各階平面図：縮尺1/200  
立面図（2面以上）：縮尺1/200  
断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 模型および写真  
① 模型 縮尺1/200  
② 写真 キャビネ判4点以上とする。
- (3) 図面提出仕様  
A1判横使い、左綴じ。コンセプトおよびゾーニング図、面積表並びに写真を貼ったものを表紙とし、レイアウト、着色は自由。図面表現はCADを基本とし他の表現との併用も可とする。

## 建築計画及び演習（後期）

### 第1課題

「都市型リゾート機能を有したホテル」  
（出題：小林直明）

【担当】 佐藤 信治  
長谷川洋平  
小林 直明  
光井 純  
小平 純子  
川久保智康  
桔川 卓也  
高野 洋平  
鶴田 伸介

【課題趣旨】

前期第1課題に引き続き、同じ計画地内の隣接敷地に「都市型リゾート機能を有したホテル施設」の提案を求めます。敷地は、山下公園、横浜中華街、横浜港大さん橋、みなとみらい、赤レンガ倉庫などの横浜を代表する観光スポットが点在し、回遊性をもった「まち」が形成されています。横浜市によるIRの再開計画が一時中断していましたが再開予定です。今回敷地も含め国内外の観光客誘致も期待されるエリアといえます。

リラクゼーション&ホスピタリティをどのようなデザインおよび機能・用途で感じさせ、周辺環境および歴史に呼応し、かつ海と自身が設計した海の駅、水族館との相乗効果をどのように図るのがか問われます。

【設計条件】

- (1) 計画地 敷地面積：17,651㎡  
・敷地形状や接道条件、周辺状況等は別紙図面参照および現地調査による
- (2) 計画内容  
・延床面積：22,000㎡程度、建物の高さは、31m内とするが、さらなる高層、一部客室コテージタイプ（平屋・メゾネット）も可  
・一部海側に張り出した施設計画、または敷地内に海水を入り込ませたラグーン形成も可  
・構造形式は自由。木耐火構造集成材または木とS造・RC造とのハイブリット構造等も可
- (3) 計画諸元  
\*各部門、各室面積は参考例とし、適度な設定を行うことを可とする  
\*駐車場50台、サービス用5台（屋外および屋内・地下階の複合も可）  
①宿泊エリア：8,500㎡  
ツイン・ダブルルーム100室程度、スイートルーム（コテージも可）10室、通路、階段、リネン室等  
②パブリックエリア：9,300㎡  
ロビー・共用スペース、レストラ

ン、ショップ、宴会場・会議場（室）、ジム・スパ

- ③管理エリア：4,200㎡  
裏方サービス諸室、機械室、廊下・その他

【提出物】

- (1) 図面  
配置図：縮尺1/400、各階平面図：縮尺1/200、客室平面図・パース：縮尺1/50、立面図（2面以上）：縮尺1/200、断面図（2面以上）：縮尺1/200
- (2) 計画概要（表紙）  
①計画コンセプトに合致したタイトル。  
②設計趣旨は簡潔に分かりやすく、ダイアグラム、フロー図などを交えて、ビジュアルに表現。
- ③各階の床面積（部門別）および延べ面積を表としてまとめる。
- (3) 模型および写真  
①模型は、全体：縮尺1/200。  
②写真は、キャビネ判4点程度。

第2課題

「マスタープランとランドスケープ」  
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

計画敷地全体を扱います。海の駅と水族館、後で設計するホテルとをマスタープランによって一体的な開発としてまとめ上げてください。さらにはランドスケープデザインを加えることによって魅力ある屋外空間をデザインして、海の駅と水族館そしてホテルとが、あたかも1つの街のように相乗効果を生み出すことを目指してください。

【課題のポイント】

- (1) 車輻動線と人の動線を明確に分離し、安心して歩ける開発とする。
- (2) 客動線とサービス動線、観光バスの動線を整理してわかりやすい交通計画を作り上げる。
- (3) 駐車場は、海の駅、水族館、ホテルそれぞれに配置する。
- (4) 屋外空間においては、樹木の粗密

感に配慮しながら、樹木のないエリア（開放的な広場など）と樹木の密なエリア（樹木に囲まれた心地よい木陰空間）を作り上げる。散歩道やジョギング空間にふさわしい小路の曲線形を考える。また、ベンチ、水景、四阿（あすまや／東屋）を適度な距離に配置して歩いて楽しい空間を作り出す。

- (5) 建築空間とランドスケープ空間を一体的に連続した空間としてデザインすることによって、より記憶に残る空間を作り上げる。建築内部からの風景を考えること、そしてまた、ランドスケープ空間と建築を一体的に考慮した街の風景を作り上げること。
- (6) 水際への人のアクセスを促すために、歩行者動線や親水空間の魅力を作り上げる。所々に木陰休息施設を設けることで快適に人を歩かせる工夫を行う。
- (7) マスタープランづくりではわかりやすい骨格を作り上げることが必要である。空間の軸線距離の分節を図り溜まりの空間となるノード空間の、空間と空間のつながりを

デザインするシークエンス、人の移動とともに視線の抜けを演出するビューコリドール（ビスタライン）の手法などさまざまなデザイン手法を駆使して魅力ある外部空間をデザインする。

- (8) 相模湾への眺望、伊豆半島や三浦半島の眺望、また富士山の眺望を借景としてしっかりと利用する。

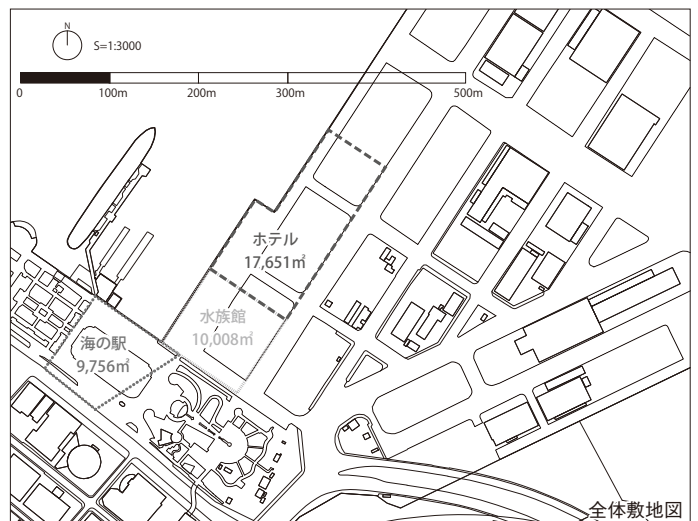
第2+α課題  
「プレゼンテーション」  
（出題：光井 純）

【課題趣旨】

年度を通じて学習したことを総括する学習として位置づけ、これまでのすべての課題の成果を1つのプレゼンテーションとしてまとめて説明する技術を学ぶための演習です。

【課題の想定】

課題敷地のマスタープランおよび3施設の建築の設計者の立場となり、みなとみらい「山下ふ頭周辺地区」を開発して環境の充実を図り集客を図りたい開発者に対して、デザインプレゼンテーションを行う設定とします。



酒井 優

「ORIGAMI」

～故きを温めて新しきを知る～

■コンセプト

かつて、計画地の山下公園一帯は海で、潮干狩りの風景が広がっていた。1923年関東大震災の残留がれきを埋め立てる「海岸遊歩道」が計画され1930年に山下公園が誕生、現在は横浜を代表する観光地である。一方で高上げされたコンクリートの地盤により海と陸は断絶され、人々の行動は山下公園内

で写真撮影や会話に限定され、海を含めた娯楽は見られず、海は景色の一部として捉えられてしまっている。

「海岸遊歩道」計画は横浜復興の起源のため、コンクリートで隔たれた海との関わりを完全に否定することはできない。さらに埋め立ては文化が混在した横浜を形成した。

計画地はみなとみらい計画地から遠く観光資源がなく閑散としている。自然と埋め立てで発展した文化の混在を建築に取り込み、海の駅を基点に失われた海と人々の交流を形成する海の駅を計画する。本来の姿である海と陸に隔たりが無く人々が自然に親しんだ横浜を建築内に取り込み、さまざまな文化の入り混じる横浜を表現することで、

海からも陸からも人が訪れ計画地に賑わいをもたらすことが可能となり、海の駅が横浜の魅力の発信源となる。

■講評

横浜は、西洋文明の入り口として日本の近代化に大きく貢献してきた街であるが、だからこそ逆に、日本的な美学を街並みに組み込むことが必要ではないかと作者は考えている。その思いのもと、日本の感性を象徴する「折り紙」の形に啓発を受けながら、外観デザインの構築に取り組んでいる。

その折り紙のような形の内側には、高さの異なる、さまざまな表情を持った空間がダイナミックに生み出されている。

さらに、同じ折り紙の面ごとに表皮の表情を変えることで、内部空間に降り注ぐ多様な光を生み出し、折り紙の外と中の空間の特性を巧みに活用して、海の駅を訪れる人々に感動を与え、記憶に残る空間をつくり上げている秀作である。

そして、折り紙の内部に生まれた動きのある大空間を活かし、断面図に見られるように、カスケード状に展開するカフェや展示空間、さらには人と海とがかかわる親水領域が丁寧に練り上げられている。海の駅に求められる機能と、到着や出発に伴う感動を生み出す空間の仕掛けとが、絶妙なバランスで共存しており、完成度の高さが感じられる。(光井 純)



有本百花

「沈んで浮かぶ  
藻場の再生と、浮かび上がる海の駅」

■コンセプト

計画敷地である横浜港について、人と海の距離が遠く、横浜の海が人々に知られていないという課題点を挙げた。

そこで、海の駅を通して人々が横浜の海を知り、自然の美しさだけでなく天然資源の貴重さを考えるきっかけとなるような場所を目指した。また、山下町頭で実際に行っている鉄鋼スラグ

再生資材を用いて、藻場を再生し、生物多様性の向上を目指す。

建物の形状は、敷地と海の境界線に入り組ませ、水を引き込み、一部を海に沈めることで、海との距離を近くしている。屋根は地面と連続しており、人が自由に登ることができる。東から西にかけて建物が低くなることで、より多くの太陽光が駅内、そして海中に差し込む。干満差によって駅自体が浮き沈みしているように見え、海中部分は、藻場の再生によって美しい景色が徐々に広がってゆく。また、栈橋は実用性を考え直線的になっているが、駅内部の物販やカフェはスロープでつながれている。内部空間を広く見せるとともに、入口からカフェまで一目で見

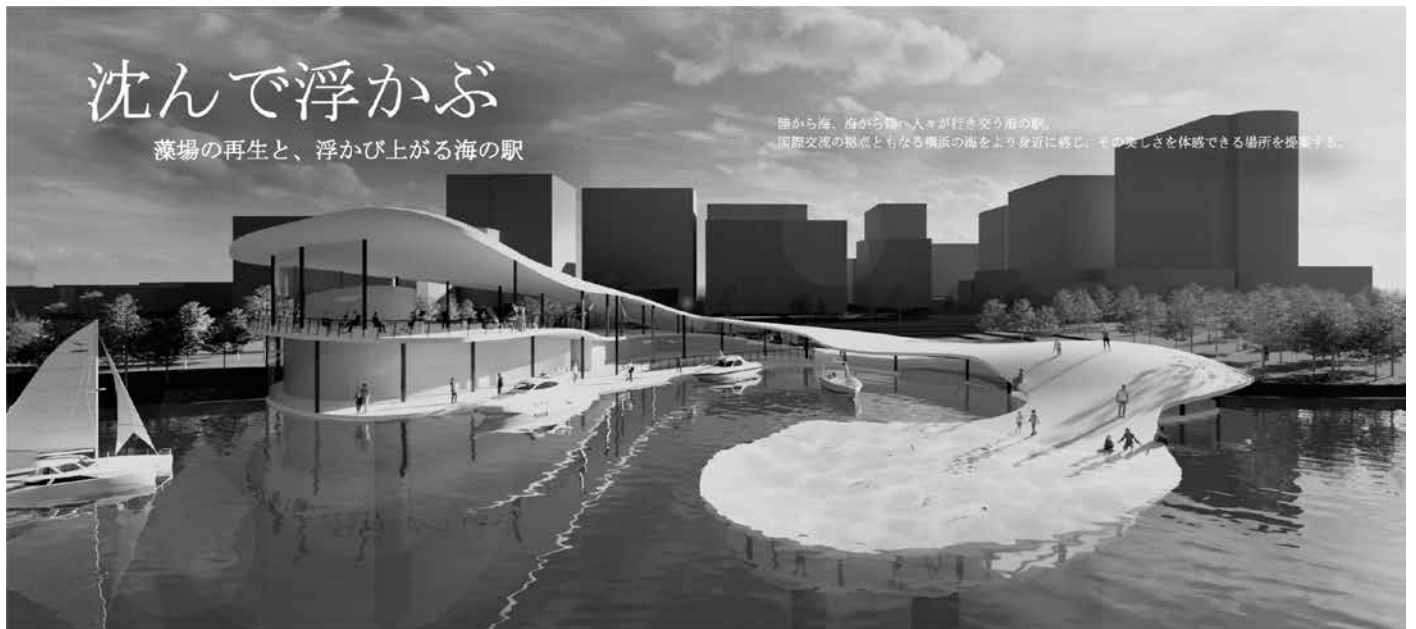
渡せ、利用者が訪れやすくなるようにした。

横浜の海をより身近に感じ、その魅力を五感で体感してもらう。そのような、人と海をつなぐ海の駅を提案する。

■講評

本提案は、建築を公園および水辺のランドスケープと調和させることを目的としている。そのために護岸の形状の操作や、地面と連続した大屋根を架けることで、敷地に平面的・断面的に有機的の形状を与え、さらに施設の一部を海中に沈み込ませ、藻場の再生により海の水質を浄化することで、海と建築との距離を近づけようと試みている。エントランスには事務機能と待合ス

ペースがあり、待合スペースから栈橋への流れ、またスロープスラブによる、2階のカフェや水面下の海中展示室への流れは、非常にスムーズで動線が良く整理されており、大開口による明るさや透明感のなかで、心地のよい場が連続的に現れる設計手法は高く評価できる。一方で、海側からの視点と比較して、公園側からの視点の検討が不足しているように感じられた。海側と同様に、透明で軽く公園機能を内包した大屋根の計画、たとえば有機的な屋根が公園側へも手を伸ばし、大きな軒先空間をつくることで、公園を散策する人々がふらりと立ち寄れるような建築の構えができたのではないだろうか。  
(長谷川洋平)



# 沈んで浮かぶ

藻場の再生と、浮かび上がる海の駅

臨から海、海から臨み人々が行き交う海の駅。国際交流の拠点ともなる横浜の海をより身近に感じ、その美しさを体感できる場所を提案する。

**01 横浜港について**

01-1 敷地概要  
01-2 繋結された海と人  
01-3 知られていない横浜の海

**02 設計主旨**

**03 ダイアグラム**

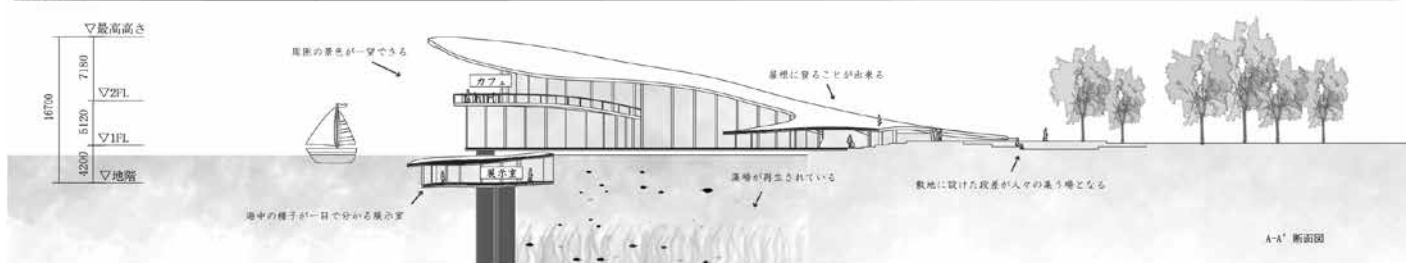
**04 藻場の再生**

**05 敷地と一体化した屋根**

**06 沈んで浮かぶ**

**07 海に触れる**

**08 海中展示室**



大野紗矢香

「寄り処 魚・人の縁となる水族館」

■コンセプト

横浜市は海に面しているが、魚との接点が少なく、海は風景としてのイメージに留まっています。そこで、海中体験型的水族館を新たなシンボルとして提案します。

建物は魚のすみかである「魚礁」をモチーフとし、摂食場・逃避場・休憩場・生殖場という魚礁の4つの機能を取り入れることで、海の中の生態系を

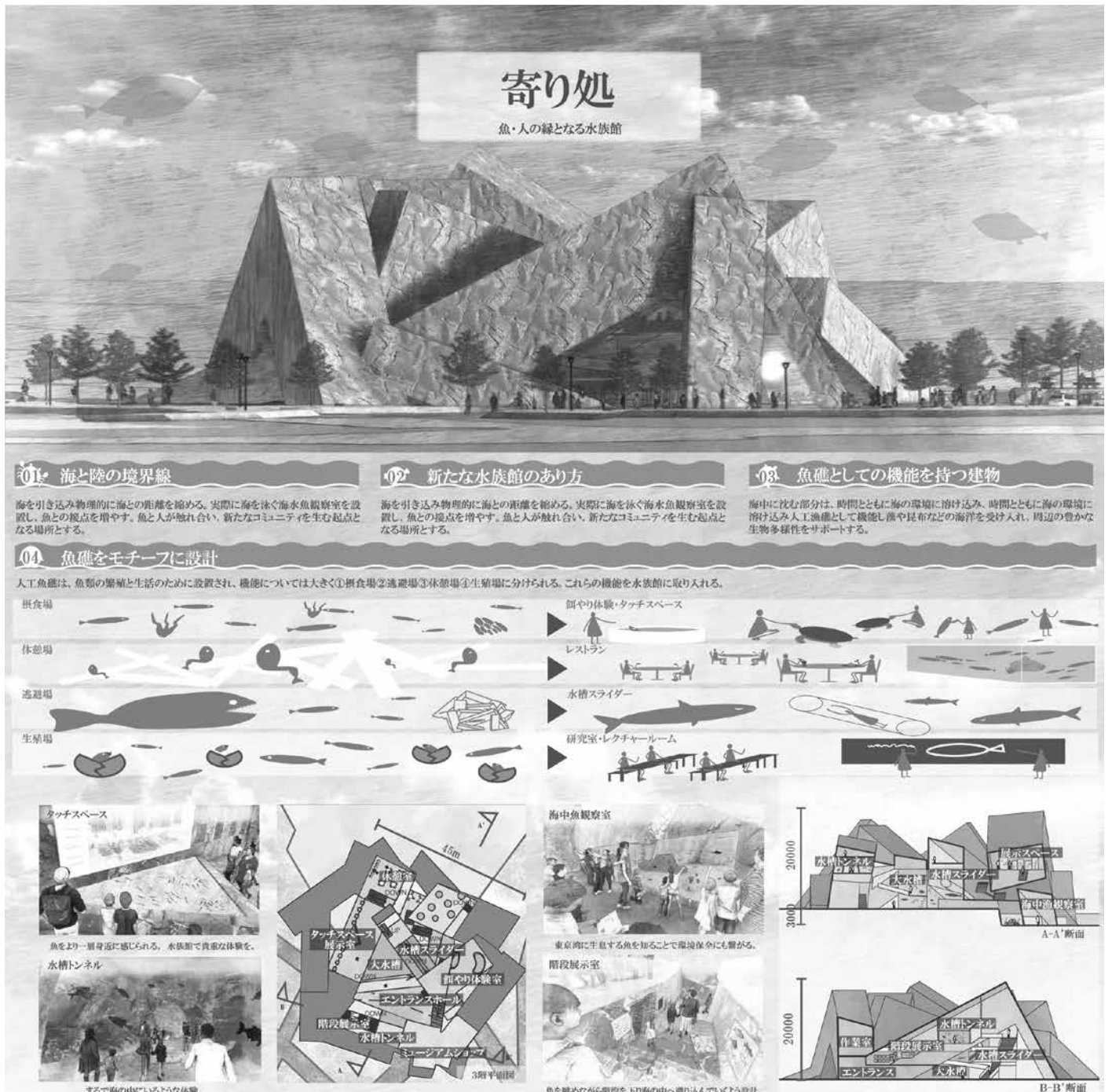
身近に感じられる空間をつくります。この水族館の一部は海に沈み、時間とともに人工の礁として機能します。藻や昆布などの海藻が生息し、多様な生物を受け入れることで、周辺の海洋生態系を支えます。また、水中生物の生態や行動を邪魔することなく間近で観察・研究できる場を設計し、科学的な発見や学びの機会を提供します。さらに、魚と直接触れ合える空間を設け、来館者が魚とのつながりを実感できる体験を創出。都市と自然が融合し、人々が海をより身近に感じることのできる交流の場となります。こうして、横浜に新たな魚と人の縁（よすが）を生み出し、海との関係を再構築する水族館を目指します。

■講評

魚のすみかである魚礁をモチーフとした水族館の提案。コンクリートの矩形のボリュームが無造作に積み重なるかたちは、岩や人工物による魚礁を想起させる。また、施設の一部が海に沈み込み、実際に魚礁として機能することで、周辺の海洋生態系を支える役割を果たしている。強いかたちであるが、明快な立面を持たない外観は、公園側／海側から眺める角度によって少しす

つかたちを変えて現れる。こうした自然物の造形にも似た、海辺の新たなシンボルを作り出そうとする作者の目的は達成されており、その造形力は高く評価できる。一方で計画的に解けているのかもしれないが、図面からは順序や展示計画を読み取ることはできないし、バリアフリーデザインとしても対応できていないように見える。1つの矩形のボリュームと、内部の機能が対応関係にあるように読めるが、たとえば斜めに貫入するボリュームを動線空間とし、それ以外はフラットな床による階構成としても良いように感じた。内部空間までデザインできれば、より魅力的な提案となったであろう。

(長谷川洋平)



田村萌依

「無限の入れ子」

■コンセプト

この水族館では“海”を展示します。水族館で展示物を飼育するためのガラスの箱、すなわち“水槽”を生み出すまで、あらゆる歴史が存在しました。水槽はサンゴや水性動植物を瓶に詰め込むことから始まります。当時海は暗黒世界で死をもたらす場所とされ、そこへ未知への好奇心を持ったものが集い、瓶の中に水を注ぎ、生物を生かす

ための研究が行われました。やがて技術が確立され、水族館には模型的な海が広がっています。しかしそれは海ではありません。

生命のドラマをカットした水族館は海をファンタジーに見せ、海の異世界性を展示していません。生き物を見る場所としてではなく、かつての海を体感する場所を目指しました。

そこで横浜の地に巨大な球体を埋めました。球体の異様な存在感は周囲を混乱させ、違和感を覚えさせ、そしていずれ誰かがその球体のすべてを知ろうとするかもしれません。

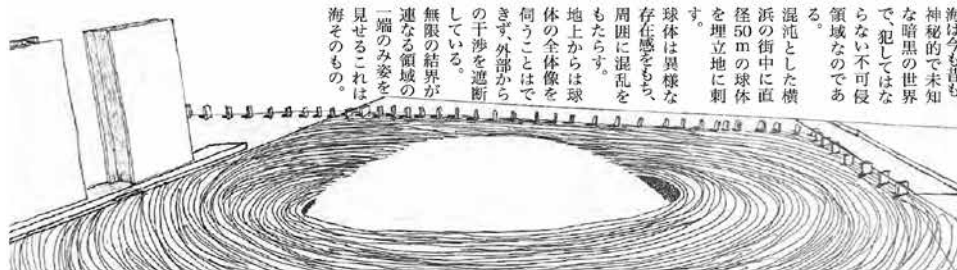
それは海の全体像への渴望と、私が知り得ないこと、人間の知の限界、不可侵領域である海。海は無限の入れ子。

■講評

18世紀アクアリウムの前進の歴史から海と人間の関係を紐解き、人間が知り尽くすることができない海への理解を深めるための水族館を計画した。海を神秘的な不可侵領域と捉え、現代の水族館への反定立の思考で、その未知なる領域に入る疑似体験ができる空間として直径50mの球体という圧倒的なスケールで海の無限性を表現している。球体の大半を地中に埋没させ、底には穴が開いており海水が流出し、干渉も想像もできない深海を表現している。表紙の断面パースは秀逸で、海や自然との関わり方の思惟的な想いが詰まった世界観、空間構成が色濃く表現され

ており、引き込まれる。新古典主義の建築家ブレのニュートン記念堂やルドゥの作品を彷彿とさせる。

配置は水盤を渡ることによって周囲と分離し、神聖な領域へと誘い、列柱で禅空間を創出。地上は必要最小限の建築要素に整理をし尽くし、地表面は枯山水の白砂に書かれる模様、砂紋が同心円となり球体の中心性と重なる。海である球体と地表面はレベル差があり近づくことができず、深海の暗さと深さが外構からも伺えるようにしている。展示水槽はキューブ状の箱の陳列方法の変化で生命体を分類している。大きな海に支えられて成立している人間の生活を改めて考えさせられる、哲学的な思考の場となる建築である。(小平純子)



自然が易々とやつてのけることを人間が再現するのは不可能と云つていい。海は今も昔も、神秘的で未知な暗黒の世界で、犯してはならない不可侵領域なのである。混沌とした横浜の街中に直径50mの球体を埋立地に刺す。球体は異様な存在感をもつ、周囲に混乱をもたらす。地上からは球体の全体像を伺うことはできず、外部からの干渉を遮断している。無限の結果が連なる領域の一端のみ姿を見せるこれは海そのもの。

水族館

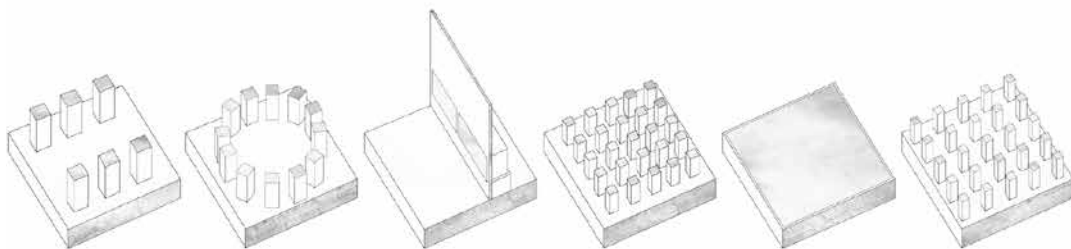
かつて、水族館に人は海洋の神秘をガラスの箱に閉じこめたことを喜び、水の宇宙へと思いを巡らせた。しかし、次第に水族館には海の疑似体験的な要素が強くなり、模型的に公平に広域の人工海景を作りだしている。海は私たちの中でミニチュアに成り下がった。

# 無限の入れ子

海は不可侵領域

ガラスの箱

大々的な展示方法で水族館で海を感じるのではなく、旧来の古典的で並列的な方法でガラスの箱の中の異世界を通じて、雄大な海を自由に泳ぐ生命たちに思いを馳せる。



建築計画及び演習 第1課題  
都市型リゾート機能を有したホテル

酒井 優

「和に溶け込む  
日本の風流風雅を感じる」

■コンセプト

横浜市は他の観光地と比べると訪日観光客が少ない。東京までのアクセスが良く「滞在する街」に選ばれておらず、訪日観光客は横浜へ日帰りして街歩きやショッピングに訪れており、長期滞在させる観光コンテンツが必要である。現在、ホテルに求められる要素は「もの」から「こと」へ変化した。明

治以降に急速発展した横浜は中華、西洋建築、みなとみらいなどの文化が混在する街であるが、国内外誰もが求める「日本らしさ」を感じる伝統的や歴史を体験できる施設が少ない。横浜に訪日観光客が本物の日本文化を体感できる場所を作ることで、都心からのアクセスの良さを活かし異文化が共存する観光名所としてさらに発展し宿泊客が増加する。文化が混在する横浜にインバウンドの観光客が求める日本の美を造り、空間の中で癒しを得て、滞在したい街に変化するきっかけとなる。日本建築の美は自然、山、水が揃い成り立つ。しかし計画地は都市に囲まれており借景ができない。敷地内に自然を作りランドスケープを含めた空間の

提案をする。

■講評

この作品は、「横浜には日本文化の存在感が乏しいため、インバウンドの訪問者が少ないのではないか」という疑問から出発し、この地に建つホテルには和風のデザインがふさわしいと考えてデザインした、挑戦的な提案である。

敷地全体に不均質な場所性をつくり出すため、運河と入江を有機的に導入し、外部空間に多様性を生み出そうとしている。建築配置においては、水平と垂直の構成によって、エントランスや宴会場、会議場などを水辺空間を囲むように配置し、その囲まれた領域の

内部に客室やヴィラを展開している。空間構成の考え方は明快であり、ホテルとしての機能的なゾーニングは優れている。しかしながら、客室空間の視線的な見合いを避けつつ、空間の多様性をさらに高めるためには、各客室の角度を水景観とより緻密に関連づけながら調整していくことで、日本文化が持つ繊細さや奥行きを、より豊かに表現できたのではないだろうかと思われる。

とりわけ外部空間の非対称性を生かして空間の魅力を作るのが日本建築である。せつかく自らつくり上げた敷地の非対称性をもっと活用し、建築との一対一の関係を追えば、さらに優れた空間が生まれるだろう。(光井 純)



和に溶け込む  
日本の風流風雅を感じる

01 滞在しない街  
02 異文化に和を足す  
03 和に泊まる  
04 屋根が作る居室・庭園・水穂の国  
05 素の非日常空間  
06 空間が作る体験  
07 内外遮断しない箱庭

ダイアグラム

外国人が横浜に少ないのは...  
和をプラスすると...  
外国人が日本でしたいこと  
日本建築の美は自然、山、水が揃い成り立つ。しかし計画地は都市に囲まれており借景ができない。敷地内に自然を作りランドスケープを含めた空間の提案をする。

01-1 文化混在の横浜  
02-1 横浜の宿泊業発展  
02-2 滞在型ホテルの提案  
03-1 内外遮断  
03-2 水景景観  
03-3 折衷造  
04-1 内気空間  
04-2 水景景観  
04-3 折衷造

05-1 独自の美意識に泊まる  
05-2 雑居が生活領域を作る  
05-3 狭小空間のおもてなし  
06-1 風流風雅  
06-2 隣りさせた建物配置  
06-3 視線と心が上を向く  
06-4 外部との一体感  
07-1 平面図  
07-2 断面図

1500年社、和では何年する御殿。自然に溶け込む和風旅館の中心にあり、和の文化や美意識、土佐、道徳など伝統文化を自然素材を生かしたホテルの空間に表現する。家族のシェアリングは小さな小上がりや和室に設定しソファでゆったりと過ごすための小上がりで和風空間を演出する。

和の美は人工的対称性ではなく「全体の調和デザイン（ワビ・サビ）」を追求している。建物を建てる過程で自然空間との対称性と調和の美意識を追求する。

日本建築の美は自然、山、水が揃い成り立つ。しかし計画地は都市に囲まれており借景ができない。敷地内に自然を作りランドスケープを含めた空間の提案をする。

和の美は人工的対称性ではなく「全体の調和デザイン（ワビ・サビ）」を追求している。建物を建てる過程で自然空間との対称性と調和の美意識を追求する。

和の美は人工的対称性ではなく「全体の調和デザイン（ワビ・サビ）」を追求している。建物を建てる過程で自然空間との対称性と調和の美意識を追求する。

江口和李

「一日最後のいただきますを皆で」

■コンセプト

横浜は日中がメインの観光スポットが多く、日帰り客が多い。よって夜間の観光資源づくりが重要だと考えた。周辺に観光スポットが点在している中、ホテルが最後の目的地となることで夜の観光スポットになる。ここには観光や仕事のあと、一日の最後に皆で食を楽しみたい人々が集まる。横浜の街をバックに最高の料理を最高のロケーションで楽しめる空間を提供する。

外壁に食器やワインなどを展示するショーケースを設け、エントランスから食をメインとしたホテルであることをアピールし客を引き込む。客室と隣接するように点在したレストランは食事と会話に集中できる空間。通常は店が立ち並び、ゲストが歩いて店を探して入るのに対し、このホテルではゲストが集まる空間にシェフが出向き、料理が提供され、食と人が集まる。客室は森に囲まれた空間と海に開けた空間という2つの対比を作ることでロケーションのメリハリをつけた。対照的な2つはアクセスの仕方も異なり、異なる集まり方ができる。食事は景色とともに外で楽しめる開けた空間であるの

に対し、客室はプライベート性を重視した。

■講評

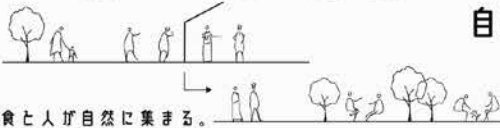
あらゆる「食の文化」を提供できる食の特化型宿泊施設の提案である。食べるという行為だけではなく、食にかかわるすべての事象をフルターンキーで味わえる建築空間、外部空間、運営オペレーションが具現化された建築計画が高く評価された。食事をする空間が建築内部および外部空間が施設内に多く点在し、その空間に目的別で一流シェフが出向く運営計画である。各空間での調理、盛付、テーブルへのサービス等の行為も食の文化と捉え、オープンなキッチンと、選別された食器類

をパーソナルに提供できるプランである。ホテルオリジナルの食材、レトルト食品、食器等がホテルメインエントランスに近接した別棟ショップで提供され、食の文化を外部にも全面的に発信していることも既往のホテルとの差別化を図っている。客室は寝室空間と浴室空間に特化されたプランとファサードデザインで、ホテル内に点在している食の空間に敢えて出向くアクティビティを促す計画を提供している。施設全体は低層で構成され、棟間には緑、水盤等の自然と融合する外部空間が併設されていて、積極的にその空間に佇むことを促す計画である。施設外壁も漆喰等を中心に自然素材で構成されている。(小林直明)

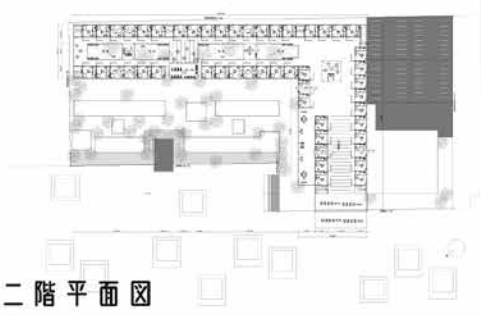
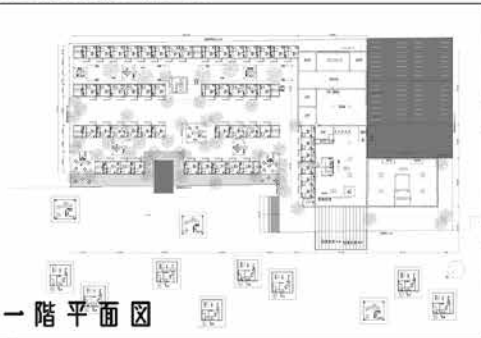
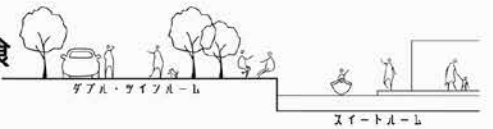


一日最後のいただきますを皆で

ゲストの空間にシェフが出向いて料理を提供。



自然と合流するゲストと食  
森の囲み ⇄ 海の開き



建築計画及び演習 第2+α課題  
**ランドスケープと  
 プレゼンテーション**

磯部莉緒・川村吉平・牧野元汰  
 「Music Harbor Resort  
 横浜みなとみらい 音楽都市計画」

■コンセプト

計画地は、再開発事業計画地の1つである横浜山下ふ頭。本計画は、「全ての人に横浜でしかできない音楽体験」をミッションに掲げるプロジェクト「Music Port YOKOHAMA」の3つのビジョンをもとに提案する。  
 (Vision 1 質の高い音楽を楽しめる街)  
 海の駅、水族館、リゾートホテル、

3つの主要施設が集まるL字状の敷地に、水上ステージと浮体式観客席を設置し、新しい音楽の発信地とする。

〈Vision 2 新たな音楽や活動が生まれ育つ街〉

既存の石のステージに加え、敷地内に自由に音楽やパフォーマンスができる3つの新ステージを設置し、誰もが音楽を表現できる場を創出する。

〈Vision 3 音楽のあふれる街〉

各ステージなど敷地のいたるところから広がる音楽が、山下ふ頭全体を包み込むような空間を作り出し、訪れる人々の日常に溶け込んでいく。

Music Harbor Resortは音楽を軸とした空間や体験を一帯で提供することで、横浜を音楽の街へと成長させていくことを目的とした提案である。

■講評

本計画は、横浜市MM21地区で取り組まれている「Music Port YOKOHAMA」と呼ばれる音楽体験を中心としたまちづくりを、山下公園・山下ふ頭の一部へと拡張するものである。海を挟んで対面する氷川丸をライブステージの背景と捉え、水上のライブ会場を設計できるのではないかとという気づきから計画がすすめられ、いくつかのユニットからなる浮体式の観客席から、パフォーマンスを鑑賞する新たな体験を提案している。また敷地内では、山下公園や駅からの動線を考慮しながら、公園内にある石のステージに呼応

するように、誰もが自由に表現できる場として3つの野外ステージを配置している。各ステージは周りを樹木で囲むことでゾーニングされ、防音効果を期待するとともに、木々の間から活動が垣間見える空間をつくり出している。

こうした横浜市が実際に行っている取り組みと連動し、港湾の開発を考慮したランドスケープを提案したことは高く評価できる一方で、浮体式の観客席がユニットのバリエーションの設計にとどまった点は惜しまれる。たとえばライブ時にステージまで移動可能な機能を搭載した観客席によって通常時からのモードチェンジを行った方が、より臨場感のある空間演出になったのではないかと。(長谷川洋平)

藤木賞



# Music Harbor Resort

横浜みなとみらい 音楽都市計画

「全ての人に横浜でしかできない音楽体験」をミッションに掲げるプロジェクト「Music Port YOKOHAMA」の3つのビジョンをもとに提案する。  
 ミュージックハーバーリゾートは音楽を軸とした空間や体験を一帯で提供することでこの地を始め、横浜を音楽の街へと成長させていく。

**Vision 1 質の高い音楽を楽しめる街**

船の上からライブパフォーマンスを楽しむ



昼間はイベントエリアとしてステージを開放



**Vision 2 新たな音楽や活動が生まれ育つ街**

自由にパフォーマンスができるステージが敷地内に点在



主要施設内で音楽を通じた新たな交流、活動を促進



**Vision 3 音楽のあふれる街**

誰もが音楽を表現できる場を創出



リゾートホテル客室内の風呂から敷地全体を一望



糸魚川颯大・江口和李  
 ・藤井光稀

「巡ルンです。自然と交通が織りなす、横浜の新たな循環」

■コンセプト

山下公園周辺は観光スポットがあり、公園に観光客が集まる一方で地元民には散歩コースとして親しまれている。人々が混在するこの場所できっかけを起こすことでその動きが横浜全体に広がると考えた。そこで自然と交通

に関するマスタープランの記述にある「回遊」という単語に焦点をあて、横浜の新しい「循環」をテーマに、海陸のフィールドを活用した自然と交通の循環を同所で起こし、人の循環を創作するランドスケープを提案する。海の駅、水族館、ホテルが結節点の一部となり、利用する人々の循環を支える。

自然と交通の循環をつなぐ要素として水路を新造。各施設はボートやゴンドラで巡りながら周回でき、水族館前や氷川丸前などの浮桟橋で行われる演目を鑑賞する。舟屋街は水路から立ち寄り、食事や買い物を楽しむ。さらに、新たにデザインした石のステージは新たな山下公園の家徴となる。海の駅の屋上庭園からこの場を介して周辺

のスポットに向かえ、演目を見たり、海風を感じながら歩くことができる。

■講評

横浜市のマスタープランの中で、各拠点を結ぶ交通（陸上、海上）の「回遊」という行政コンセプトを引用し、本作品は当敷地内外の「循環」をマスタープラン、ランドスケープ、建築のテーマにつなげている。「循環」は単なる物理的な人の動きだけではなく、文化、歴史、自然の循環を視覚的、精神的に表現している。海の駅周辺は、過去の災害廃材の埋め立ての敷地であった負の歴史の山下公園を取り込み、山から川、海へと流れる自然の循環を人工地盤でありながら植栽を配し計画

し、自然の中に集まった人々のコミュニケーションの循環を促している。水族館における魚類の生命の確保を見せる、つまり水族館のバックにおけるスタッフの運営、それにかかわる機器等の循環があって水族館機能が成立するというテーマで、建築とランドスケープがデザインされている。ホテルは食の文化をテーマとし、食べる行為だけではなく、食を作る、皿、ナイフ、フォーク、箸に至るまでの循環を食の文化と認識し、それを最高の建築空間でいただくことができる建築、ランドスケープ提案である。すべての「循環」が敷地内循環水路で実際に感じることができる作品であることが評価された。

(小林直明)



佐々木省太郎 / 佐藤栄香

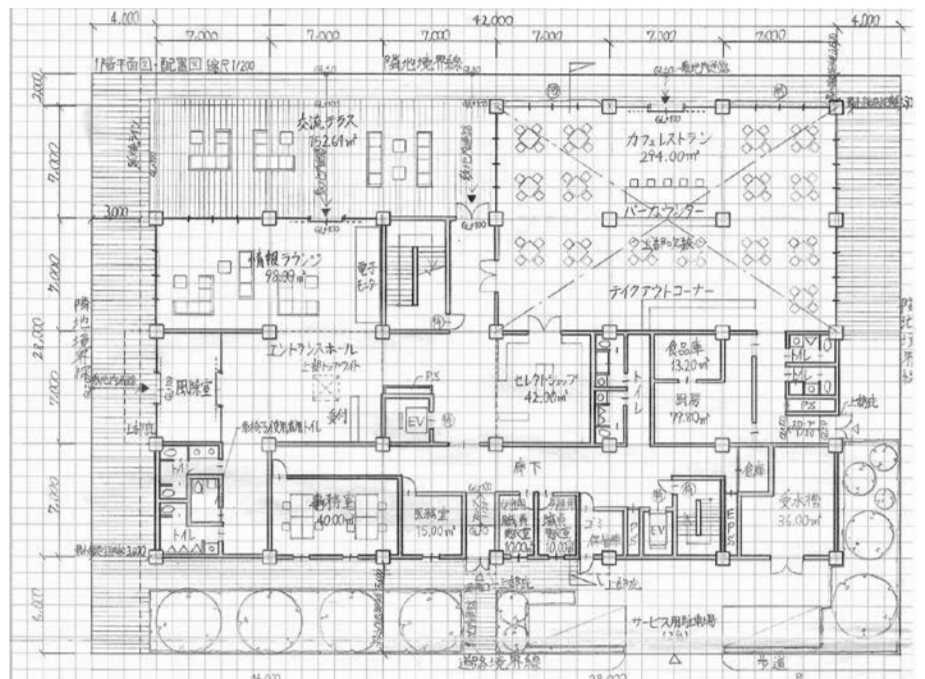
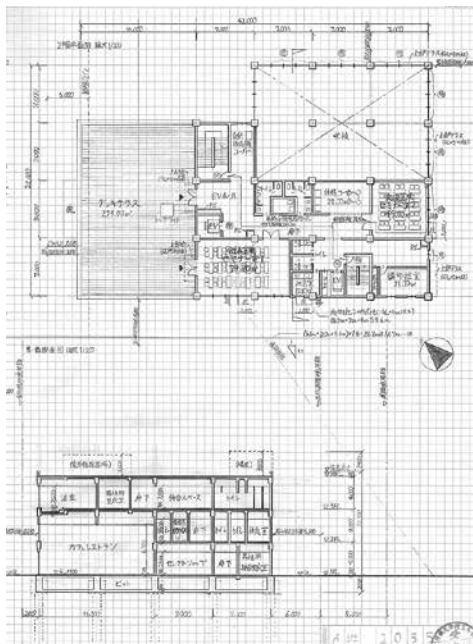
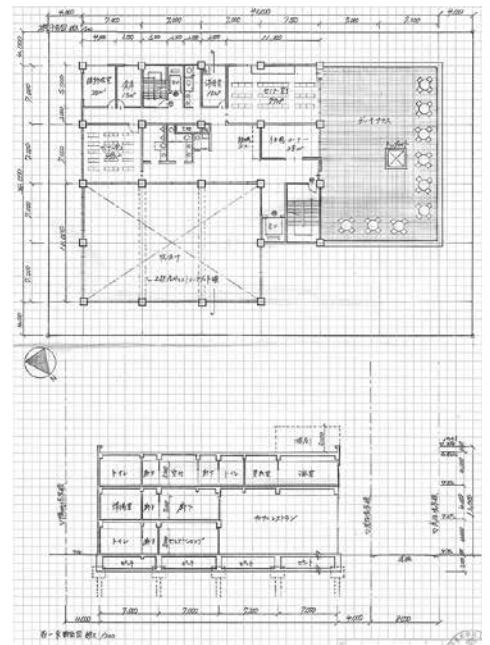
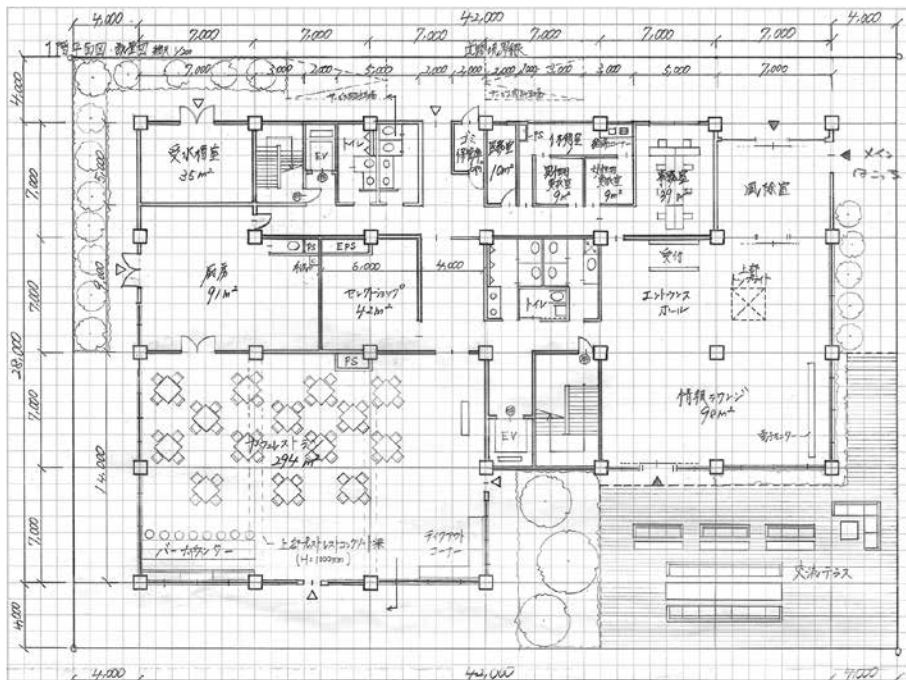
■本課題の目的と対応方法について

一級建築士設計製図対応クラスは一級建築士を目指す人のための準備プログラムです。一級建築士の試験は、毎年7月の学科試験と10月の設計製図試験の2段階で実施されますが、本クラスでは10月に行われる「設計製図試験」の基礎を学びます。直近の「設計製図試験」では図書館、事務所ビル、集合住宅、老人介護施設などさまざまな施設が出題されていますが、作図表

現やエスキス手法には共通する部分が多く、それらをあらかじめ学ぶことで初受験での合格を目指します。

講義は前半と後半にわかれており、前半は実際の本試験を作図しながら、線の強弱をはじめ扉や窓などの作図表現と、階段や廊下の幅などのプランニングの基礎となる寸法感覚を身につけます。また、諸室の配置や関係を読み取ることで、管理者の動線や建物の構成について理解することが目的です。

後半は本試験と同等にアレンジした「海の駅」を解きながら、課題文の読み方や、諸室の振り分けなどエスキスの手順を学習します。優先する事項や、設計のまとめ方を分かりやすく解説しています。(佐藤信治)



# 4年生（総合演習）

【担当】 佐藤 信治  
長谷川洋平  
吉田 郁夫

山本 和清  
江川 香奈  
菅原 遼  
寺口 敬秀  
桜井 慎一

## 総合演習

### デザイン系

「 commons の再構築—建築、ランド  
スケープがもたらす自己変容  
（日本建築学会設計競技）」  
（担当：佐藤信治、吉田郁夫）

#### 【応募要領】

私はここ数年、千葉県鴨川市の山側にある棚田集落に通い、里山再生に取り組んできました。きっかけは2019年の台風被害。友人の家のトタン屋根が豪風で吹き飛び、中から出てきた茅葺屋根を葺き替えることを旗印に、茅場の再生や耕作放棄地での米作り、人が入らなくなって久しい森林の整備を始めました。さらに、空き家になった古民家を仲間と共同購入し、コミュニティキッチンや簡易宿所として改修。都市住民も気軽に里山の活動に参加できる都市農村交流の拠点としてきました。コロナ禍での移動制限中も、パブル方式で安全を確保しながら毎週末のように研究室の学生たちと集落に通い、土、草、樹木、材木など、向き合う相手（資源）に合わせて道具を持ち替え、自らの身体性を発見し、里山の一部に少しずつなってきました。生命力と幸福感に溢れたこうした体験は、1.身の回りの環境を、2.道具を手にして、3.自らの身体を投じて、4.資源化しながら整える、5.仲間がいる、という条件によって支えられていると私は考えます。スキルを介した資源へのアクセシビリティとメンバーシップといえど commons の原理です。しかし、所有と資本を疑わない現代社会では、農村であれ都市であれ、分断が進む一方で。そこで今回の設計競技では、こうした commons 再構築の提案を求めます。農村でも都市でも構いません。まだまだ利用されていない資源（解体される建物、ゴミ、古い衣服、太陽、雨、土など）は都市にもあります。すでに応募

者自身で行っている具体的な取り組みでも構いません。将来像を含めたドローイングや模型などで建築的提案として表現してください。建築の、そして我々人間の未来のあり方を開く刺激的な審査会と展示を、2024年の日本建築学会大会で開催できることを楽しみにしています。審査委員長 塚本由晴

#### 【応募規定】

- A. 課題  
commons の再構築—建築、ランドスケープがもたらす自己変容
- B. 条件  
実在の場所を設定すること。
- C. 応募資格  
本会個人会員、または会員のみで構成するグループとする。
- D. 提出物  
下記2点を提出すること。
- a. 計画案の PDF ファイル（必須）  
以下の①～④を A2 サイズ 2 枚に収めた後、A3 サイズ 2 枚に縮小した PDF ファイル。なお、使用する言語は、日本語または英語とすること。（解像度は350dpi を保持し、容量は合計20MB 以内とする。PDF ファイルは 1 枚目が 1 ページ目、2 枚目が 2 ページ目となるように作成する。A2 サイズ 1 枚にはまとめないこと。）模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現すること。
- ①設定した計画対象地を具体的に示す  
②設計主旨（文字サイズは10ポイント以上を目安とし、日本語の場合は約600字以内、英語の場合は約300 Word 以内の文章にまとめる）  
③計画条件・計画対象の現状（図や写真等を用いてよい）  
④各種ドローイング
- b. 顔写真の JPG ファイル（希望者のみ）代表者および共同制作者のうち、掲載を希望する者の顔が写っているもの 1 枚に限る。なお、サイズは横 4 cm × 縦 3 cm 以内で、容量は 20MB 以内とする。

### 計画系

「江東区臨海部における民有地と  
沿岸公有地の一体的開発の提案」  
（担当：山本和清、江川香奈、  
菅原 遼、寺口敬秀、桜井慎一）

#### 【課題趣旨】

東京都江東区には、「大川端地区」や「豊洲地区」といったウォーターフロント再開発を代表するエリアが多数存在し、都市の水辺の親水性を向上させる空間整備が展開されてきた。また、江東区では、河川沿いの遊歩道や親水公園等が整備されることで「水と緑のネットワーク」が構築され、まさしく「水彩都市」を象徴する都市環境が形成されてきた。近年では、内部河川を活かした水上アクティビティや隅田川テラスでのイベント開催等、民間主導による水辺空間の「使いこなし」も活発化してきている。

本演習の計画地は、江東区南部の越中島地区に位置する民有地および河川沿いの公有地とする。本計画地は隅田川・大横川・晴海運河に囲まれた三角地帯であり、実に「水彩都市：江東区」らしい立地特性を有しているといえる。現在、計画地内に立地している株式会社ヤマタネの各種施設は老朽化等による将来的な移転が検討されており、それを契機として実現し得る新たな水辺空間の地域拠点づくりの方向性が注目されている。

越中島地区は、ウォーターフロント特有の景観や交通アクセスの面で高いポテンシャルを有している一方、江東5区特有の水害リスクや市街地内の回遊性等に課題を有しており、本計画地の再開発を検討する上では重要な検討事項となる。また、民有地の再開発事業としての収益性の確保にとどまらず、公有地との一体的利用を想定した公共貢献型の事業を検討することも重要となる。

そこで本演習の課題は、今後、東京

都臨海部の地域拠点となり得る越中島エリアの再開発の計画地を対象に、越中島エリアの地域的特性を活かしつつ、地域内の回遊性や親水性の創出に寄与する事業提案および施設設計を行うこととする。

#### 【計画地概要および前提条件】

敷地面積：（民有地）32,735.26㎡＋  
（公有地）隅田川テラス・  
大横川左岸遊歩道

用途地域：（民有地）準工業地域、建  
ぺい率60%、容積率300%

▷収益事業と公共貢献事業を併せもつた事業提案とすること。

▷計画地へのアクセス性および計画地周辺の回遊性の向上に資する整備提案とすること。

▷民有地と公有地の一体的利用を考慮した空間整備を提案すること。

▷計画地の日常的な利用・管理運営を担う組織体制と役割（エリアマネジメント組織等）を提案すること。

#### 【計画上の主なポイント】

・江東区の歴史・文化性や株式会社ヤマタネの事業特性を考慮した計画とすること。

・計画地周辺に立地する各種施設の来訪者の誘致を考慮した計画とすること。

・計画地周辺の水と緑のネットワーク構築を考慮した回遊性を生み出す計画とすること。

・計画地周辺の水域（隅田川、晴海運河、大横川）の水面の活用を想定した計画とすること。

・各拠点施設がもつ資質・資源を明確化し来訪者のニーズを考慮した計画を検討すること。

・地域特性や来訪者属性を考慮して計画対象地にどのような施設が必要かを検討すること。

・各自の提案に基づいた適切な施設の規模を類似の事例を調べて設定すること。

菊池康太・姫野由衣・若松瑠芽  
■コンセプト

かつて生活に寄り添う存在であった竹林は、私たちの日常からは遠い存在となり放置されている。荒れ果てた竹林は土砂災害を引き起こし、人々にとって竹財から竹害へと変化した。 commonsの課題として、新規参加が難しいことが挙げられる。成長速度が早く、定期的な資源の供給ができ、継続的な整備を必要とする竹林は、現代版 commonsの再構築において最適な場といえ

る。そこで、成長型の現代版竹 commonsを構築する。1. 放置竹林という身の回りの環境を、2. 竹細工の伝統・技術という道具を手にして、3. 職人や住民が自ら建築に携わることで、4. 資材・建材・燃料化しながら整備、5. 竹林を中心とした「竹仲間」がいる。以前と異なり新規参加者や一時的参加者も積極的に受け入れ、再び竹書から竹財へと自己変容させていくことで、常に新しい場を創出し、終わらない場、持続的な竹 commonsを形成する。

■講評

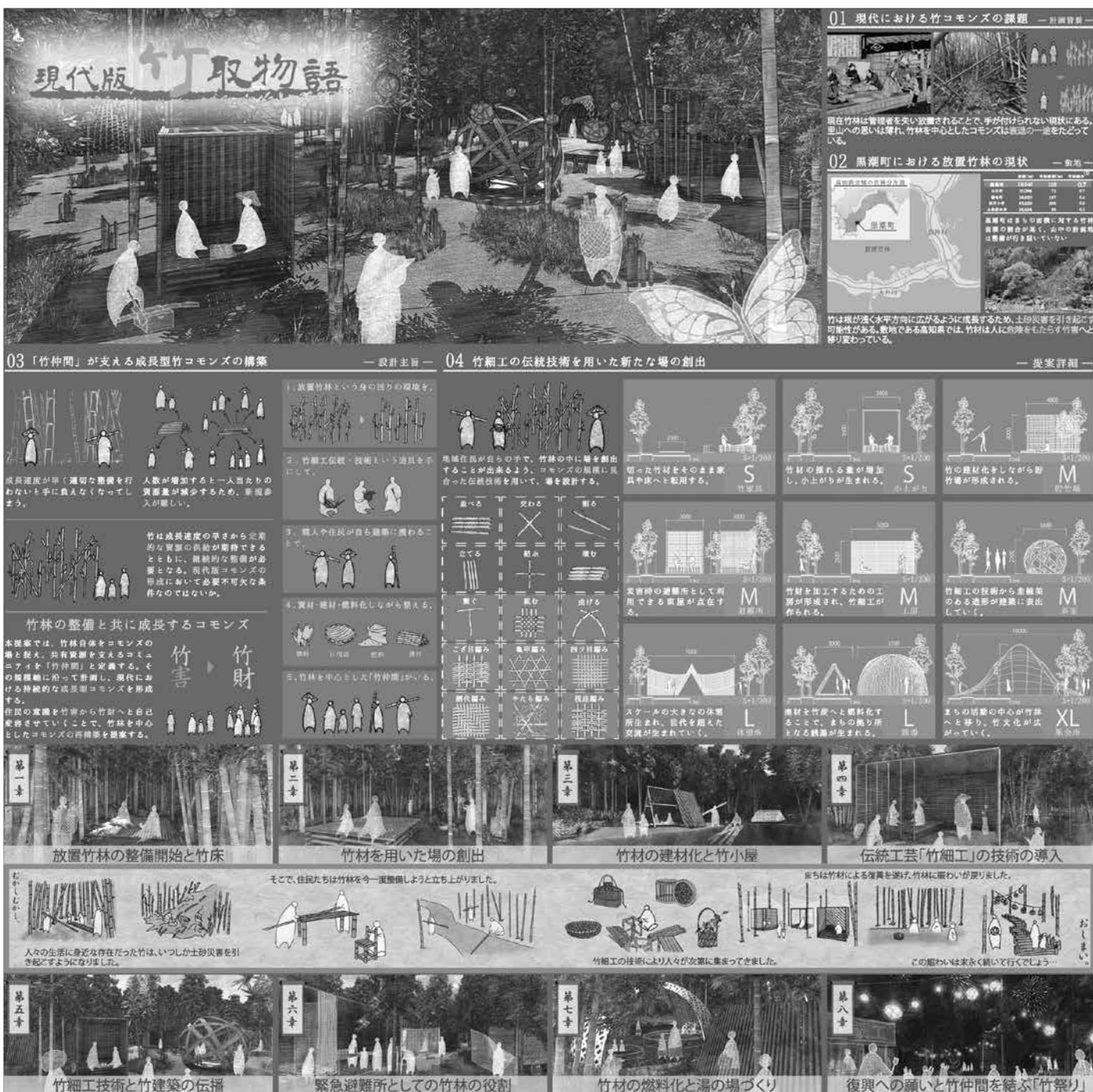
2024年度の日本建築学会コンペの課題は、「commonsの再構築—建築、ランドスケープをもたらし自己変容」

でした。本課題の趣旨は、「1. 身の回りの環境を、2. 道具を手にして、3. 自らの身体を投じて、4. 資源化しながら整える、5. 仲間がいる、という条件……」と課題文章にもあるように、建築は環境の中に存在し、その周辺との折り合いを自らの経験則に則りそれを仲間内で反映させることを要求するものでした。

本計画は、高知県黒潮町の山間を対象としています。そこでの commonsとは何か？ それは、その町にある放置竹林の環境破壊問題です。黒潮町は、太平洋に面する町ですが、町内のほとんどは山で占められており、集落は街道沿いに細長く押し込まれています。そして、町の大半は放置された竹林で

覆われています。竹林はかつて生活を支える籠や網傘、農作業具、水筒などさまざまなモノに作り替えられていた貴重な資源でした。現在ではそれらはプラスチック製品に置き換えられ、顧みられない竹は厄介者として放置されたのです。

そこでの commons化の方法は、当たり前のごとに戻るといことです。昔ながら使われてきた竹の特性を再認識し、手作業の技を再構築し、周辺の人を巻き込みながら、未来へと残すためのカタチに変えて示したのです。さらに本地域の課題として、東南海地震によって引き起こされる津波への対応策を示したことは、課題趣旨以上の解答をしたといえるでしょう。（佐藤信治）



園田悠太・小林弘真  
・勝野琉生・田中修斗

■コンセプト

ローカル鉄道はかつて、その地域のシンボルとして地域住民の生活を支えてきた。そこでは地域の文化や記憶が継承され、地域にとって重要な財産であったが、近年、移動手段の変化により鉄道利用者が減少し、廃線の危機を迎えている路線も少なくない。財政を立て直すために多くのローカル鉄道は観光鉄道に置き換え、危機的状況を乗

り越えようとしているが、それは一時的対策であり地域の文化や記憶の継承という観点から持続可能な試みとはいえない。本計画はローカル鉄道の車両を地域住民が地域の資源を用いて、 commons 的空間として再構築することで日常生活の中に地域のシンボルと向き合う時間を創出することを目的とする。

千葉県に所在する銚子電鉄をモデルケースとし、この地域で江戸時代から栄えている漁業から出た廃棄物、漁網やロープ、ト口箱などを地域資源として捉え、これらを住民自らが駅舎に設置した工房で加工し、電車内に持ち込み2つの移動する空間を演出する。地域住民が自らの手で銚子電鉄を commons 的空間へと再構築していくことで新

たな地域のシンボルとなる。

■講評

近年、ローカル鉄道は人口減少や移動手段の多様化により利用者が減少し、廃線の危機に直面している。観光資源としてローカル鉄道の再活用もあるなかで、本計画はローカル鉄道を地域のシンボルと捉え、社会の持続可能性という観点から、市民の自治と相互扶助の力を草の根から養うことを目的としている。commons の主体は地域住民と電鉄会社であり、具体的には千葉県の銚子電鉄をモデルとしている。この地域の江戸時代から続く漁業文化に着目し、漁網やロープ、ト口箱などの廃材を地域資源と見立て、それらを駅舎の

工房で加工した上で車両に持ち込み、住民個人の日常を支える車両と、住民と観光客がさまざまなイベントに遭遇する車両の2つの移動空間を住民自らが創出していく構想に魅力を感じた。一方、手軽な材料で住民たちが車両をカスタマイズするという発想は、利用者の能力に任せることになり現実的には難しく、社会実装ができるのかという疑問が付きまとう。それでも、自分たちの生活に必要なものを自分たちで確保し配分するという仕組みは、commons の民主的な管理の本質を体現していると捉えられ、その可能性に希望を持ちたい。もう少し洗練された仕様のデザインを提案できれば説得力が高まったかもしれない。(長谷川洋平)



### 01. 背景 シンボルの再認識

地域は建築物や文化といった歴史を背景としてきたシンボルがある。しかし時代の変化によってそのシンボルの価値や意味が変化する。そのため地域が新しいシンボルと向き合う必要がある。

そこで私たちはシンボルの再認識による commons として再構築することをコンセプトとして再認識する。

### 02. ローカル鉄道

矢張り多くのシンボルとしてローカル鉄道をあげ、ローカル鉄道は地域、そこに住む住民の移動手段として認識し、社会の重要なシンボルとして認識されていく。人口減少やマイカーの増加により利用者が減少し、廃線の危機に陥っている。そこで電鉄会社として再構築し、利用者を増やす取り組みが求められる。しかし、そのような取り組みは一時的なものではなくなり、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 03. 敷地 “千葉県銚子市”

そこで私たちはローカル鉄道の一つとして千葉銚子市にある銚子電鉄を再活用していく。銚子電鉄は創業100年を記念してローカル鉄道であり地域の人の移動手段から資源の活用まで利用された地域の人の移動手段に変わってきた。また近年の経済危機の中、廃線の危機に直面している。そこで私たちは、近年に創設したより再構築を促すことが本業である電鉄は数字のままであり利用者減少は避けられている。そのため銚子電鉄を再活用し、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 04. 産業と伝統芸能

銚子市は伝統的に漁業と結びつき、漁業、醤油の醸造、香辛料の生産などがある。銚子電鉄は創業100年を記念してローカル鉄道であり地域の人の移動手段から資源の活用まで利用された地域の人の移動手段に変わってきた。また近年の経済危機の中、廃線の危機に直面している。そこで私たちは、近年に創設したより再構築を促すことが本業である電鉄は数字のままであり利用者減少は避けられている。そのため銚子電鉄を再活用し、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 05. 漁業廃棄物

銚子市は江戸時代から漁業と結びつき、漁業、醤油の醸造、香辛料の生産などがある。銚子電鉄は創業100年を記念してローカル鉄道であり地域の人の移動手段から資源の活用まで利用された地域の人の移動手段に変わってきた。また近年の経済危機の中、廃線の危機に直面している。そこで私たちは、近年に創設したより再構築を促すことが本業である電鉄は数字のままであり利用者減少は避けられている。そのため銚子電鉄を再活用し、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 06. 日常車とイベント車

電車は地域の移動手段として重要な役割を果たしている。そこで電鉄会社として再構築し、利用者を増やす取り組みが求められる。しかし、そのような取り組みは一時的なものではなくなり、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 07. タイムスケジュール

時間、人、電車。日常車は地域の移動手段として重要な役割を果たしている。そこで電鉄会社として再構築し、利用者を増やす取り組みが求められる。しかし、そのような取り組みは一時的なものではなくなり、持続可能な取り組みとして再構築し、地域資源と捉え、

### 08. 漁業廃棄物による空間変容

ローカル鉄道はかつて、その地域のシンボルとして地域住民の生活を支えてきた。そこでは地域の文化や記憶が継承され地域にとって重要な財産であったが、近年、移動手段の変化により鉄道利用者が減少し、廃線の危機を迎えている路線も少なくない。こうした財政を立て直すために多くのローカル鉄道は観光鉄道に置き換え、危機的状況を乗り越えようとしているが、それは一時的対策であり、地域の文化や記憶の継承という観点から持続可能な試みとはいえない。

本計画はローカル鉄道の車両を、地域住民が地域の資源を用いて、commons 的空間として再構築することで、日常生活の中に地域のシンボルと向き合う時間を創出することを目的とする。

千葉県に所在する銚子電鉄をモデルケースとし、この地域で江戸時代から栄えている漁業から出た廃棄物、漁網やロープ、ト口箱などを地域の資源として捉え、これらを住民自らが駅舎に設置した工房で加工し、電車内に持ち込み2つの移動する空間を創出する。自習スペースや読書、共同キッチンなど個人で空間を構築する「日常車」と、食卓やフリーマーケット、伝統芸能、まつり、パブリックビューイングなどの集団で空間を構築する「イベント車」の2つの車両は、住民や観光客を乗せ各駅で様々なイベントと遭遇する。この提案により、地域住民が自らの手で銚子電鉄を commons 的空間へと再構築していくことで銚子電鉄が新たな地域のシンボルとして在り続ける。

# 船の橋掛

## —かつての船橋と現代の船橋の架け橋の提案—

齊藤慶悟・薄井李空  
・小野田鼓・藤崎知輝

### ■コンセプト

FRP 船は解体が困難であり、多くが不法投棄され、漁業や環境に悪影響を及ぼしている。その解決策として、千葉県船橋市の船橋漁港を対象にFRP 船の再利用を通じた地域活性化を提案する。かつて漁港は住民や旅人も集い、祭や市場を通じて地域の中心となっていた。しかし時が経ち、漁師のコモンスのみが残り、一般人の立

ち入りが減少し、不法投棄が増加した。そこで「海のコモンス」を再構築し、漁師と住民の空間を分けつつ、両者の架け橋となる場を形成する。

「ふなばしユニット」は、FRP 船を漁師が回収し、住民の手で再利用するものであり、釣り人の居場所確保、漁具の整理、住民の生活拡張などの機能を持つ。各ユニットを組み替えることで可変的な空間を構築し、交流を促進する。船橋ユニットが回遊性を高め、釣り堀ユニットが釣り人のスペースを確保し、具収納ユニットが漁具の管理強化を担う。この仕組みにより地域と漁業の共生を実現し、新たな船橋のシンボルを築くことを目指す。

### ■講評

船橋市の船橋漁港における、漁師のコモンスの再構築を試みる計画である。漁港周辺は都市化により宅地や商業施設、物流倉庫が立ち並び、漁港のあるまちとしての認識は薄れ、漁港・漁師と地域住民との間に物理的・心理的な距離が生まれている。本計画は船橋漁港だけに限らず、全国の漁港でも問題となっている不法投棄されたFRP 船に着目し、それを地域資源として再利用する提案である。具体的にはコモンスの主体である漁師が、地元工務店の協力を得てFRP 船を加工した「ふなばしユニット」と呼ばれる装置を用いて、漁師と地域住民との架け橋とな

る場を形成する。漁師と地域住民とでは生活リズムが異なるため、平常時は漁師の作業場と、釣り人や住民のための場を時間帯で使い分け、朝市や祭り際には多くの人々が集う場へと変容する。こうした多様な場の形成に自動制御された「ふなばしユニット」が機能する。漁師たちのプリコラーージュでも製作可能に見えるスケール感や、漁港の環境を整備するという目的が、最終的に人々の連帯を生むという物語性にリアリティを感じた。一方で「ふなばしユニット」のデザインは美しいものであったが、パリエーションや集合時の構成に機能的差異が見えにくく、再考の余地があると感じた。

(長谷川洋平)

# 船の橋掛

## - かつての船橋と現代の船橋の架け橋の提案 -

FRP 船の不法投棄が深刻化する船橋漁港と、海のコモンスを再構築し、漁師と住民の交流を促進する。  
「ふなばしユニット」によりFRP 船を再利用し、釣り人の居場所確保や漁具管理を行い、新たな船橋のシンボルを築く。

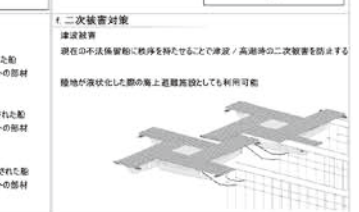
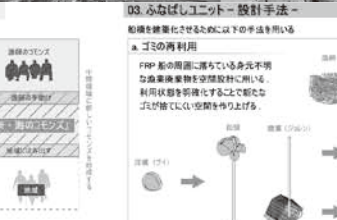
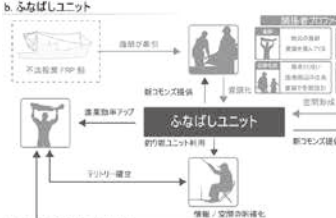
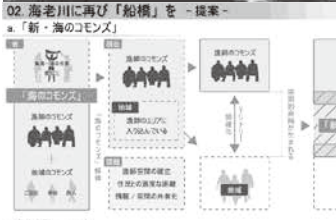


### 01. 船橋漁港とFRP 船 - 問題 -

全国の漁港ではFRP製の不法投棄船が共通の問題となっている。軽量・高強度・耐食性に優れるが、運搬に不向きで適正な処理ルートが未確立のため、長年放置され所有者不明となるケースが多い。さらに、予算の制約により行政主導の処分も困難であり、全国で問題が深刻化している。



船橋漁港と海老川下流域にはFRP船の不法係留や放置漁具が存在する。住民は実用物と認識するが、漁師にとっては放置ゴミであり、この認識のギャップが原因で住民だけでは問題解決が困難だった。

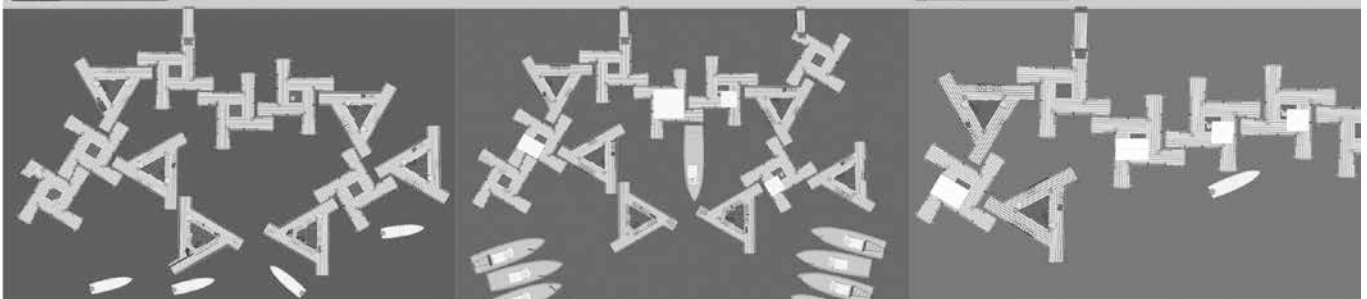


### 04. 機能転用例 - 平面計画 -

・花火大会はゴミ箱が少ないというロコミがある、また漁港が狭い割に、見学範囲が狭いから桟橋で海に出る

・船上で行われる儀式であるが、市民は陸岸からしか眺めることができないため「船橋」によって神楽に近づく。

・漁師のための売場としての役割を持っていた朝市だが漁師の原書により商業施設に建て替わってしまった朝市をもう一度漁港の場に戻す。



**むすび**  
～ヤマタネの遺伝子をむすぶ～

穴井悠士朗・神田壮一郎  
・草野真司・森田健太郎

■コンセプト

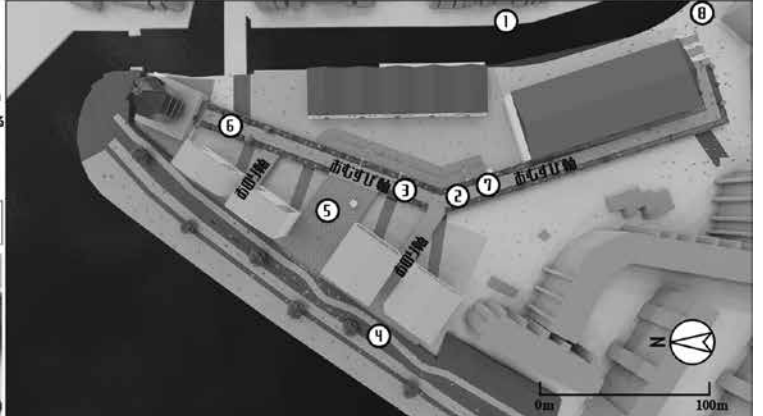
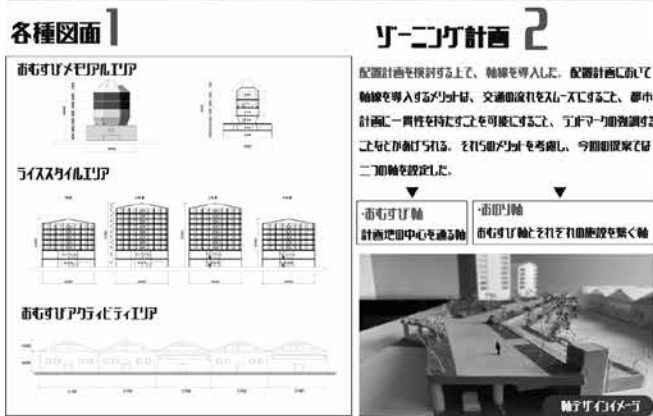
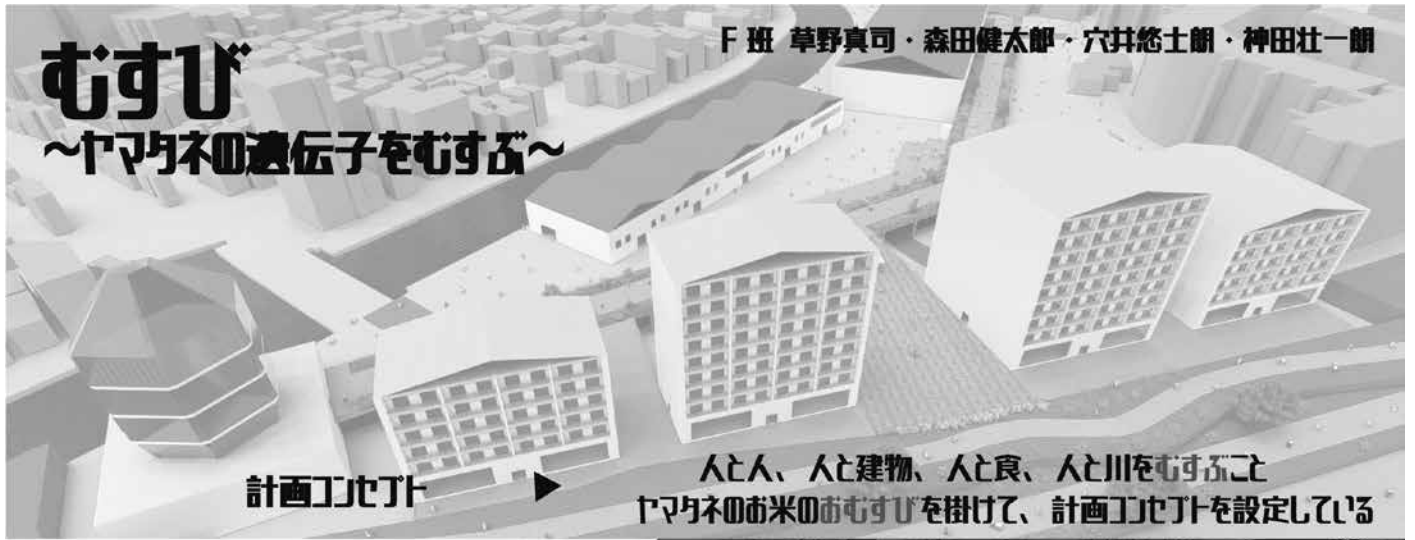
本計画では「ヤマタネのお米」と「水上アクティビティの普及」をコンセプトとした複合施設とした。配置計画を考える上で、計画地の中心を通る「おむすび軸」とそれぞれの施設をつなぐ「おのり軸」の2つの軸線を設定し、軸を起点として、4つのエリアを設定した。「おむすびアクティビティエリア」では、ヤマタネの倉庫をリ

ノベーションし、水上アクティビティ施設やキッチンカーの拠点を整備した。「おむすびカルチャーエリア」では、お米にまつわるショップやレストランを整備し、災害時にも避難施設や物資提供の拠点として機能できるように3階にスーパーを配置した。「おむすびメモリアルエリア」では、ヤマタネの事業やお米について学べる博物館や展望デッキを整備し、外観はお米をかたどったデザインとした。「ライススタイルエリア」では、ヤマタネの主な収益源である不動産事業への貢献を目的とした賃貸住宅を整備し、河川沿いに配置することで景観を楽しめるようにした。

■講評

今年度の課題テーマは「江東区臨海部における民有地と沿岸公有地の一体的開発の提案」と題して、市民への貢献や平等・公平な活用のみを考えた開発ではなく、土地（敷地）所有者としての要望や企業としての地域社会への貢献なども考慮する必要があることから、例年になく難しい課題であったといえる。本作品では、敷地所有企業の創立時の業態が米問屋であったことに着目し、日本人として馴染み深い「おむすび」からヒントを得て、「むすび（結び）」というキーワードをメインコンセプトとして提案されている非常にユニークな作品である。また、不整形地となっている敷地に2つの軸を

設定し、敷地を縦断する軸を中心に施設展開を図り、水辺方向に向けた軸で敷地内での回遊性を試みている点も、課題テーマに則した提案として高く評価できるものである。さらに導入機能についても、アクティビティ・ライフスタイル・カルチャー・メモリアルといったエリアを設定し、効率的に“結び”つけた施設配置とすることにより、地域に開放されつつ一体的な敷地利用を展開している点も秀逸であるといえる。惜しむらくは、歴史を刻み貴重な地域資源ともいえる倉庫群に対して、現代的なリノベーションを試みてはいるが、導入機能や活用方法が果たして適切な提案となっているか疑問が残るところである。（山本和清）



# Connect with ～川を繋ぐ、地域を繋ぐ、人を繋ぐ～

今井克久・江口 楓・塩沢陸斗  
・相馬咲良・高田悠真

## ■コンセプト

計画地は江東区南部の越中島地区に位置し、隅田川・大横川・晴海運河に囲まれた三角地帯であり、江東区の「水彩都市」らしい立地特性を有している。川に囲まれた東京の中でも稀な土地特性を活かして舟運事業で隅田川周辺から東京湾までをもつなぎ、また内部河川を活用することによって、観光として、公共交通としても最大限

活用する。住宅街が多く、子どもを持つ家庭が多い地域に所在するため、水族館を通して自然教育を行い、地域とつながり、現在は分断されている月島エリアとの物理的な分断を解決することでさらに地域が一体となることができる。結婚式場やマンスリーマンションでは、人と人とのつながりを大切にする空間となるようにという意図が込められている。管理運営については、株式会社ヤマタネがエリアマネジメントを行い、新規ヤマタネ事業を行うことで、「ヤマタネとつながる」ことができ、新規事業に貢献できると考える。

## ■講評

江東区越中島地区の海際に位置する本計画地は、東京都臨海部に残る数少ない海辺の広大な開発用地である一方、周辺地域との連続性については課題がある場所となる。本提案では、計画地内に水族館、ホテル、レジデンス、舟運ターミナルを配置するとともに、門前仲町エリアや月島エリアとの間に「軸線」を設定し、周辺地域と計画地とをつなぐ回遊動線を設けることにより、海際の立地性の課題解決を試みている。計画地中央に配置した三角形の

水族館を中心に回遊させる動線は、隅田川や大横川など、越中島特有のリバーフロントの眺望を楽しむことができるだろう。一方、各施設の具体的な建築計画や意匠デザイン、計画地全体のランドスケープデザインが抽象的なものにとどまっている点や、エリアマネジメントの具体的な仕組みが提示されていない点は提案内容の不十分さを感じざるを得ない。本提案で掲げられている「ウォークラブルを意識した計画」は単なる動線計画や施設の配置計画だけでは実現しない。来訪者が回遊するパブリックスペースの詳細な計画・デザイン、各施設との関係性、日常的な利用管理の体制づくりなど、より具体的な提案が望まれる。(菅原 遼)



C班 江口楓 相馬咲良 高田悠真 塩沢陸斗 今井克久

## ● 計画のポイント

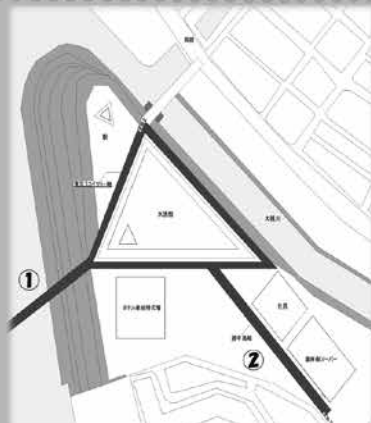
### 01 水族館



### 02 ホテル



空飛ぶイルカショー



舟運

### 03 ターミナル



### 04 住居



披露宴会場



倉庫型スーパー

## ● 管理運営



管理運営については、株式会社ヤマタネがエリアマネジメントを行い、新規ヤマタネ事業を行うことで、「ヤマタネとつながる」ことができ、新規事業に貢献できると考える。

エリアマネジメントによるまちづくりを実施することにより、快適な地域環境が生まれ、その環境を維持、継続できる仕組みを整えることが見込める。

また、エリアマネジメントにより、居住人口や就業人口が増え、空き家率の低下や犯罪率の低下など、地域の活力が回復・増進され、地域貢献にも寄与できると考える。

## ● 披露宴会場 コンセプト



### connect with

～川を繋ぐ、地域を繋ぐ、人を繋ぐ～

川に囲まれた東京の中でも稀な土地特性を活かして隅田川周辺から東京湾までをも繋ぎ、また内部河川を活用することによって、観光として、公共交通としても最大限活用する。

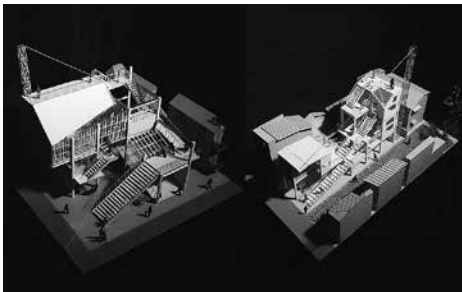
住宅街が多く、子どもを持つ家庭が多い地域に所在するため、水族館を通して自然教育を行い、地域と繋がり、現在は分断されている月島エリアとの物理的な分断を解決することでさらに地域が一体となることができる。結婚式場やマンスリーマンションでは人と人との繋がりを大切にする空間となるようにという意図が込められている。

## ● 水辺の環境整備

計画の中心になる水族館が公共財事業として川の環境運動を地域の人々と共に行うことで、水辺の環境整備が整うと共に、「地域の人々がつながる」ことができると考える。

また、隅田川テラスと一体的に整備をすることで地域活性化にもつながると考える。

【担当】 佐藤 信治  
小林 直明



卒業設計

船橋水景を宿す  
～水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置～

若松瑠苒

はじめに

千葉県船橋市を流れる海老川。河口部にひっそりと残る使われなくなった漁具倉庫、朽ちかけた棧橋、静寂に包まれたFRP船が、かつて水辺で営まれていた豊かな生活の断片を物語る。「船橋」という地名は、ヤマトタケルの東征時に小舟を並べて橋とした伝説に由来し、この都市が本来、水ととも

に息づいてきた歴史を示している。本提案は、防災として要請される調節池を水害を段階的に受け入れ、人と自然の緩衝材としての建築へと昇華させ、船橋における水辺との共生を図る。

01. 計画背景：都市空間に散在する水辺の記憶  
約65万人が暮らす船橋市の海老川下流域には、廃れた船溜まりの風景から係留杭に船を固定する漁師や、漁具倉庫で漁の準備を整える人々の営みが想起される。古来より日本の生活文化は水辺とであり、水運、農業用水、漁業など多様な生業が息づいていた。海老川は船橋の生命線として機能してきたが、現代では水辺に人々の姿はほとんど見られず、かつての賑わいを体験的

に知る市民は極めて稀少となっている。  
02. 課題：安全の代償に失われた水景文化  
「暴れ川」と称され幾度となく洪水被害を引き起こしてきた海老川に対し、船橋市は画一的な河川改修工事を推進し、川底掘削やコンクリート護岸敷設を行った。水害をゼロにする防災としての対策は成功し、氾濫はほぼ見られなくなったが、安全性と引き換えに船橋独自の水景は姿を消し、海老川の存在は市民の記憶から薄れていった。現在、気候変動に伴う異常気象の頻発により、海老川中流域の遊水池を時間50mm流量対応の調節池として整備する計画が進行している。  
03. 設計主旨：柔らかい土木の理念  
水域を遠ざけるのではなく水害を受

容し、そこに船橋の生業を宿すことで水辺に向き合う居場所を提案する。これにより船橋の水景記憶を保存し、自らの居住地の歴史を認識していない市民へ水景文化を継承する。水域とそれに付随する文化・生業、そして私たちの生活を守る土木—この三者をつなぐ緩衝材としての建築を提案し、「やわらかい土木」の実現を目指す。具体的には、防災機能を持つ調節池に道の駅の地域情報発信機能と水辺文化を継承する博物館機能を内包した「川の駅」を構想する。  
04. 敷地：計画敷地の特性と水辺の痕跡  
計画敷地は30年以上未開発のまま調節池予定地とされてきた海老川中流域の低湿地帯である。全長7.46kmの現



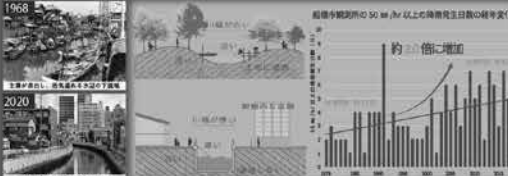
船橋水景を宿す  
～水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置～

01 船橋に点在する水辺の記憶の断片



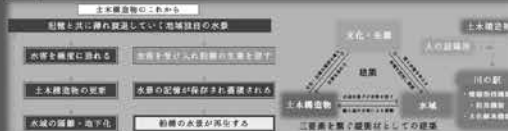
千葉県船橋市は典型的なベッドタウンであるが、かつての水辺は賑わいで溢れていた。水景が薄れた現在でも船橋の歴史に水辺の記憶の断片が埋め込まれた。漁具を準備し船の出る船溜まり、水辺の賑わいを照らす灯台、対岸を繋ぐ橋と築路する船溜まり

02 安全と引き換えに失った水辺の記憶



水辺はかつて賑わいを育みながら、その土地の生業を文化を宿し町の成長を促してきた存在である。治水技術の進歩やインフラの整備に伴い海老川の環境は壊れ、水害という負の側面が取り残された。画一的な河川改修や宅地開発により浸透域が減少し、近年の異常気象に最大50mm/hに耐える新たな土木の更新が必要とされている。

03 水害を受け入れる柔らかい土木



はたして水は脅威だろうか。水害をゼロにする防災ではなく、水害を段階的に受け入れる防災を目指す。かつての水辺の記憶を手がかりに生業を宿し、水景の記憶を蓄積していくことで、水害を受け入れ地域住民の拠り所となる柔らかい土木を形成し、水辺と共生する船橋水景の再生を試みる。

04 原風景と市街地の境界線に宿る記憶



水辺の記憶の断片から地形やかつての海岸線を読み取り、海老川の中流に位置する調節池予定地を選定した。幾度となく水害が押し寄せた低湿地帯であり、浸透域の少ない市街地への水害を受け入れる場所である。都市的な街域と原風景が接する上流域の境界に位置し水景文化の拠点を演じている。



船橋と調和する木造杭式構造



船橋に自生する木材を使用することで環境と調和すると共に、かつての水辺を形成していた作業場や棧橋の水景の再生を試みる。脆弱性を持った木造とすることで、地域住民自らが入力する水辺へと成長していく。

水辺の生業の可視化と川の空間化



船橋の水景の形成に似い水辺の記憶の保存機能を持った船を中心に各施設毎の機能が付着していく。状況や時代に応じて船の延長や用途機能を可変させることで、地域住民が育てる拡張性のある建築となっている。

水辺と共生する柔らかい土木



水運や漁業が生活の主軸だった頃の賑わいが現代の船橋に再生し、水辺に寄り添う居場所となる。水害を受け入れ自分だけの水辺との距離を再発見できる豊かな水景文化の発信拠点となる。



# 川越再群落化計画 ～時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ～

菊池康太

## 01. 群落的町並み

一埼玉県川越市一番街蔵造りの町並み一

地域特有の個性を持ち、町並みの形成に強い影響力を持ちながらも、時の流れに合わせ、その時々暮らしや文化を受け入れることで、さまざまな活動の風景が重層し、常に変化し続ける町を群落的町並みと定義する。本計画敷地である川越は、蔵造りの町並みという個性を持ちながらも、時に合わせ

た暮らしや文化を受け入れてきた群落的町並みであるといえる。奥性を持つ町家形式がさまざまな暮らしや文化を内包し、それらの活動が町との接点である店蔵から沁み出すことで、暮らしの息吹ある町並みを形成し、古の文化の中で今の暮らしを大切にす川越を継承してきた。

## 02. 観光の飽和による群落的町並みの崩壊

しかし今日では、観光の急激な増加により、町は観光で飽和し、観光一色に塗り替えられてしまった。町と暮らしの接点であった店蔵は、観光から暮らしを守る擁壁と化し、重要文化財であった店蔵背後の町家は解体され、川越町家の特性とは相反する一般的な住宅が立ち並び、庭はアスファルトで埋

められてしまった。奥性を喪失した川越の町並みは、暮らしや文化、自然といったさまざまな活動のレイヤを失い、活動の息吹のない映画のセットのような町並みと化している。

## 03. 都市を再群落化する自然に学ぶ居場所の作り方

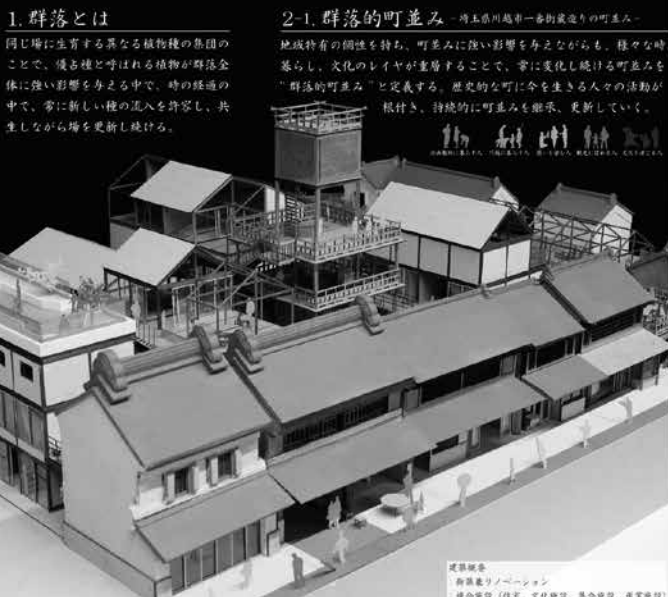
このような群落的町並みが崩壊した川越において、もう一度暮らしや文化の居場所を創り、息吹ある町並みを形成する手立てはないのだろうか。そんな問いを持った私は、都市を再群落化する自然に目を惹かれた。人間の飽和により、居場所を奪われた都市において、自ら居場所を創り出し、都市を再群落化してきた自然。観光の飽和により暮らしや文化の居場所が奪われた川

越の町に再び居場所を創り出す手がかりを自然が持っているのではないかと。本提案では、自然が都市に居場所を見出してきた事例を収集し、20個の再群落化エレメントを抽出する。

## 04. 川越を再群落化する空間の導出

抽出したエレメントと川越の町並みを群落化してきた土間や庭といった場を掛け合わせ、川越を再群落化する新たな空間を導出し、町並みに点在させる。現在活用されていない蔵は改築することで用途化し、店蔵背後に住宅や文化施設、宿泊施設、商業施設、集会所などの用途を持った奥性ある建築群を計画する。本設計では、川越を再群落化する14の空間を導出した。ここでは、代表的な6つの空間について概説

# 川越再群落化計画 ～時を再び鳴鐘する群落的町並みのすゝめ～



**1. 群落的町並み**  
同じ場に生育する異なる植物種の集団のことで、優占種と呼ばれる植物が群落全体に強い影響を及ぼす中で、時の経過の中で、常に新しい種が流入を許容し、共生しながら場を更新し続ける。

**2-1. 群落的町並み** 一埼玉県川越市一番街蔵造りの町並み一  
地域特有の個性を持ち、町並みに強い影響を及ぼすながらも、様々な時暮らし、文化のレイヤが重層することで、常に変化し続ける町並みを「群落的町並み」と定義する。歴史的な町に今を生きる人々の活動が根付き、持続的に町並みを継承、更新していく。



**4-1. 都市を再群落化する自然**  
大地を群落化してきた自然は大規模な都市化によって住処を奪われた。しかし、人工物で溢れる都市の中で、自然は居場所を見出し都市を再群落化する。



**4-2. 自然に倣う再群落化エレメント**  
自然が都市に住処を見出し、都市を再群落化してきた事例を収集し、その過程から20個の再群落化エレメントを抽出する。



川越の町に暮らしの奥性を再編する

街路空間を再編する

観光の奥性を再編・開放する

新たな空間を創る

空気を保つ再建が文化を露出する

緑の住処を覆い自然の居場所を守る

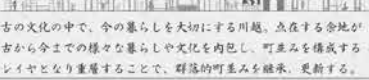
忘れられた蔵を地域の居場所に変える

## 2-2. 町並みに命を宿す奥性ある町家形式



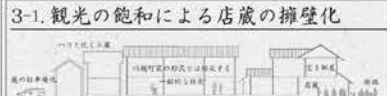
店蔵に細長く伸びる町家が連続する川越では、背後の町家で暮らしが町に溢れ出し、暮らしの息吹のある町並みを形成する。

## 2-3. 時が重層する群落的町並み



古の文化の中で、今の暮らしを大切にす川越。点在する余地が古から今までの様々な暮らしや文化を内包し、町並みを構成するレイヤとなり重層することで、群落的町並みを継承、更新する。

## 3-1. 観光の飽和による店蔵の擁壁化



町が観光で溢れたことで、土間などの町と暮らしの中間領域は失われつつある。店蔵が外資系企業の手に入り、背後の町家形式は解体され、町と暮らしは切り離され、暮らしの住処も失った。

## 3-2. 群落的町並みの崩壊



奥性を喪失したファサードは暮らしの息吹のないものとなり、時の止まった映画のセットのような町並みと化していった。町は観光一色となり、様々な活動が重層する群落的町並みは崩壊した。

## 4-3. 川越を再群落化する空間の導出

町並みを群落化してきた場と自然から抽出した再群落化エレメントを掛け合わせ、川越を再群落化する空間を導出し、点在させる。



建築種別：新築兼リノベーション 建築用途：複合施設（住宅・文化施設・宿泊施設・商業施設・集会所）



都市を再群落化する自然に倣い、観光を許容しながらも、再び町と暮らしや文化、自然を結び付けてきた奥性を再構築し、人々を奥へと誘う

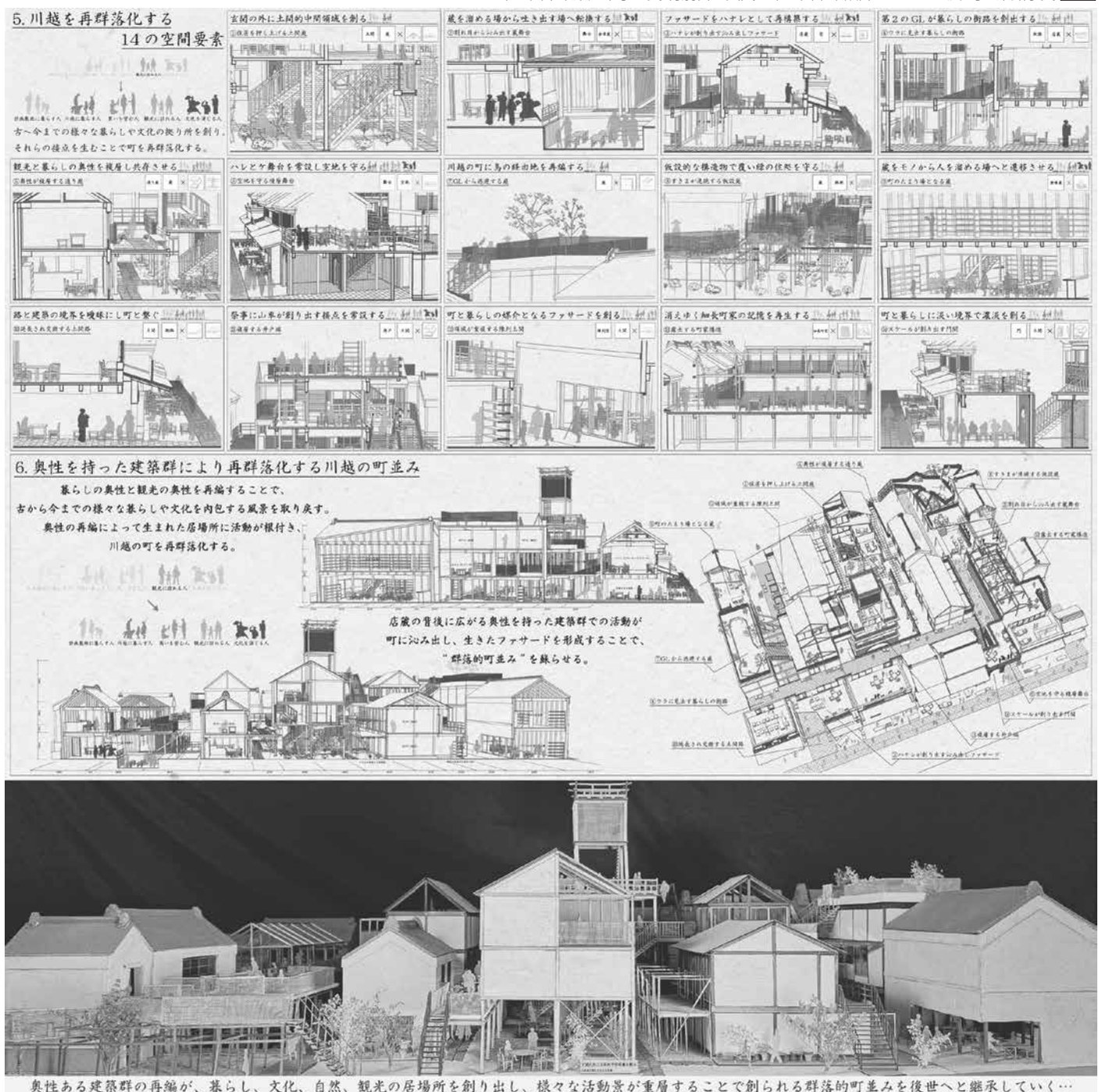
する。  
**【蔵を溜める場から吐き出す場へ転換する】**  
 ②割れ目から沁み出す蔵舞台：モノを溜める役割を担っていた蔵は時の流れとともにその役割を失い、町並みを創るセットの1つと化している。本提案では、蔵を古から今までのさまざまな文化を内包し、露出する場として再構築することで、蔵を溜める場から吐き出す場へと転換していく。  
**【ファサードをハナレとして再構築する】**  
 ③ハナレが創り出す沁み出しファサード：店蔵が外資系の企業の手に渡ったことで、居住空間という役割を失った店蔵の2階部分を、コワーキングスペースや寺子屋、舞踊教室など、2GLからアクセス可能な町のハナレとして

活用することで、暮らしの息吹あるファサードを蘇らせる。  
**【第2のGLが暮らしの街路を創出する】**  
 ④ウラに見出す暮らしの街路：町の中で暮らし、商い、文化、観光といったさまざまな活動の接点であった街路は観光で飽和し、暮らしや文化の居場所は奪われてしまった。そこで、店蔵のウラに2GLを設けることで、町の中に暮らしの街路を創出する。  
**【観光と暮らしの奥性を複層し共存させる】**  
 ⑤奥性が複層する通り庭：奥性を持った町家形式こそが町並みを形作ってきたとともに、川越の魅力であると考えられる。そこで、観光で飽和する街に暮らしの奥性を宙に浮かし、暮らしと観光の奥性を複層させることで、暮らしの

奥性を守りながら奥性を観光にも開く。  
**【ハレとケ舞台を常設し空地を守る】**  
 ⑥空地を守る積層舞台：町に点在する空地は祭事の際、町に文化を露出する舞台となっていたが、近年、空地は建築化され、舞台となる余地は年々数を減らしている。そこで、ハレとケの性格を持った舞台を常設することで、空地を守るとともに、文化と町の接点を再編する。  
**【仮設的な構造物で緑の住処を守る】**  
 ⑦すきまが連続する仮設庭：町家形式の解体とともに、庭はコンクリートで舗装されてしまった。そこで仮設的な用途を持った構造物で自然の場を覆うことで緑の住処を守り、町と自然の間で暮らし風景を蘇らせる。

以上のような川越を再群落化する空間が、川越に暮らしと観光双方の居場所を創出し、それらの接点となる中間的領域を現代に合わせて再構築し、擁壁化された店蔵の境界を和らげることで人々を奥へと誘い、人々と自然の居場所を創りながら、かつての川越らしい町家形式を現代的に更新していく。  
 05. 奥性を持った建築群により再群落化する川越の町並み  
 奥性ある建築群での活動が町に沁み出すことで生きたファサードを取り戻し、奥性の再編によって生まれた居場所に活動が根付き、古から今までのさまざまな暮らしや文化を内包する風景を取り戻すことで、川越の町を再群落化する。

第37回千葉県建築学生賞 特別審査員賞 / 第25回卒業設計コンクール展 埼玉県知事賞 地域



# 速度的もやいに 速度的手法を用いた都市の交通結 節点の提案

姫野由衣

私たちの都市体験は、日々の移動によって編まれている。そして、その速度の違いが都市に複層的な風景や記憶の層を形成している。徒歩での緩やかな移動、車による高速移動、公共交通での中速移動といった異なる速度は、それぞれ独自のリズムや視点をもたらし、人々の都市との関わり方に多様性を生む。しかし、現代都市は利便性や効率性を追求するなかで、速度を平均

化・均質化し、多様な移動のあり方や、それに伴う風景の重なりを失いつつある。

こうした状況に対し、本計画は「速度」という都市の根源的な構成要素に着目する。計画地の浅草は、水上バス、人力車、鉄道、高速道路、地下鉄といった多種多様な交通手段が集積し、それぞれが異なる速度のレイヤーを形成する都市である。下町文化と、観光や通勤による現代的速度が複層的に共存し、「時間の層」が可視化される希少な環境であるが、これらの交通や文化の断片は統合されておらず、浅草の都市空間は分断と散在を抱えている。

本提案の〈速節処〉は、この分断された交通網と散在する文化資源を、

「速度」という視点で再編・再解釈し、都市の融合性を高めることを目指す。単なる交通結節点ではなく、異なる速度の交差・共存を空間的に演出することで、人々が都市の時間構造を身体的・視覚的に体験できる場を創出する。例えば、人力車や徒歩といった低速空間では、不均一な動線や余白を取り入れ、賑わいと滞留を誘発する。一方、高速道路や鉄道といった高速空間には、大スパン構造や素材の連続性を用いて、流動性や速度感を際立たせる。これにより、都市の中に速度の切り替えを設計し、時間の流れそのものを建築化する。

〈速節処〉はまた、都市に必要なとされる複合的な機能も担う。動線と滞留

を編み込む柔軟な拡張性、災害時の拠点となる防災性、多様な人々が交差し出会う交差性、緑化や水辺の回復による公共性、歴史を蓄積し未来に継承する保存性、地域とともに成長する地域性——これら6つの観点を組み込み、建築と土木、伝統と現代、個と公共が速度を介して交差し、融合するための新たな都市装置を形成する。

このように、速度を設計の軸とすることで、浅草のような歴史と現代性が交錯する都市において、都市空間の新たな意味を引き出す手段となる。〈速節処〉は、浅草の未来像に新たな速度と風景を立ち上げる起点として、都市と人との関係性を問い直し、拡張していくことを目指す。

卒、25 石原賞 / せんだいデザインリーグ2025 100選



**01 現在する浅草**  
東京都東区浅草  
現代社会は「速度的均一化」が年々顕著により体験の個性が失われ、都市の豊かさを損ねている。水辺、下町、残存は、水辺、人力車・高速道路、一般道路、地下鉄の様々な機能が複雑に絡み合い、下町のリズムと現代の高速度性が交差する特異な環境である。

**02 速度的重なる可視化**  
02-1 分断された交通  
02-2 分散される文化  
02-3 分断する都市の速度

**03 速節処に求められる役割**  
【拡張性】  
【防災性】  
【交差性】  
【公共性】  
【保存性】  
【地域性】

**04 速度に対する設計**  
04-1 速度の重なりによる空間配置  
04-2 速度的空間図式  
04-3 速度的空間図式  
04-4 速度を感する空間の演出【空間的丁寧な提案】

**05 生まれる速度的衝突**  
見交感  
吹き抜け  
並行  
速節処

速度的手法をもとに空間を建物に拡張し、高速と低速と低速な動線が交差する場を設計することで多層的な時間の流れを生み出す。移動操作と空間の層性を操作することで視覚的・身体的に異なる速度体験を生み出す。

卒業設計  
変化する文化塔  
～消えゆく祭礼の蓄積装置～

園田悠太

地方都市にはその土地ならではの祭礼や文化がある。しかし、時代の変化とともに存続の危機に陥っているものがある。後継者が育たなくとも、地域にあった事実を後世に受け継ぐ手法を提案する。

01. 岡崎市の市町村合併の過程

現在の地方都市では市町村合併による市町村の拡大が進む。私が生まれ育った岡崎市も形を変え続けてきた。

02. 市町村合併による文化の分断

特色ある祭りや風習が残る地域があるが、同じ市でも近隣の地区の文化を知らずに衰退している現状がある。

03. 更新され続ける文化と課題

岡崎市は徳川家の活躍が影響し花火技術や伝統産業が市の繁栄を支えてきたが、後継者不足に陥っており文化が消えはじめている。

04. 本来の意味で理解されていない祭礼文化

岡崎市には船上から花火を奉納する菅生祭鉾船神事奉納花火や、各町内が山車を所有する能見神明宮大祭、火の勢いに圧倒される瀧山寺鬼祭りなど特徴的な祭礼がある。しかし空間に感動するだけで本来の意味を知らずに帰る。

05. 文化を建築として保存する

文化の要素を形態化し、文化を建築という空間として残す。

有形の祭礼文化は祭礼時に急に形となり現れ、参加者に親近感がないため、日常的に祭礼文化に触れる場所を作る。無形の祭礼文化は本来の意味を理解する者は少なく、祭礼の本来の意味を感じらる建築空間に変換し開放する。

●石垣ワイヤー

ワイヤーに文化が付着し、未来の岡崎の景色を作っていく。

●配置の意味

壁の外側に文化が付着し塔の内部には家康の生涯をかたどった建築空間が広がっている。家康の功績に関係しているものほど壁に引き寄せられていく。

●クレーン

今後人々が新たに生み出した文化は文化塔に建築化して保存される。

●周辺に突き刺さる橋

周辺の四方八方に張り巡らされた橋は祭礼文化を種類別に分け設計されたもの。関係する橋を経由して付着する。

●円盤ステージ

有形文化の展示空間や人々の活動拠点になり新たな文化が創造される。

06. 文化塔は保存と発酵を繰り返し変化する続ける

新旧各地の文化が絡まり市民一体となって文化を保存し混ざり合い発酵する文化倉庫となる。

07. 市内各地の神々が宿る石神として街へ開く

市内各地の神々が引き寄せられ宿る場所となり、橋の周囲には関連した店や通りができて祭礼文化は街に染み出る。

赤れんが卒業設計展2025 100選/第48回学生設計優秀作品展 出展

**01 岡崎市の市町村合併の過程**  
現在の地方都市では行政運営の効率化やその基礎の強化などを目的として、市町村合併により市町村の拡大が進んでいる。愛知県岡崎市も明治末からの隣町が市町村合併を繰り返して現在の形へと変化してきた。

**02 市町村合併による文化の分断**  
市が拡大してメリットもあったが、デメリットとして各地域に特色ある祭りや風習が残る地域がある。一方、同じ市にながら近隣の地区の文化や特色について知らなくなってしまう。またその地域に祭礼を受け継ぐ人がなくなり衰退してしまっている。

**03 更新され続ける文化と課題**  
歴史として重要な点である岡崎市の徳川家の活躍が祭礼文化を発見し、伝統技術が市の繁栄を支えてきた。しかし、それらの伝承者や祭礼の文化はもとより後継者不足に陥っている。現状では祭礼が行われる地域の文化は消えてしまう。

**04 本来の意味で理解されていない祭礼文化**  
祭礼文化は祭礼時に急に形となり現れ、参加者に親近感がないため、日常的に祭礼文化に触れる場所を作る。無形の祭礼文化は本来の意味を理解する者は少なく、祭礼の本来の意味を感じらる建築空間に変換し開放する。

**05 文化を建築として保存する**  
文化の要素を形態化し、文化を建築という空間として残す。有形の祭礼文化は祭礼時に急に形となり現れるので、祭礼文化の本来の意味を感じられるような建築空間に変換して人々に開放する。

**06 文化塔の役割**  
祭礼の歴史、文化、交通を支えたきた橋や対峙するように、市内各地の文化や江戸期から伝わる文化を計画地帯に提案する。

**07 文化塔は保存と発酵を繰り返し変化する続ける**  
新旧各地の文化が絡まり市民一体となって文化を保存し混ざり合い発酵する文化倉庫となる。

**08 市内各地の神々が宿る石神として街へ開く**  
市内各地の神々が引き寄せられ宿る場所となり、橋の周囲には関連した店や通りができて祭礼文化は街に染み出る。

**変化する文化塔**  
園田悠太 祭礼の蓄積装置

勝野琉生

私たちは日常生活において、無意識のうちにステレオタイプによるフィルターを通して他者と接してしまっているのではないかと。とくに、日本における移民問題は、その一例として挙げられる。日本では年々移民の数が増加し、実は日本は世界で第4位の移民受け入れ国となっている。しかし、その多くは労働力として受け入れられ、日本社会を共に支える一員、すなわち「国民」としての認識は薄いままである。

とりわけ、移民が多く集まる地域として埼玉県川口市が挙げられる。中でも芝園団地は日本人と外国人の住民比率がほぼ半々という特徴を持ち、「外国人団地」とも呼ばれている。こうした現状を背景に、芝園団地を敷地とした移民と日本人の共生のためのモデルケースを提案する。

文化や生活習慣の違いを受け入れるには、日常の中で自然と異文化に触れる「無意識的な接触」が必要である。異文化が日常生活の一部として組み込まれることで、長期的に相互理解を形成しやすくなる。団地のようなプライベートとパブリックが交錯する「中間領域」に着目し、この空間に異文化に触れるための施設群を配置する。

本提案は、用途を持った壁により団地敷地全体をつなぎながら、以下のような施設を点在させる計画である。たとえば、日用品や食品などの物々交換が行える「交換所」、宗教的背景を尊重する「礼拝所」、地域住民が協働して育てる「団地菜園」、そして多国籍な食文化を体験できる「ホーカーセンター」などである。

とくに「ホーカーセンター」は共生の象徴的存在として重視する。ここでは各国の飲食店が軒を連ねるだけでなく、日本およびアジア各国の食材を取り揃えたスーパーを併設する。日常的に買い物や食事をする場に異文化が存在することで、意識せずとも異なる文化背景に触れられる設計である。

さらに、団地内で老朽化のために解体されたシンボルを、移民と日本人住民が協力して再建し、施設の中心に設置する。この構造物は、通常時は食器返却口として機能するが、地域の祭事においては檣として中心的役割を果たす二重の意味を持つ。日常と非日常が交差するこの空間により、文化を超えた繋がりが生まれやすくなる。

このように、団地という中間領域にニュートラルかつ多目的な空間を配置することで、無理のないかたちで異文化交流が日常化され、相互理解の基盤が自然と築かれていく。この仕組みを通じて、移民と日本人が共に支え合いながら生活する「共生のモデルケース」への転換を目指す。

新潟建築卒業設計展 Session! 2025 新潟ゆきどけ賞 / 赤れんが卒業設計展2025 100選

0342

# 国際団地

## international apartment

### 移民と日本人の共生のモデルケース



#### 01 ステレオタイプによるフィルター

私たちは、生存バイアスという本能から未知を既知と思うために国や宗教、人種によるカテゴリ化をしてきた。その影響で多くの人が移民として他国に移住している。



#### 02 日常に異文化をみる

文化の違いに慣れにくくするために日常生活の中に異文化に無意識的に触れる空間が必要ではないか。異文化が生活の一部になることで、長期的に濃り相互理解を形成していく。



#### 03 これからの社会の縮図

日本で一番移民が多い地域、埼玉県川口市に位置する、通称「外国人団地」である芝園団地をモデルケースとして敷地選定する。元は日本人が多く住む団地だったが、2019年に外国人居住者数が日本人居住者数を越えてしまった。



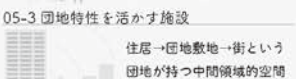
#### 04 団地と異文化の新たな可能性

団地にはプライベートとパブリックの中間領域的空間がある。その空間に日常に異文化をみる施設を配置する。中間領域にニュートラルな空間を設けることで、異文化交流を促し、相互理解を形成し、異文化になれるきっかけとなる。

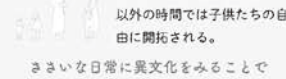


#### 05 多岐に渡る相互理解のきっかけ

05-1 居場所となるランドスケープ  
直線的な動線に対し、曲線的に交わることで、快適な居場所として機能する。



05-2 点在することの居場所  
多世代、多国籍の共存する環境はステレオタイプの払拭を実現する。文化が垣間見える以外では子供たちの自由に開拓される。



#### 06 言語から建築化

移民と日本人の間に起こりうる事象を言語化  
「浸食」「文化の違いによる分断」「言語の壁」「認識のズレ」「文化の違いによる圧力」  
その言語を分析して図形化  
「浸食」「分断」「ずれ」「圧力」「壁」



#### 08 点在する異文化

交換所  
・醸造から始まる異文化  
中国の外に粗大ゴミなどを置いておく必要がある人が勝手に持って帰るといった文化と日本のゴミ捨てのシステムはマッチする。お互いに利益を生む関係性となる。

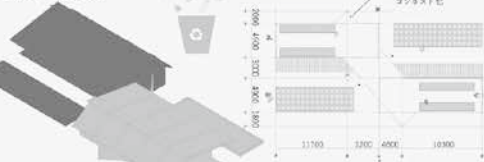


礼拝所  
・自然の光  
礼拝所の中央にある柱は透明なパイプになっており、雨の日は雨どいとして機能し、晴れているときは太陽の光を礼拝所内へと導く。



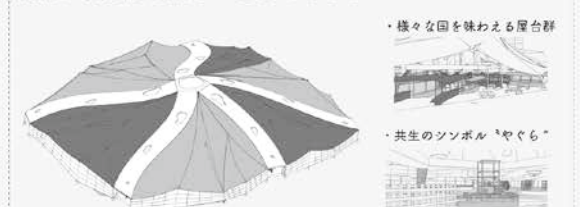
#### 団地菜園

・廃棄物のコンポスト化  
XLのホーカーセンターででた食材の廃棄物をコンポストに活用することで肥料へと変換する。ホーカーセンターにも卸され使われることで食の循環を生む。

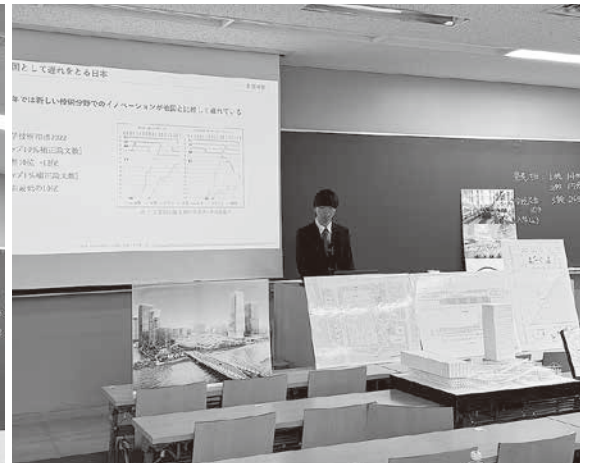
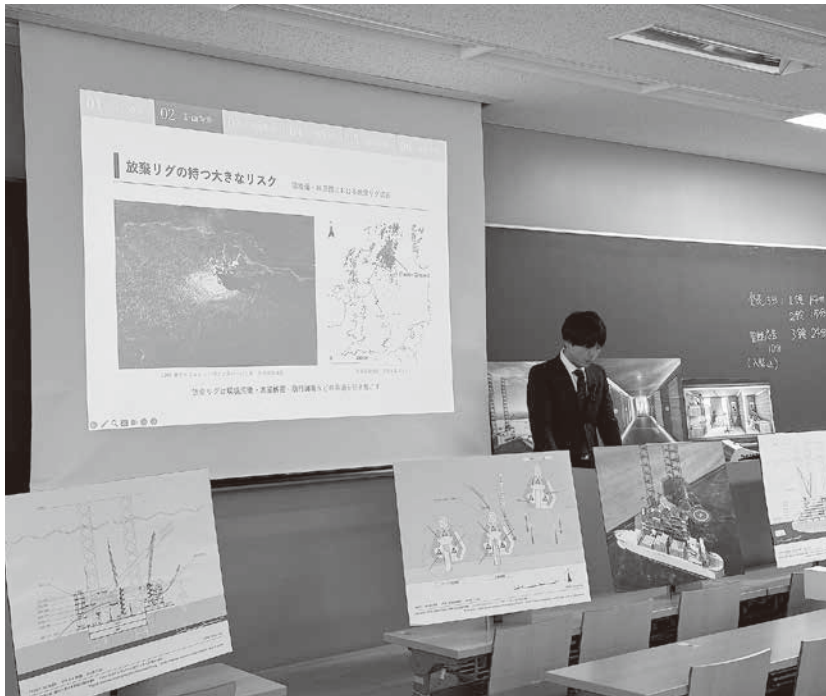


#### XLホーカーセンター

日本人向けの飲食店や様々な国の飲食店だけでなく、日本とアジア両方のスーパーを併設することで日常の利用に異文化を見ることが出来る。



【担当】 佐藤 信治  
長谷川洋平  
小林 直明



修士設計

## 鎌倉における大仏殿の再生計画

—観光地の特徴を利用した避難施設としての提案—

尾沢圭太

日本を取り巻く観光業は転換期の渦中に立たされている。近年、街中で外国人を見かける機会が多くなった。彼らの持つ大きなキャリアケースは、それが社会の多様化によるものではなく、観光によってもたらされた変化であることを示している。コロナ禍で発生した制限の撤廃により、以前の水準まで観光業は回復しつつあり、そこに拍車

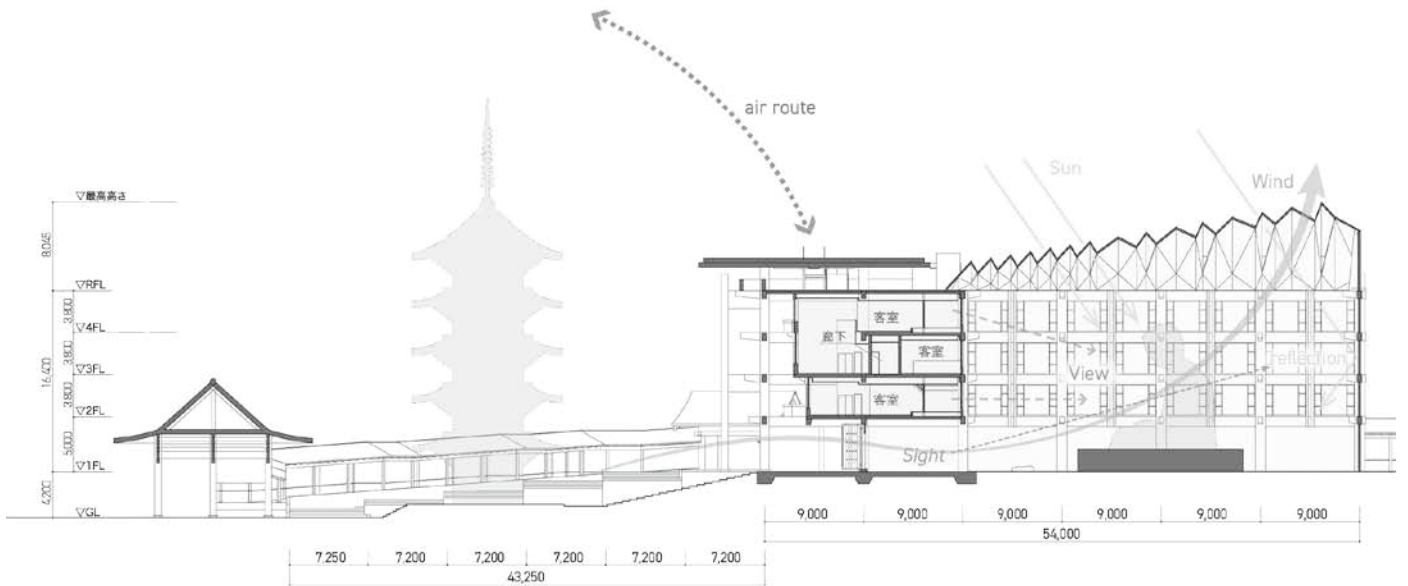
をかけるように発生した円安によって、インバウンド需要が急拡大している。それに伴い観光の型も多様化し、その場所の固有性や価値を新たな観光資源に転化していくことが、観光産業の当たり前になりつつある。このような現状ではあるが、日本という国は災害大国であり、観光地も例にもれず地震や津波による被災リスクを常に抱えている。つまり、日本におけるインバウンドの拡大は、経済的メリットをもたらすだけでなく、被災者数の潜在的増加を促す要因であるともいえる。そのため、観光業はそこを訪れる観光客とそこに住まう住民の生命を守る必要がある。以上のような状況を踏まえ、オーバーツーリズムが発生する観光地にお

ける、観光と災害対策の両立が成された災害避難施設が必要である。

鎌倉市は神奈川県に位置しており、関東地方の南部にある歴史的な街である。首都圏の近郊に位置しており、アクセスのしやすい立地特性となっている。反面、これを生かした観光形態により十分な経済効果を得られていないと考えられる。一般に、滞在時間が増加するほど観光客一人当たりが観光地に落とす金額の量は、食事・交通・施設利用といった部分で増加していく。しかし他の観光地と比較すると鎌倉市は、観光客の滞在時間が短く、観光資源に見合った利益が十分に得られていない。そのため、従来通りのお手軽観光地としての面を持ちつつも、滞在期

間を日単位で長く伸ばす工夫が必要である。また、鎌倉市は沿岸域にある街であり、津波のリスクも抱えている。津波浸水想定図では、観光客が多く訪れる長谷エリアや材木座エリアがとくに浸水の被害が大きいと示されており、津波から命のほかにも観光資源である文化財等を守る必要があると考えられる。また、津波発生時は住民のみならず多くの観光客が一斉に避難行動をされると考えられる。人口密度が高く混雑している鎌倉の街においては、災害時の避難が円滑に行われぬのは容易に想像がつく。このことから鎌倉市には津波来襲時の避難場所が多く必要であるといえる。

本計画では観光地に多く存在する



個々の観光スポットに対して、観光業を両立させつつ災害時の避難施設を設計することを軸とする。また、それに付随する形で鎌倉の観光業を助長させる観光施設となることも目的とする。観光施設用途としては、主に宿泊機能を導入し、観光資源と宿泊施設の掛け合わせによる宿泊客増加と新たな観光価値の創出を行う。計画敷地においては、鎌倉市内の観光スポットから条件に沿って一カ所選定し、そこに対して計画を行っていく方針とする。日常時は観光施設として、災害時は避難施設として機能する二面性を持った建築を目指す。敷地選定をするうえで、以下のように条件を定める。

(1) 観光客が密集するエリアにある

こと（観光客が多く集まる地域であるほど避難場所の数が必要となるため、観光客の密度が高いエリアの観光スポットを選定する必要がある。）

(2) 観光客に広く知られていること（災害発生時の避難場所が分からないという観光客が多いため、観光スポットを避難場所とすることで、観光スポットの認知度がそのまま避難場所の認知度に直結するため、人気の観光地を選定する必要がある。）

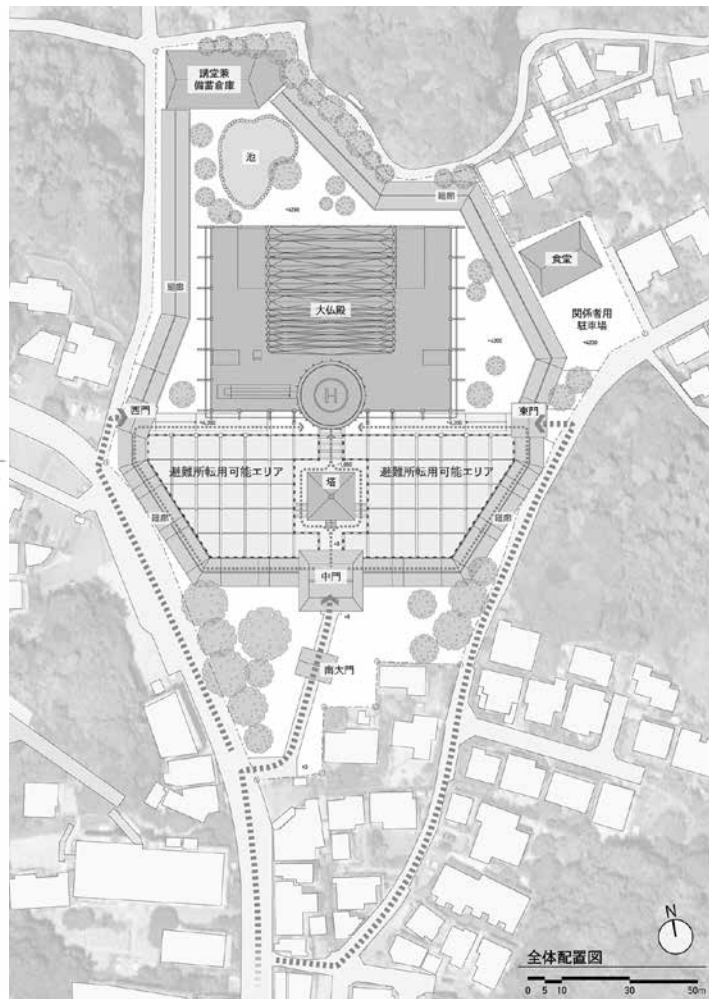
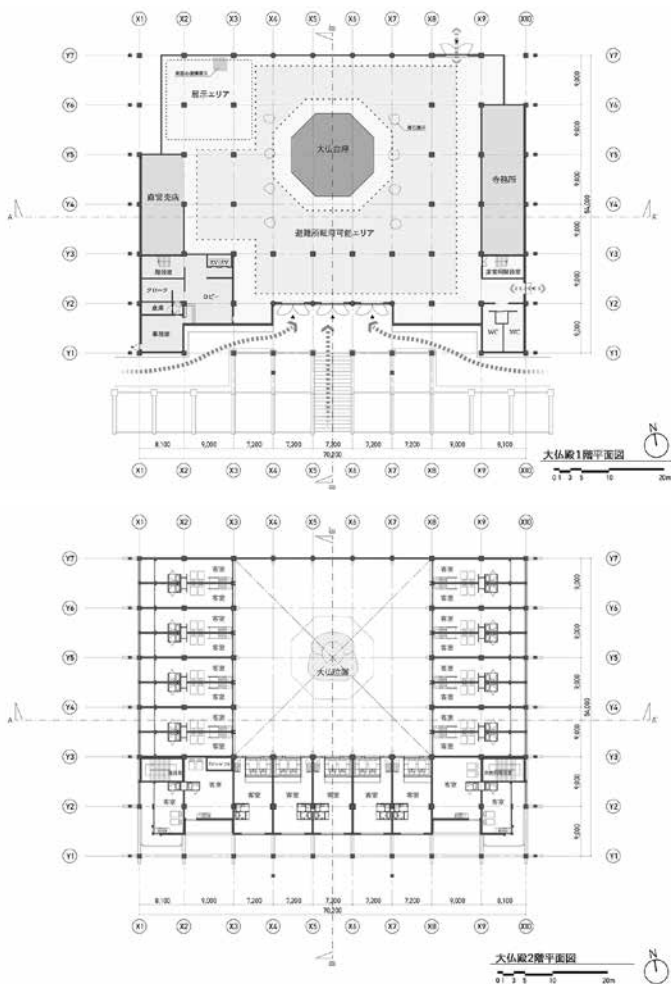
(3) 十分な広さがあること（日常時は街中に散っている観光客が避難時にはピンポイントで集中することになるため、十分な広さが確保されている観光スポットを選定する必要がある。）  
これらの選定条件から計画敷地は、

高德院鎌倉大仏とする。高德院は鎌倉駅西側の長谷エリアに属しており、鎌倉大仏をはじめとして長谷寺や由比ヶ浜などを目的とした観光客が多く密集するエリアにある観光スポットである。そして周辺の観光スポットと比較しても広い空間を確保しており、建築的操作による避難場所の構築が見込める。

本提案は寺院敷地内における計画であるため、現代および計画地にふさわしい伽藍配置を検討する。また、災害発生時に多くの観光客が滞ることなく円滑に避難できる動線計画を構築し、日常時と災害時の両立を図った建築となる構成をとる。当寺院はさまざまな宗派を遍歴してきたため、特定の宗派の伽藍配置に寄せる必要はないと考え

る。そこで、最古の仏教寺院である四天王寺の伽藍配置を参照する。元来は特定の宗派に属しない八宗兼学の寺院であったことから、さまざまな人が訪れる現代の高德院にふさわしい伽藍であるといえる。

本提案では観光スポットの観光利用と災害時利用を両立する施設の計画をした。今回は大仏殿というその土地に眠っていた歴史を汲み取りアプローチを行ったが、別の観光スポットにおいても同様に汲み取っていくことで、観光と災害を両立した施設計画が行えると考えている。今回の提案が観光地鎌倉における新たな災害対策の嚆矢となり、新たな鎌倉の街が見えてくるのではないだろうか。





## 2.3 インドネシアの抱える問題

### 2.3.1 経済発展と人口増加に伴う都市問題

都市では人口密度増加により、交通渋滞や大気汚染が深刻化している。

### 2.3.2 インドネシアの地盤沈下の現状

とくにジャカルタ北部では、インフラ未整備により2050年までに約95%が水没する可能性がある。

## 3. 計画方針

### 3.1 計画の目的と背景

本計画の主な目的は、廃棄された掘削リグを再利用し、持続可能な海上都市および防災拠点を構築することである。

## 4. 基本計画

### 4.1 敷地選定

#### 4.1.1 インドネシア ジャカルタ湾防潮堤区域

敷地はジャカルタ北部、カイルバル防潮堤区域を中心に設定する。

### 4.2 対象とする利用者層

対象はジャカルタ湾沿岸に居住する貧困層であり、新都市への移住が困難な住民とする。

### 4.3 リグの選定

#### 4.3.1 ジャッキアップ式リグの選定とその優位

ジャッキアップ式リグは、脚部を海底に固定し高い安定性を確保する。浅海域での運用に適し、曳航が容易で、設置や撤去も簡便である。近年は新規建設需要が停滞しているが、分布率が高い。

#### 4.3.2 扱うリグの選定

使用するものは、東南アジアに分布するシードリル社製「ウエストキャスト

ー」とする。

### 4.3 リグの持つ既存設備による対象人数の選定

電力面では10,000kWh/日から約3,300人、浄水面では20m<sup>3</sup>/日から1,600人が対応可能とされるが、メンテナンス性や安定稼働性を考慮し、対象人数は500人程度とする。

## 5. 建築計画

### 5.1 設計方針

ジャッキアップ式リグの可動性を活かし、従来にない柔軟性を備えた防災拠点を目指す。

### 5.2 全体構成

#### 5.2.1 クレーン可動域に基づくゾーニング

クレーンを用いたコンテナユニット工法により、動的な空間構成を実現する。

#### 5.2.2 可動レールを用いたユニットの挿入

拡張スラブに可動レールを設置し、迅速なユニット組み替えが可能となる。

#### 5.2.3 らせん形状による物資搬入の効率化

らせん形状を採用し、各階層への物資搬入の効率化と作業負担の軽減を図る。

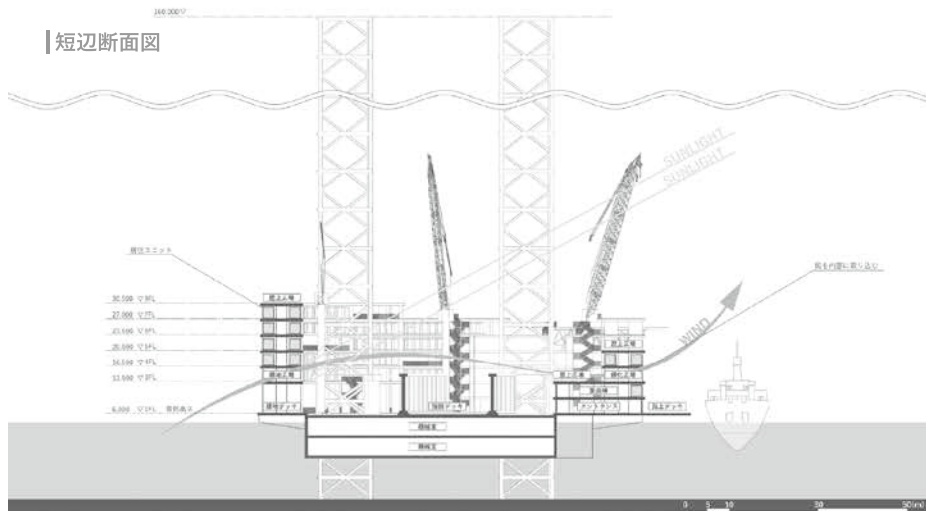
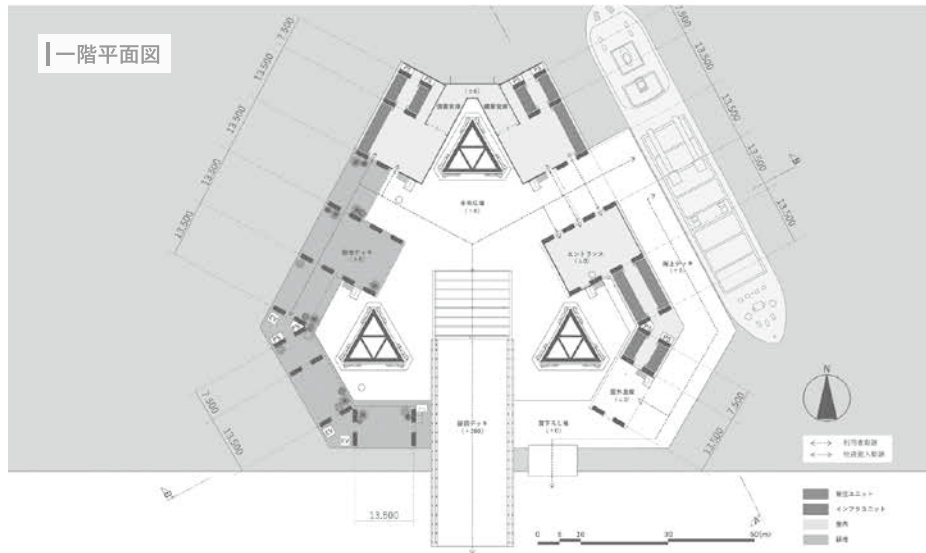
### 5.3 コンテナを用いたユニットの設計

#### 5.3.1 復興支援施設として用いられるコンテナ

軽量かつ耐久性があり、規格化されたコンテナを使用し、災害時でも迅速に供給可能とする。

#### 5.3.2 ユニットの多様な活用方法

40ft・20ftのコンテナを基盤とし、居住ユニット、インフラ機能ユニット、医療・防災ユニットを設計し、多様な用途に対応可能とする。



修士設計

## 島嶼建築

—瀬戸内海を対象とした離島環境と地域文化に基づいた宿泊建築の提案—

梅澤秀太

### 1. 計画背景

#### 1.1 国内の離島の現状と観光の注目

日本には14,000以上の離島があり、420島に人が住んでいる。離島は排他的経済水域の確保や文化の継承など多面的な役割を果たしている。

しかし、多くの島で人口減少や高齢化が進んでおり、地域活性化や移住の促進が求められているのが現状である。離島には各々の資源があるのにも関わ

らず、それらを活用できていない。

このような中、離島において注目を浴びているのが観光である。外国人旅行者の消費によって定住者の生活を支えることができると捉えると、今後人口が減少する見通しの離島において観光が重要な産業になると考えられる。

#### 1.2 離島の活性化のあり方と本研究の目的

離島は本土とは異なり、地理的に孤立していることから、外部からの資源やエネルギーに依存する従来の開発手法ではなく、地域固有の特性を活かした内発的なアプローチが求められる。本研究では、離島観光のあり方を考察するとともに、地域資源や自然環境を活かした建築のあり方を探求し、持続可能な宿泊建築の提案を目的とする。

### 2. 計画地

#### 2.1 観光づくりモデル観光地選定エリア

瀬戸内海は「モデル観光地」に選定され、集中支援の対象である。

#### 2.2 対象地の選定

瀬戸内海には160島の有人島があり、本研究では観光名所の直島と豊島を対象とする。これらの島ではコロナ禍以前に観光客が増加し、2025年開催予定の瀬戸内国際芸術祭により宿泊施設の需要がさらに高まると考えられる。

### 3. 基本計画

#### 3.1 分散型宿泊建築の提案—集合から分散へ

瀬戸内海の景観に配慮し、大型建築ではなく、島々に回遊性を持たせた分散型宿泊建築を展開。環境への影響を最小限に抑えることを目指す。

### 3.2 豊島

#### 3.2.1 豊島の豊かな自然風景

豊島は人口700人ほどの農業と観光の島。かつて産業廃棄物が不法投棄された歴史があり、その払拭を目的に美術館建設や棚田整備が進められた。現在は棚田に魅力を感じ移住する人もおり、収穫祭など地域イベントも開催される。一方で、棚田の維持が高齢化で困難になっている。住民ヒヤリングにより以下2点の課題が明らかになった。

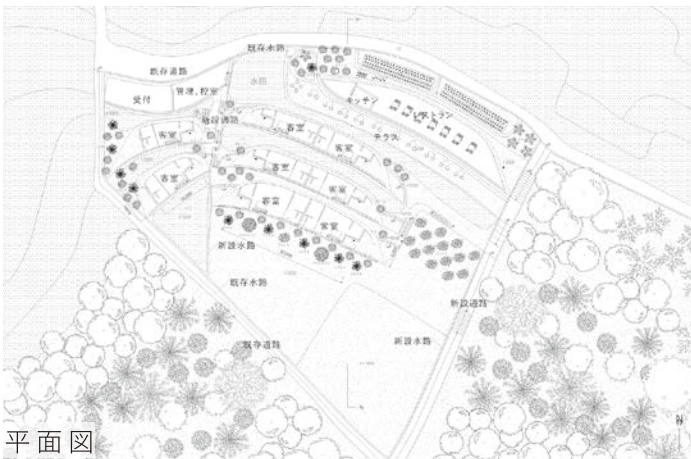
- (1) 宿泊施設建設時に住民説明が不十分で、噂で知ることもあり、小コミュニティでは適切な説明が必要。
- (2) 粗大ごみが島内に埋立処理され、過去の廃棄問題を想起させる。

#### 3.2.2 計画敷地

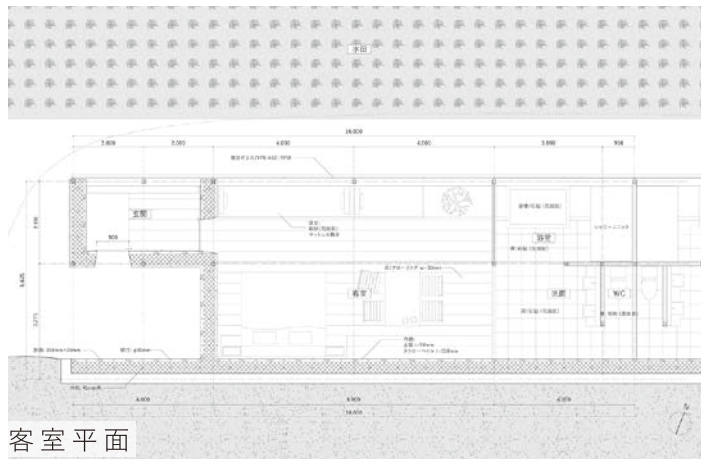
## 豊島



外観 パース



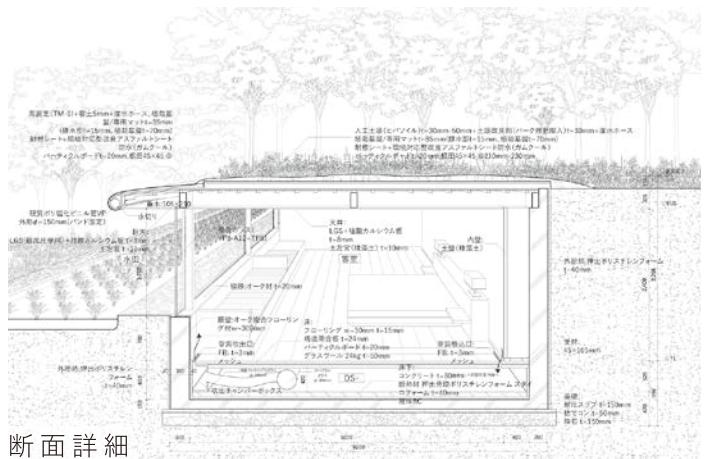
平面図



客室平面



内観 パース



断面詳細

棚田は4エリア（米、野菜、果樹、花）に整備されている。今回はそれらに手を加えず、荒廃地を計画地とする。

### 3.2.3 建築計画

荒廃した棚田が復元するかのよう棚田に溶け込む建築提案とする。施工プロセスとして棚田への影響を最小限に抑え、住民とともに作り上げていく建築とする。棚田の2mある段差から1,000mm程度土を掘り、半地下の空間に屋根をかけ、採掘した棚田の土を置き、棚田に溶け込む空間を演出する。

客室、レストランの屋根の畑と水田の水が交互に並びシームレスに前景に広がる棚田と海と調和する。客室は半地下にすることで人の目線に植物が広がる計画とする。客室の配置計画は棚

田に連続的な配置とする。既存道路に接するように受付、レストランを配置し地域の人も入り込める計画とする。

建築素材の選定においてはストローベイル工法を一部用いる。ストローベイル工法とは藁ブロック（350mm×450mm×900mm）を積み上げ土壁を塗り仕上げ漆喰を塗る工法である。住民へのヒヤリングから、藁を廃棄していることが確認されたため、積極的に活用する。ストローベイルは熱電動率がグラスウールと同程度にも限らず生産時のCO<sub>2</sub>排出量が少なく土に還る素材であり産業廃棄物に悩まされた豊島においてふさわしい建築マテリアルである。

### 3.3 直島

#### 3.3.1 アートによって価値を創造してきた島

直島は人口3,000人で、福武書店による現代アートによって活性化されてきた島。多数の美術館や家プロジェクトがあるが、高齢者の中にはアートへの理解に乏しいという声もある。

#### 3.3.2 直島に見られる集落の構成

直島は城下町であり、屋敷造りが多い。内部は南庭 - 南北続き間 - 北庭で構成され、風が通る構造になっている。

#### 3.3.3 建築計画

自然環境を活用し、屋根形状は入母屋を模した形式とし、周辺の景観との調和を意識した。客室の構成は直島の民家の構成に習い南北の軸に開口部を設け、海風や谷に流れる風を客室内に取り込み、快適な内部空間とする。

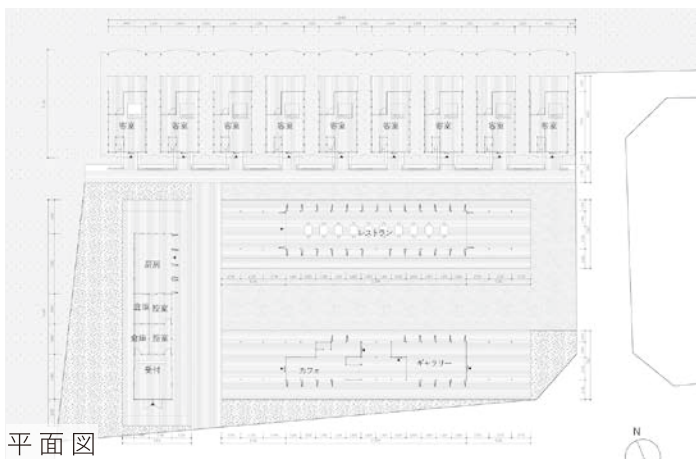
客室からは瀬戸内の景観が広がる。海側から客室、レストラン、ギャラリー、住宅地と観光客用途から集落へ用途を配置することで、普段交わらない観光客と地域住民の交流を促す。

レストランやギャラリーは開放的な場を構成し、観光客や地域の人が建築内に入り込みやすい計画とした。建具は開閉式のガラス戸とし、南から吹く風を客室へ受け流す計画とした。ギャラリー棟は工房・ワークショップスペース、地域の人が運営するカフェ・茶屋、アート関係のギャラリー、港でとれた魚を売る販売所などを1つ屋根の下に点在させる空間計画とした。直島に流れる水と風、そして地域の人たちの多彩な活動を許容できる空間となる。

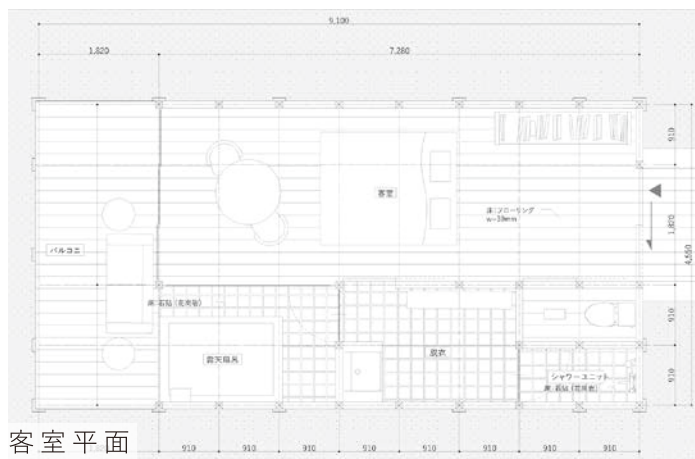
## 直島



外観 パース



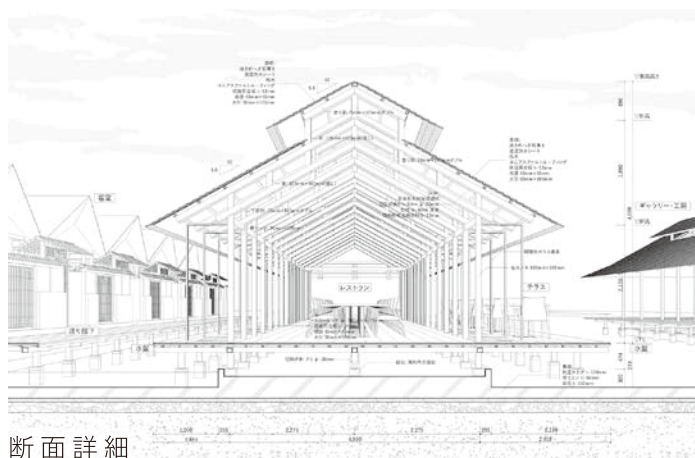
平面図



客室平面



内観 パース



断面詳細

## ■コンペ受賞歴一覧

**世界** 1 作品 (その他のコンペ 1 作品)

**日本一** 36 作品 (卒業設計 23 作品、建築学会コンペ 1 作品、その他のコンペ 12 作品)

**日本二** 26 作品 (卒業設計 2 作品、建築学会コンペ 5 作品、その他のコンペ 19 作品)

**日本三** 12 作品 (卒業設計 1 作品、建築学会コンペ 5 作品、その他のコンペ 6 作品)

その他受賞数 493 作品

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
昭和52年	●第10回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/石渡孝夫(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
53	●第11回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/富田善弘(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
54	●第12回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/小林直明(建築学科海洋コース) <b>日本一</b>		
56	●第14回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/吉本宏 <b>日本一</b> ・同入選/松本康治		
57	●第15回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/稲村健一 <b>日本一</b>	●「地場産業振興のための拠点施設」 ・支部入選/鈴木洋一	
58	●第16回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・最優秀賞「金の卵」賞/遠藤卓郎 <b>日本一</b> ○(社)日本港湾協会主催マリノポリス計画コンテスト ・優秀特別賞/川口利之	●「国際学生交流センター」 ・全国入選佳作/稲村健一 ・支部入選/大久保豪、杉田祐之、花岡豊、星野博史	
59	○第17回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/稲村健一		●第11回日新工業設計競技「ノアの箱船」 ・3等/遠藤卓郎、岩崎博一 <b>日本三</b> ●R.I.B.A 英国王立建築家協会国際学生デザインコンペ ・入賞/中村耕史、秋江康弘、稲村健一 ●第19回セントラル硝子国際設計競技「グラスタワー」 ・佳作/秋江康弘 ●三井ホーム住宅設計競技「2×4による新しい住まい」 ・佳作/川口利之、菅沼徹、筒井毅 ●桜門建築会第1回学生設計コンクール「建築学生交流センター」 ・佳作/稲村健一
60	●第18回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/富田誠	●「商店街における地域のアゴラ」 ・全国入選3等/藤沢伸佳、柳泰彦、林和樹 <b>日本三</b>	●A.I.A アメリカ建築家協会国際学生コンペ ・2等/秋江康弘 <b>日本二</b>
61	●第19回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/小野正人	●「外国に建てる日本文化センター」 ・全国入選3等/小林達也、佐藤信治、小川克巳 <b>日本三</b> ・支部入選/渋谷文幸 ・支部入選/林和樹、鶴飼聡(建築)、高橋義弘(建築)	●桜門建築会第2回学生設計コンクール「桜門校友クラブ」 ・1等/山崎淳一、松尾茂 ・佳作/小林達也、佐藤信治 ●第6回ホクストン建築装飾デザインコンクール「まちなかの公共トイレ」 ・佳作/小林達也
62	●第20回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・入選/海老澤克	●「建築博物館」 ・支部入選/松尾茂、横堀士郎、石川仁、鳥海清二(建築) ・支部入選/小野正人、小沢一実、渡邊俊幸	●ミサワホーム住宅設計競技 ・入選/小林達也
63	●千葉県建築三会学生賞 ・銅賞/近藤陽次 <b>地域三</b> ・奨励賞/毛見究	●「わが町のウォーターフロント」 ・全国入選1等/新岡英一、橋本樹宜、丹羽雄一(建築)、毛見究、草薙茂雄 <b>日本一</b> ・全国入選佳作/園部智英、石川和浩、原田庄一郎 ・支部入選/松尾茂、山本和清 ・支部入選/岩川卓也	●'88膜構造デザインコンペ ・佳作/山口明彦 ●第2回千葉ふるさと住宅設計コンクール ・佳作/川村佳之 ●桜門建築会第3回学生設計コンクール「ゲストハウス」 ・1等/山口明彦、原利明(建築)、渡辺一雄(建築) ・2等/加藤麻生 ・3等/飯田隆弘、丹羽雄一(建築)、有馬哲也(建築) ・佳作/小堀泰毅、伊藤剛 ・佳作/長谷川晃三郎、佐久間明

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第22回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞／長谷川晃三郎 <b>日本一</b></li> <li>・入選／佐久周明</li> <li>●千葉県建築三学生会賞</li> <li>・金賞／佐久周明 <b>地域一</b></li> <li>・奨励賞／長谷川晃三郎</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ふるさとの芸能空間」</li> <li>・全国入選2等／新岡英一、長谷川晃三郎、佐久周明、岡里潤 <b>日本二</b></li> <li>・全国入選3等／丹羽雄一(建築)、益田勝郎 <b>日本三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「垂直複合体」</li> <li>・1等／矢野一志、佐藤教明、菊池貴紀、廣川雅樹、安田友彦、鈴木宏佑 <b>日本一</b></li> <li>●第1回横浜アーバンデザイン国際コンペ</li> <li>・選外入選／長谷川晃三郎</li> <li>●第3回千葉ふるさと住宅設計コンクール「安全で魅力ある三世代住宅」</li> <li>・入選／山本和清</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第23回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・入選／山口哲也</li> <li>●千葉県建築四学生会賞</li> <li>・金賞／矢野一志 <b>地域一</b></li> <li>・銅賞／山口哲也 <b>地域二</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「交流の場としてのわが駅わが駅前」</li> <li>・全国入選2等／植竹和弘、根岸延行(建築)、中西邦弘(建築) <b>日本一</b></li> <li>・全国入選3等／飯田隆弘、佐藤教明、山口哲也 <b>日本三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「海に浮かぶ市場」</li> <li>・3等／川久保智康、野沢良太 <b>日本三</b></li> <li>●第2回横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて」</li> <li>・佳作／矢野一志、佐藤教明、大坪一之、屋田直樹、佐藤滋晃、菊池貴紀、菅野聡明、門脇桂子、馬場昭光</li> <li>●BAY'90デザインコンペ (BAY'90開催記念学生建築設計競技)</li> <li>・優秀賞／佐久周明 <b>日本一</b></li> <li>・佳作／益田勝郎</li> <li>●桜門建築会第4回学生設計コンクール「建築家ギャラリー」</li> <li>・2等／岡里潤、寺尾浩康、馬場昭光</li> <li>・佳作／植竹和弘、白石充、根岸延行(建築)</li> <li>・佳作／山口哲也、佐藤教明</li> <li>・佳作／広部剛司、佐藤岳志、菅浩康</li> <li>●第10回ホクストン建築装飾デザインコンペ「都市公園に建つフォーリー」</li> <li>・佳作／武田和之、岡里潤</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第24回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞／高橋武志 <b>日本一</b></li> <li>●千葉県建築三学生会賞</li> <li>・金賞／高橋武志 <b>地域一</b></li> <li>・奨励賞／廣川雅樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「都市の森」</li> <li>・1部全国入選2等／山口哲也、河本憲一、廣川雅樹、日下部仁志、伊藤康史、高橋武志 <b>日本二</b></li> <li>・2部全国入選最優秀／片桐岳志</li> <li>・2部支部入選／布川亨、八代国彦(建築)、堤秀樹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA オープンデザインコンペ「都市の解体と再構築」</li> <li>・1等／佐藤教明、山口哲也、木口英俊 <b>日本一</b></li> <li>・佳作／川久保智康、野沢良太</li> <li>●'91メンブレインデザインコンペ「アーバンビルとメンブレイン」</li> <li>・最優秀賞／河本憲一、石井昭博、関戸浩二、福田昌弘 <b>日本一</b></li> <li>●第2回長谷工イメージデザインコンペ「現代の夢殿」</li> <li>・入選／川添隆史、渡辺千香子</li> <li>●第18回日新工業建築設計競技「都市空間の再生計画」</li> <li>・入選／川久保智康、野沢良太、花沢真哉、高山一頼、伊藤裕、森泉尚之、額村康博、布川亨、八代国彦(建築)</li> <li>●第3回タキロンデザインコンペ「時代の風をはらむ都市装置」</li> <li>・3等／降旗恭子、黒田佳代 <b>日本三</b></li> <li>・入選／木口英俊</li> <li>●第5回千葉ふるさと住宅設計コンクール「共働き家族のための住宅」</li> <li>・奨励賞／川添隆史</li> <li>●第2回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞／木口英俊、渡辺昇</li> <li>●1991第1回 BUUFF 国際建築デザインコンペ「東京の住まい」</li> <li>・佳作／佐藤教明</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第25回毎日・DAS学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞／片桐岳志 <b>日本一</b></li> <li>・入選／寶田陵</li> <li>●千葉県建築三学生会賞</li> <li>・金賞／片桐岳志 <b>地域一</b></li> <li>・銅賞／寶田陵 <b>地域二</b></li> <li>●東京ガス・銀座ポケットパーク「卒業設計制作展」第10回記念『1993卒業設計制作大賞』</li> <li>・金賞／寶田陵 <b>日本一</b></li> <li>・銅賞／片桐岳志 <b>日本三</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「わが町のタウンカレッジをつくる」</li> <li>・1部全国入選3等／佐藤教明、木口英俊 <b>日本三</b></li> <li>・1部全国入選佳作／廣川雅樹、寶田陵</li> <li>・1部支部入選／山口哲也、河本憲一</li> <li>・1部支部入選／木口英俊、高橋武志</li> <li>・2部支部入選／関谷和則、石渡義隆</li> <li>・2部支部入選／平崎彰、望月喜之</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●盛岡・水辺のデザイン大賞</li> <li>・専門部門佳作／佐藤信治、河本憲一、廣川雅樹、伊藤康史、日下部仁志、高橋武志、伊藤賢</li> <li>●奈良・TOTO 世界建築トリエンナーレ</li> <li>・佳作／川久保智康、野沢良太、永島元秀</li> <li>●'92メンブレインデザインコンペ「オートキャンプ場」</li> <li>・2等／片桐岳志 <b>日本二</b></li> <li>・佳作／高橋武志、関戸浩二</li> <li>●桜門建築会第5回学生設計コンクール「わがヒーローとの出会い」</li> <li>・2等／片桐岳志、岡田和紀</li> <li>●アーキテクチャー・フェア KOBE 学生設計競技「神戸・学園東地域福祉センター」</li> <li>・佳作／吉田幸正</li> <li>●川鉄デザインコンペ'92</li> <li>・佳作／三輪政幸</li> <li>●第3回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞／佐藤教明</li> <li>●第19回日新工業建築設計競技「記憶の住む家」</li> <li>・佳作／野沢良太</li> <li>●1992第2回 BUUFF 国際建築デザインコンペ「東京屋台空間」</li> <li>・佳作／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行</li> <li>●DYNAX 第2回建築学生・設計大賞'92「〈太陽・月・炎〉の家」</li> <li>・奨励賞／竹内大介、高山一頼、宍倉尚行</li> <li>・奨励賞／石井昭博、寶田陵、西上順久</li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成4年			<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回タキロン国際デザインコンペ「風の道・水の道」</li> <li>・3等/山口哲也、川久保智康、木口英俊、永島元秀、布川亨 <b>日本三</b></li> <li>・3等/高橋武志、石井昭博 <b>日本三</b></li> <li>●1992新建築住宅設計競技「スタイルのない住宅」</li> <li>・佳作/川久保智康、高山一頼</li> <li>●「(仮称)中原中也記念館公開設計競技」</li> <li>・佳作/山口哲也、木口英俊</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第26回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・洋々賞/吉田幸正 <b>日本二</b></li> <li>・入選/関谷和則</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/関谷和則 <b>地域二</b></li> <li>・銀賞/吉田幸正 <b>地域二</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「川のある風景」</li> <li>・1部全国入選佳作/片桐岳志、小野和幸</li> <li>・1部支部入選/石井昭博、林正輝、福田昌弘、山口泰永</li> <li>・2部全国入選佳作/橋本廉太郎、神蔵良隆、藤生利道</li> <li>・2部全国入選佳作/関谷和則、三輪政幸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「21世紀の公園」</li> <li>・佳作/片桐岳志</li> <li>●第4回長谷工イメージデザインコンペ「現代のさや堂」</li> <li>・入選/片桐岳志</li> <li>●JIA 東海・北陸支部第10回設計競技「磐座〜いわくら〜」</li> <li>・銀賞/田中宏、岡田和紀、澤田憲子、倉川友紀 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/岡田和紀、田中宏、澤田憲子、倉川友紀</li> <li>●新知的生産環境1993デザインコンペティション「グループによる新しい知的生産環境の在り方」</li> <li>・優秀賞/小野和幸 <b>日本二</b></li> <li>●第4回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・フレッシュデザイン賞/岡田和紀、田中宏、木口英俊、川久保智康</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第27回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/清水信友</li> <li>・入選/戸國義直</li> <li>●千葉県建築三会学生賞</li> <li>・金賞/清水信友 <b>地域二</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「21世紀の集住体」</li> <li>・1部支部入選/小野和幸、田村裕彦、高野勇治(建築)、國武陽一郎(建築)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりコンクール'94「都市を水からデザイン」</li> <li>・優秀賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本二</b></li> <li>・佳作/田村裕彦、岡田和紀、小野和幸、鳥居延行</li> <li>・特別賞/井上真樹、馬淵晃</li> <li>●桜門建築会第6回学生設計コンクール「磯野家のすまい」</li> <li>・優秀賞/小野和幸、井上真樹、小山貴雄</li> <li>●川鉄デザインコンペ'94</li> <li>・学生大賞/関谷和則、石渡義隆、館吉保 <b>日本二</b></li> <li>●小山市城東地区街角広場デザインコンペ</li> <li>・佳作/坪山幸王、佐藤信治、石井昭博、林正輝、福田昌弘、石渡義隆、関谷和則、館吉保、清水信友</li> <li>●新知的生産環境1994デザインコンペティション「高齢者のための新しい知的生産環境の在り方」</li> <li>・入賞/小野和幸</li> <li>●第1回ARCASIA 学生賞1994「永続性ある発展を目指した都市居住と住宅改革」</li> <li>・優秀賞/小野和幸、高野勇治(建築)、岡田和紀、山越寧(建築) <b>日本二</b></li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第28回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/田村裕彦</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・銅賞/浦野雄一 <b>地域三</b></li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「テンポラリー・ハウジング」</li> <li>・1部支部入選/清水信友</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JIA 東海支部第12回建築設計競技「紙〜紙で街に仕掛ける〜」</li> <li>・銀賞/井上真樹、馬淵晃 <b>日本二</b></li> <li>●第9回千葉ふるさと住宅設計競技「ライフサイクルを見据えた安全で快適な住まい」</li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> <li>●第5回BUFF 国際建築デザインコンペ「東京水空間」</li> <li>・選外優秀作品賞/広瀬倫恒</li> <li>●世界の民族人形博物館国際学生アイデアコンペ</li> <li>・佳作/梶原崇宏、村松保洋</li> <li>●第3回札幌国際デザイン賞「雪の生活文化」</li> <li>・佳作/馬淵晃</li> <li>●第6回学生のためのフレッシュデザインコンペ</li> <li>・作品展示/下平将也</li> <li>・作品展示/川崎拓二</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/富永恒太</li> <li>●千葉県建築四会学生賞</li> <li>・銀賞/中村武晃 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/小川太士</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●石川県建築士会設計競技「インテリジェンスファクトリー」</li> <li>・選外優秀作品賞/小山貴雄</li> <li>●第10回千葉県街並み景観賞</li> <li>・準特選/鳥居延行 <b>地域二</b></li> <li>●桜門建築会第7回学生設計コンクール「キャンパスコア」</li> <li>・キャンパス賞/田中厚三、松元理恵</li> <li>●第10回千葉県ふるさと住宅設計競技「増改築を考慮したロングライフの住宅」</li> <li>・奨励賞/田中厚三</li> <li>●第10回建築環境デザインコンペティション「東京湾内のエコシティー」</li> <li>・佳作/小山貴雄</li> <li>●第2回九州デザインコンペティション「バリアフリーデザイン」</li> <li>・協賛企業賞/小山貴雄、田中厚三、安藤亮、北田紀子、峰村亮(生産建築)</li> <li>●第6回優しい食空間コンテスト「食空間デザイン」</li> <li>・入選/馬淵晃</li> <li>●第9回ゆとりある住まいコンテスト「住まいの収納」</li> <li>・1等/田中厚三 <b>日本二</b></li> </ul>

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成8年			●'97GREEN DESIGNING IN YAMAGATA「地球環境にやさしいデザイン」 ・奨励賞／馬淵晃
9	●第30回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／市原裕之 ・入選／針生康 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／市原裕之 ・奨励賞／針生康	●「21世紀の学校」 ・1部全国入選2等／村松保洋、渡辺泰夫 日本二	●石川県建築士会設計競技「ヒーリング・プレイス」 ・優秀賞／富永恒太 日本二 ●第8回学生のためのフレッシュデザインコンペ ・作品展示／宮下新 ・作品展示／佐藤洋、木村太輔、村松可奈子、北田紀子 ●桜門建築会三学部建築学生交流フォーラム ・審査員特別賞／長井厚、田中啓一、寺内学、関香織、村田昌彦 ●運輸省「みんなでつくろう海洋国日本 未来のアイデア大募集」 ・学校部門 フロンティア賞／鳥居延行、若山喜信、金田岩光 ●日本大学理工学部建築学科「TEMPORARY SPACE COMPETITION(DOME COMPE)」 ・優秀賞／石川阿弥子、大野貴司、桶川嘉子、山田博栄 ●第5回秀光学生コンペティション 新知的生産環境1997「挑戦するオフィス」 ・入賞／富永恒太 ●東京建築士会第33回建築設計競技「コミュニティコアとしての小学校の再生」 ・佳作／佐藤信治、市原裕之、田中克典、長井厚
10	●第31回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／大野貴司 ●千葉県建築四会学生会賞 ・金賞／大野貴司 地域二		●第4回北陸の家づくりコンペ「環境共生住宅」 ・最優秀賞／田中克典 日本一 ・優秀賞／長井厚 日本二 ●第2回太陽電池を用いた創造的構築物「太陽の恵みと建築との調和」 ・奨励賞／市原裕之 ●壁装材料協会主催「第6回明日のインテリア・アイデア・コンクール」 ・会員企業賞／伊藤昌明
11	●千葉県建築四会学生会賞 ・銀賞／寺田健 地域二 ・特別賞／江橋亜希子		●第5回北陸の家づくり設計コンペ「60年住む家」 ・優秀賞／塙貴宏 日本二
12	●第33回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／渡邊昌也 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／原香菜子 ・奨励賞／渡邊昌也	●「新世紀の田園居住」 ・タジマ奨励賞／青山純、岡田俊博、岡部敏明、木村輝之、斉藤洋平、重松研二、秦野浩司	
13	●第34回毎日・DAS学生デザイン賞 ・建築部門賞／秦野浩司 日本二 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／秦野浩司 ・奨励賞／木村輝之	●「子どもの居場所」 ・関東支部入選／齋藤洋平、木村輝之	●栃都市開発技術サービス「坪井地区を対象としたエコ・テクノロジーの活用によるまちづくり計画の提案」 ・優秀賞／山端俊也 日本二 ・佳作／大工原洋充、舟岡徳朗 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／羽根田治
14	●第35回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／丸山貴広 ・入選／山下忠相 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／栗田耕史 ・奨励賞／長坂悠司		●第2回仏壇デザインコンペティション2002 森正 ・審査員長特別賞／鷺淵正憲、渡邊昌也、伊藤麻也、坂元晋介 ●福山大学建築会デザインコンペティション2002 ・佳作／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／清水大地 ●第8回飛騨・高山学生家具デザイン大賞 ・入選／丸山貴広
15	●第36回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／川崎未来生 ●千葉県建築四会学生会賞 ・奨励賞／川崎未来生 ・奨励賞／白砂孝洋		●新建築住宅設計競技2003 ・2等／川崎未来生 日本二 ●福山大学建築会デザインコンペティション2003 ・金賞／片桐雄歩 日本一 ・入選／白砂孝洋 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入選／中村智裕
16	●第37回毎日・DAS学生デザイン賞 ・入選／永嶋順一 ・入選／佐藤俊介 ●千葉県建築四会学生会賞 ・特別賞／稲垣直秀 ・奨励賞／勝又洋	●「建築の転生・都市の転生」 ・全国入選佳作／丸山貴広、鈴木貴之、塚本哲也、長坂悠司、吉田健一郎 ・東海支部入選／土井涼恵、内田真紀子	●福山大学建築会デザインコンペティション2004 ・佳作／土井涼恵 ・入賞／勝又洋 ・入賞／奥田祥吾 ・佳作／三村舞、勝間田洋子、望月菜生 ・佳作／渡辺秀哉 ●栃東京建築士会「住宅課題賞」 ・入賞／賀山雄一

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成17年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第38回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/鈴木啓史</li> <li>・入選/渡辺秀哉</li> <li>●第18回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/渡辺秀哉 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/鈴木啓史</li> <li>○第4回 JIA 大学院修士設計展</li> <li>・出展/京野宏亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9坪ハウスコンペ2005</li> <li>・佳作/金子太亮</li> <li>●TEPCOインターカレッジデザイン選手権</li> <li>・優秀賞/金子太亮、京野宏亮 <b>日本一</b></li> <li>●福山大学建築会デザインコンペティション2005</li> <li>・入賞/桔川卓也</li> <li>・佳作/河原一也、信戸佑里</li> <li>●(株)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/五十嵐大輔</li> </ul>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第39回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/桔川卓也</li> <li>●卒業設計日本一決定戦</li> <li>・日本三/桔川卓也 <b>日本三</b></li> <li>●卒業設計裏日本一決定戦</li> <li>・裏日本一/桔川卓也 <b>日本一</b></li> <li>●第19回千葉県建築学生賞</li> <li>・特別賞/河原一也</li> <li>・奨励賞/丹沢裕太</li> <li>●第30回学生設計優秀作品展</li> <li>・レモン賞/桔川卓也</li> <li>○第5回 JIA 大学院修士設計展</li> <li>・出展/勝又洋</li> <li>・出展/金子太亮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」</li> <li>・関東支部入選/金子太亮、勝又洋、中村智裕</li> <li>・関東支部入選/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> <li>●「美しいまちをつくる むらをつくる」</li> <li>・最優秀賞/渡辺秀哉</li> <li>・足立区長賞/鈴木啓史、三村舞、渡辺秀哉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006「パブリックスペースと分煙」</li> <li>・佳作/勝又洋</li> <li>●TEPCO インターカレッジデザイン選手権「現実を虚構化する住宅/虚構を現実化する住宅」</li> <li>・最優秀作/勝又洋 <b>日本一</b></li> <li>●(株)ナムラコンチネンタルホーム事業本部・(株)日本住研 第3回住まいのデザインコンテスト「わたしが暮らす家」</li> <li>・優秀賞/勝又洋、金子太亮 <b>日本一</b></li> <li>●(株)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/島田かおり</li> </ul>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第40回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・入選/赤澤知也</li> <li>・入選/丸山大史</li> <li>●第20回千葉県建築学生賞</li> <li>・優秀賞/小松崎博敬 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/西村秀勇</li> <li>○第6回 JIA 大学院修士設計展</li> <li>・出展/三村舞</li> </ul>		
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第41回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/椎橋亮 <b>日本一</b></li> <li>●第21回千葉県建築学生賞</li> <li>・奨励賞/上條経伍</li> <li>・奨励賞/爲季仁</li> <li>●第32回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/椎橋亮</li> <li>●第49回全国大会・高専卒業設計展示会</li> <li>・出展/椎川恵太</li> <li>○第7回 JIA 大学院修士設計展</li> <li>・出展/五十嵐大輔</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●木愛の会 第1回設計競技「新しい木の建築—魅了する木造都市へ—」</li> <li>・入賞/大西慧</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第42回毎日・DAS 学生デザイン賞</li> <li>・建築部門賞/細矢祥太 <b>日本一</b></li> <li>・出展/下泉宏記</li> <li>●卒業設計日本一決定戦</li> <li>・100選/鴨志田航</li> <li>●第22回千葉県建築学生賞</li> <li>・市民賞/永田陽子 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/永田陽子</li> <li>・奨励賞/鴨志田航</li> <li>●第33回学生設計優秀作品展</li> <li>・出展/鴨志田航</li> <li>●第50回全国大会・高専卒業設計展示会</li> <li>・出展/細矢祥太</li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、10」</li> <li>・7選入選/大西慧</li> <li>○第8回 JIA 大学院修士設計展</li> <li>・出展/小松崎博敬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「アーバンフィジクスの構想」</li> <li>・関東支部入選/鴨志田航、本多美月</li> <li>●「美しくまちをつくる むらをつくる」</li> <li>・最優秀賞/朽木健二 <b>地域二</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回日本大学校門建築会学生設計コンペティション「未来の住処をデザインする」</li> <li>・東京ガス SUMIKA 賞/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/細矢祥太、益山未樹</li> <li>・佳作/椎橋亮</li> <li>●第7回「真の日本のすまい」</li> <li>・日本建築士会連合会会長賞/爲季仁、鈴木啓史 <b>日本一</b></li> <li>●(株)東京建築士会「住宅課題賞」</li> <li>・入選/増田佳菜子</li> </ul>

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成22年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第43回毎日・DAS 学生デザイン賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞「金の卵」賞/杉田陽平 <b>日本一</b></li> <li>・入賞/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第23回千葉県建築学生賞</li> <li>●優秀賞/杉田陽平 <b>地域二</b></li> <li>●特別賞/松井創斗</li> <li>●JIA東海学生卒業設計コンクール2011               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/杉田陽平</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2011               <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般賞 8位/杉山洋太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2011               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/松井創斗</li> </ul> </li> <li>●第34回学生設計優秀作品展               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/古明地雲母</li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/杉山洋太</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大きな自然に呼応する建築               <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選/大西慧、菅原遼</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハンサムプレゼンテーションコンペ2010               <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーキテクタ賞/小川雅人</li> </ul> </li> <li>●第6回「新・木造の家」設計コンペ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/嶋真史</li> </ul> </li> <li>●第2回文化遺産防災アイデアコンペ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/爲季仁、平山雄基</li> </ul> </li> <li>●第2回日本大学校門建築会学生設計コンペティション               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/増田佳菜子、小山勇氣</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦               <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/小山勇氣</li> </ul> </li> <li>●椅子のある風景 北の創作椅子展2010               <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/永田陽子、椎橋亮</li> </ul> </li> <li>●ハンスグロエ ジャパン パスルーム デザインコンペ2010               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/椎橋亮、永田陽子</li> </ul> </li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第44回毎日・DAS 学生デザイン賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築部門賞/石原幹太 <b>日本一</b></li> <li>・入賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第24回千葉県建築学生賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞/石原幹太 <b>地域二</b></li> <li>・市民賞/石原幹太 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第35回学生設計優秀作品展               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/井上彩花</li> </ul> </li> <li>●卒業設計日本一決定戦2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・20選/菅原雅之</li> <li>・100選/渡部亘</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、12」               <ul style="list-style-type: none"> <li>・7選/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●DIPLOMA 2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科代表掲載作品/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会 建築デザイン発表会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門優秀賞/菅原雅之</li> <li>・部門優秀賞/石原幹太</li> </ul> </li> <li>●Vectorworks 教育支援プログラム OASIS               <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀研究賞/菅原雅之</li> </ul> </li> <li>●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・都築響一賞/菅原雅之 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●全国大学・高専卒業設計展示会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展/渡部亘</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第17回北陸の家づくり設計コンペ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・北日本新聞社賞/杉田陽平、菅原雅之、渡部亘</li> </ul> </li> <li>●第3回日本大学校門建築会学生設計コンペティション               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/渡部亘</li> <li>・佳作/涌井匠、海藤航、斉藤亮介</li> </ul> </li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2011               <ul style="list-style-type: none"> <li>・満田衛資賞佳作/涌井匠、福田雄太</li> </ul> </li> </ul>	
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第45回毎日・DAS 学生デザイン賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/涌井匠</li> </ul> </li> <li>●第25回千葉県建築学生賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞/涌井匠</li> <li>・奨励賞/海藤航</li> </ul> </li> <li>●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2013               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/涌井匠 <b>日本一</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第10回 R&amp;R 設計アイデアコンテスト               <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞/松井創斗、斎藤亮介、山川大喜、川崎将</li> </ul> </li> <li>●FUTURE DESIGN 2012 未来エレベーターコンテスト               <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員賞/田原拓、川崎将、山川大喜、善財寛之</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦               <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選/山川大喜</li> </ul> </li> <li>●第4回ハーフェレ学生デザインコンペティション               <ul style="list-style-type: none"> <li>・妹尾賞/石原幹太、伊藤春樹、古江志人、遠洞躍斗</li> </ul> </li> <li>●ALA 建築 Project 建築学生の挑戦「都市と空き地」Vol.2               <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀作品/松井創斗、堤昭文、辻普</li> </ul> </li> <li>●第4回文化遺産防災アイデアコンペティション               <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作/榎本翔太、涌井匠、杉田陽平</li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2012               <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選/杉田陽平、涌井匠、川崎将、徳永尚亮</li> </ul> </li> <li>●平成24年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞/梅田淳、海藤航、福田雄太、涌井匠 <b>地域三</b></li> <li>・企画賞、デザイン賞/伊藤春樹、斉藤亮介、中山淳雄、望月堅二</li> </ul> </li> </ul>	

年度	卒業設計(●)/修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成24年			●キルコス国際建築設計コンペティション2012 ・永山祐子賞佳作/涌井匠
25	●第26回千葉県建築学生賞 ・奨励賞/山川大喜 ・奨励賞/川崎将		●歴史的空間再編コンペティション2013 ・入選/菅原雅之、遠洞躍斗、樋浦直紀、井出健、鶴田亜有美、中山博貴 ●建築新人戦 ・100選/出山亮 ●平成25年度「横須賀市の海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/遠洞躍斗、田原拓、堤昭文、岩本桃果、阿部紘樹 <b>地域</b> ・企画賞、デザイン賞/山川大喜、森浩平、徳永尚亮、善財寛之、鈴木彩美、大谷涼 ●キルコス国際建築設計コンペティション2013 ・遠藤秀平賞銀賞/山川大喜、辻普、藤本幸汰、白坂真 ・古谷誠章賞佳作/菅原雅之
26	●第47回毎日・DAS デザイン賞 ・入賞/滝村菜香 ・入賞/出山亮 ・入賞/藤本幸汰 ●第27回千葉県建築学生賞 ・特別賞(JIA 全国出展)/山影悠時 ・奨励賞・市民賞2位/志萱侑太 ●全国合同卒業設計展「卒、15」 ・審査委員賞(藤村龍至賞)/山影悠時 ●卒業設計日本一決定戦2015 ・100選/山影悠時 ・100選/志萱侑太 ●福岡デザインレビュー2015 ・最優秀賞/堤昭文 <b>日本一</b> ●赤レンガ卒業設計展2015 ・審査委員賞(中山英之賞)/滝村菜香 ●第38回学生設計優秀作品展 ・レモン賞/堤昭文 ●日本建築学会 建築デザイン発表会 ・審査委員賞(篠原聡子)/山影悠時 ●MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 ・入選/志萱侑太 ・入選/山影悠時		●建築新人戦 ・101選/高橋翔 ●第8回 JACS 住宅設計コンペ2014 ・佳作/川崎将、志萱侑太、高橋翔 ●キルコス国際建築設計コンペティション2014 ・五十嵐淳賞(銅賞)/遠洞躍斗、森浩平、浅見花 ●第6回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・審査委員賞/山川大喜、滝村菜香、齊藤賢司 ・佳作/涌井匠、遠洞躍斗、山影悠時 ●歴史的空間再編コンペティション2014 ・20選/涌井匠、出山亮、森浩平、樋浦直樹、染谷萌衣、高橋政頼 ●平成26年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・デザイン賞/出山亮、井出健、宇山浩和、戸田寛康、樋浦直樹 ・佳作/志萱侑太、亀田宏樹、滝村采香、福島弘明、増田顕弘
27	●第48回毎日・DAS 学生デザイン賞 ・建築部門賞/高橋翔 <b>日本一</b> ●第28回千葉県建築学生賞 ・市民賞2位・奨励賞/高橋翔 ・奨励賞/重田秀之 ●第39回学生設計優秀作品展 ・出展/高橋翔 ○第39回学生設計優秀作品展 ・出展/山川大喜 ○第14回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2016 ・出展/川崎将	●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2015 ・入選/志萱侑太、重田秀之、高橋翔、千葉雄介、中西宏直、濱嶋杜人	●日本造園学会90周年記念全国大会 U-30国際アイデアコンペティション ・佳作/森浩平、杉田陽平、松井創斗 ●Floating City Project Architectural Design Contest ・佳作/佐藤信治研究室 ●シェルターインターナショナル学生設計競技2015 ・一次予選通過/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●第9回 JACS 住宅設計コンペ2015 ・特別賞(長谷川豪賞)/遠洞躍斗、滝村菜香、小貫笑美依、佐々木秀人 ・佳作/志萱侑太 ●平成27年度「よこはまの海を活かしたまちづくり」コンペ ・最優秀賞/高橋翔、千葉雄介、中西宏直、今村夏波 <b>地域</b> ●公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション ・実施採択/川崎将 ●第7回日本大学桜門建築会学生設計コンペティション ・佳作/出山亮、森浩平、蒲生良輔 ●歴史的空間再編コンペティション2015 ・10選/出山亮 ・20選/遠藤躍斗、山影悠時、森浩平、上田紗矢香、小貫笑美衣 ・50選/川崎将、滝村菜香、高橋政頼、中西宏直、門口雅奈、蒲生良輔、濱嶋杜人 ●第13回主張する「みせ」学生デザインコンペ ・審査委員特別部門賞/志萱侑太、山本雄太郎 ●第1回学生、コンペティション「共のレシビ」 ・特別賞/山川大喜、志萱侑太、千葉雄介 ●キルコス国際建築設計コンペティション2015 ・近藤哲雄賞銀賞/志萱侑太

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
平成28年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第29回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民賞／蒲生良輔 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞／蒲生良輔</li> <li>・奨励賞／濱嶋杜人</li> </ul> </li> <li>●せんだいデザインリーグ <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・100選／上田紗矢香</li> <li>・100選／宮嶋悠輔</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、17」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合資格学院賞／上田紗矢香</li> </ul> </li> <li>●第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／蒲生良輔</li> </ul> </li> <li>○第40回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／志萱侑太</li> </ul> </li> <li>○第15回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2017 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／出山亮</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タジマ奨励賞／宮嶋悠輔、門口稚奈、谷醒龍、濱嶋杜人</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ERI 学生デザインコンペ2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／蒲生良輔、小貫笑美依、福富大真</li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>・50選／佐々木秀人、新部瑠介、加藤毅三</li> </ul> </li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／志萱侑太、金井亮祐</li> <li>・佳作／永富快、上田紗矢香、山本雄太郎</li> </ul> </li> <li>●(社)東京建築士会「住宅課題賞」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞／黄起範</li> </ul> </li> </ul>
29	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第49回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金の卵賞／黄起範 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●第30回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞／黄起範</li> <li>・奨励賞／赤堀厚史</li> </ul> </li> <li>○第41回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／千葉雄介</li> </ul> </li> <li>○第16回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／高橋翔</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2017「地域の素材から立ち現れる建築」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国入選佳作・タジマ奨励賞／赤堀厚史、中村圭佑、佐藤未来、加藤柚衣</li> <li>・四国支部入選／松下知可、青木絵子、島田将武、浅野健</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・16選／服部立</li> <li>・100選／勝部秋高</li> <li>・100選／山本壮一郎</li> <li>・100選／笹川雄基</li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2017 <ul style="list-style-type: none"> <li>・50選／重田秀之、宮嶋悠輔、金井亮祐、山本淳樹、Lunenкова Anastasia、渡辺真理恵、三枝晃、笹川雄基</li> </ul> </li> <li>●シェルターインターナショナル学生設計競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>・34選／蒲生良輔、山本淳樹</li> </ul> </li> <li>●都市のパブリックスペースデザインコンペ2017 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／永富快、山本雄太郎、上田紗矢香</li> <li>・佳作／志萱侑太、金井亮祐</li> </ul> </li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第50回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金の卵賞／服部立 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●第31回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／勝部秋高 <b>地域二</b></li> <li>・特別賞／根本一希</li> <li>・市民賞／勝部秋高 <b>地域二</b></li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員賞／高橋遼太郎</li> </ul> </li> <li>●デザイン女子 No. 1 決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・建築部門賞 1 位／渡辺真理恵 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>○第42回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／上田紗矢香</li> </ul> </li> <li>○第17回 JIA 関東甲信越支部大学院修士設計展2019 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／佐々木秀人</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2018「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海支部入選／山本壮一郎、根本一希、桜井南実、服部立、住吉文登</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築新人戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8選／中村美月</li> <li>・100選／西遼</li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5位／佐々木秀人、金井亮祐、根本一希、桜井南実、小林陽太、中村美月、松下将也</li> </ul> </li> <li>●キルコス国際建築設計コンペティション2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・金賞／蒲生良輔、山本淳樹、三枝晃、山内颯、西村寿々美、郎敬萬 <b>日本一</b></li> <li>・銀賞／勝部秋高、篠原健</li> </ul> </li> <li>●桜建デザイン・コンクール2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／佐々木秀人、山本壮一郎、渡辺真理恵、西村寿々美</li> </ul> </li> <li>●住宅課題賞2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／小山田駿志</li> </ul> </li> <li>●ひろしま建築学生チャレンジコンペ2018 <ul style="list-style-type: none"> <li>・9選／西遼、小山田駿志、山内颯</li> </ul> </li> </ul>
31 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第51回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／中村美月</li> </ul> </li> <li>●第32回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／横畑佑樹 <b>地域二</b></li> <li>・特別審査委員賞／横畑佑樹</li> </ul> </li> <li>●せんだいデザインリーグ2020 <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業設計日本一決定戦</li> <li>・20選／中村美月</li> <li>・100選／小山田駿志</li> <li>・100選／横畑佑樹</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、20」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞(総合資格賞)／横畑佑樹</li> <li>・8選／西村寿々美</li> </ul> </li> <li>●赤レンガ卒業設計展2020 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／中村美月 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>○第43回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／横畑佑樹</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2019「ダンチを再考する」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選／小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介</li> <li>・タジマ奨励賞／小山田駿志、大石展洋、中村美月、渡邊康介</li> <li>・全国入選佳作／根本一希、勝部秋高</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的空間再編コンペティション2019 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グランプリ／横畑佑樹、山本壮一郎、中村美月、大石展洋、大久保将吾、駒形史紗、臼杵葵</li> </ul> </li> </ul>

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
令和2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第52回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／藤田大輝</li> </ul> </li> <li>●第33回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／山戸善伸 <b>地域二</b></li> <li>・入選／佐藤駿介</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、21」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合資格賞／中村正基</li> <li>・八木祐理子賞／神林慶彦</li> </ul> </li> <li>●オンライン卒制展2021 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋吉浩気賞／藤田大輝</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2020「外との新しいつながりをもった住まい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／根本一希、渡邊康介、中村美月</li> <li>・佳作／勝部秋高、篠原健</li> <li>・タジマ奨励賞／石井健聖、大久保将吾、駒形史紗、佐藤駿介、鈴木亜実</li> <li>・四国支部入選／鷹田知輝(日本大学)、横畑佑樹(同)、西遼(岡山県立大学)、植田美鈴(日本大学)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第11回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・山脇賞／古角虎之介、小山田駿、鷹田知輝、横畑佑樹</li> </ul> </li> <li>●第7回宇宙建築賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3位／福田晃平、水口隆、佐藤宏樹(芝浦工大)</li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2020 <ul style="list-style-type: none"> <li>・準グランプリ／根本一希、中村美月、渡邊康介 <b>日本二</b></li> <li>・ベスト16／古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基</li> <li>・最優秀 SNOU 賞／古角虎之介、山戸善伸、神林慶彦、中村正基</li> </ul> </li> <li>●土木デザイン設計競技景観開花。2020 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀作品賞／横畑佑樹、根本一希、中村数基、藤田大輝、小林功基、有馬成美 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●木の家設計グランプリ2020 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／中村正基、山本壮一郎、中村美月、山田遥南、石本かえで、田畑輝 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第34回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／小林真子 <b>地域二</b></li> <li>・奨励賞／太田優人</li> </ul> </li> <li>●せんだいデザインリーグ2022 卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／関亮太</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2021「まちづくりの核として福祉を考える」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選／藤田大輝、渡辺真理恵、石井健成(工学院大)、黒田尚幹(同)</li> <li>・近畿支部入選／小山田駿志、古角虎之介、高橋朋、福田晃平</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会建築文化週間学生グランプリ2021「銀茶会の茶席」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・原田祐季子賞／大木貴裕、小林真子、中泉拓己、森田優莉、山戸善伸</li> <li>・風間喜一賞、木村知弘賞／小山田駿志、謝雨辰、鈴木晶美子、増田悠玖、渡邊愛</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会関東支部第22回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞／中村美月、横畑佑樹、神林慶彦、小川香奈、安藤大翔、山田莉央 <b>日本二</b></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第8回 POLUS 学生建築デザインコンペティション <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／福田晃平、山戸善伸</li> </ul> </li> <li>●第12回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／古角虎之介、小林真子、鷹田知輝</li> </ul> </li> <li>●建築学縁祭～ROOKIE 戦～ <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／三谷翼空</li> <li>・100選／荒井基就</li> </ul> </li> <li>●VectorWorks 学生作品コンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／安藤大翔 <b>地域二</b></li> </ul> </li> <li>●JAPAN WOOD DESIGN AWARD2021 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／小山田駿志</li> </ul> </li> <li>●第9回ヒューリック学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／中村美月、横畑佑樹、中村正基</li> </ul> </li> <li>●U30復興デザインコンペ2021「複合災害と新たな都市像」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／藤田大輝、渡辺真理恵、山田遥南、川田遥、西辻優世、石黒敬太、尾沢圭太 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2021 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10位／藤田大輝</li> <li>・最優秀 SNOU 賞／藤田大輝</li> </ul> </li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第54回毎日・DAS 学生デザイン賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／安藤大翔</li> <li>・入選／大木貴裕</li> </ul> </li> <li>●第35回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別賞・市民賞／川内俊太郎</li> <li>・奨励賞／尾沢圭太</li> </ul> </li> <li>●せんだいデザインリーグ2023 卒業設計日本一決定戦 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／三谷翼空</li> </ul> </li> <li>●赤れんが卒業設計展2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／法橋礼歩</li> <li>・100選／大木貴裕</li> <li>・100選／梅澤秀太</li> <li>・100選／三谷翼空</li> <li>・100選／石黒敬太</li> </ul> </li> <li>●全国合同卒業設計展「卒、23」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・50選／三谷翼空</li> </ul> </li> <li>●新潟建築卒業設計展 Session! 2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海林賞／梅澤秀太</li> </ul> </li> <li>●第46回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／梅澤秀太</li> </ul> </li> <li>○第46回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／中村正基</li> </ul> </li> <li>●群青建築展2023+ <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉崎賞／安藤大翔</li> <li>・姉崎賞／法橋礼歩</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2022「『他者』とともに生きる建築」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選／中村正基、神林慶彦</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WASA 世界建築学生賞 2022 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入賞／三谷翼空、梅澤秀太</li> <li>・入賞／三谷翼空、梅澤秀太、安藤大翔、尾沢圭太、法橋礼歩</li> </ul> </li> <li>●住宅課題賞2022 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／櫻井彩音</li> </ul> </li> <li>●U30復興デザインコンペ2022「災害を生きる都市」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8選／安藤大翔、藤田大輝、任晴雯、鈴木雄士、山口直也、奥村碩人</li> </ul> </li> <li>●The 12th Virtual Design World Cup <ul style="list-style-type: none"> <li>・C デイビッド・ツェン賞／梅澤秀太</li> </ul> </li> <li>●建築学縁祭～Rookie 戦～2022 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／樋口大雅</li> <li>・100選／八阪柊吾</li> </ul> </li> <li>●VectorWorks 学生作品コンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞／富永玲央</li> </ul> </li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第36回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・JSCA 千葉・構造デザイ賞(特別賞)／八阪柊吾</li> <li>・特別賞／浅井駿来</li> </ul> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第12回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・土肥賞／三谷翼空</li> </ul> </li> <li>●Design Review 2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・10選／富永玲央</li> <li>・62選／藍野友輝</li> </ul> </li> </ul>

年度	卒業設計(●)／修士設計(○)	建築学会コンペ	その他のコンペ
令和5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国合同卒業設計展「卒、24」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・50選／藍野友輝</li> <li>・50選／富永玲央</li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／浅井駿来</li> </ul> </li> <li>●新潟建築卒業設計展 Session! 2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・8選／浅井駿来</li> </ul> </li> <li>●第47回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／富永玲央</li> </ul> </li> <li>○第47回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／太田優人</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2023「環境と建築」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・タジマ奨励賞／仲澤和希、佐藤航太、奥村碩人、玉木芹奈</li> <li>・北海道支部入選／安藤大翔、太田優人</li> <li>・東北支部入選／荒木陽哉、山口直也、黒坂龍之介</li> </ul> </li> <li>●日本建築学会関東支部第24回提案競技「まちなか再生に取り組み伊勢崎市の未来を創造する」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／鈴木雄士、富永玲央、佐村拓郎、小林弘真、姫野由衣、熊谷百花(共立女子大学)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ARCASIA Students' Design Competition 2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内代表／藍野友輝</li> </ul> </li> <li>●建築学縁祭 ～ Rookie 戦～2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠賞建設賞／菊池康太</li> <li>・佳作／姫野由衣</li> <li>・石井秀幸賞／若松瑠苒</li> <li>・100選／田中修斗</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／若松瑠苒</li> </ul> </li> <li>●VectorWorks 学生作品コンテスト <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励賞／姫野由衣</li> </ul> </li> <li>●木の家設計グランプリ2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀賞／八阪柊吾 <b>日本一</b></li> </ul> </li> <li>●歴史的空間再編コンペティション2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNOU パース賞／浅井駿来、樋口大雅</li> </ul> </li> <li>●2023年度グッドデザイン・ニューホープ賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／三谷翼空</li> </ul> </li> <li>●住宅課題賞2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／若松瑠苒</li> </ul> </li> <li>●第11回ヒューリック学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／大木貴裕、中村光佑、門谷采実</li> <li>・佳作／富永玲央、太田優人、法橋礼歩、鈴木雄士</li> <li>・佳作／三谷翼空</li> </ul> </li> <li>●第11回大東建託賃貸住宅コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・選外佳作／若松瑠苒、太田優人、柏木玲菜、樋口大雅、園田悠太</li> </ul> </li> <li>●第50回 五三会建築設計競技 <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤森雅彦賞／藍野友輝、三谷翼空、梅澤秀太</li> </ul> </li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国合同卒業設計展「卒、25」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・石原賞／姫野由衣</li> </ul> </li> <li>●新潟建築卒業設計展 Session! 2025 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟ゆきどけ賞／勝野琉生</li> <li>・中谷賞／藤崎知輝</li> <li>・西口賞／吉水理乃</li> </ul> </li> <li>●せんだいデザインリーグ2025 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／姫野由衣</li> </ul> </li> <li>●第37回千葉県建築学生賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最優秀賞／若松瑠苒 <b>地域一</b></li> <li>・特別審査員賞／若松瑠苒</li> <li>・千葉県知事賞／若松瑠苒</li> <li>・特別審査員賞／菊池康太</li> </ul> </li> <li>●赤れんが卒業設計展2025 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／勝野琉生</li> <li>・100選／園田悠太</li> </ul> </li> <li>●第25回卒業設計コンクール展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県知事賞／菊池康太 <b>地域一</b></li> </ul> </li> <li>●JIA 全国卒業設計コンクール2025 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／若松瑠苒</li> </ul> </li> <li>●第48回学生設計優秀作品展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出展／園田悠太</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本建築学会設計競技2024「 commons の再構築」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・関東支部入選／奥村碩人、熊本一希、荒木陽哉、山口直也</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建築学縁祭 ～ Rookie 戦～2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・猪熊純賞／酒井優</li> <li>・佳作／宮田正博</li> <li>・100選／大野紗夕香</li> <li>・100選／川村吉平</li> <li>・100選／藤井光緒</li> <li>・100選／増淵悠</li> </ul> </li> <li>●建築新人戦2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・100選／田村萌依</li> </ul> </li> <li>●第12回大東建託賃貸住宅コンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／三谷翼空、八阪柊吾、菊池康太</li> </ul> </li> <li>●木の家設計グランプリ2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／佐藤航太、奥村碩人</li> <li>・ビルダー賞／若松瑠苒</li> </ul> </li> <li>●2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／菊池康太、西村隆司(芝浦工業大学)、河野奏太(芝浦工業大学)</li> </ul> </li> <li>●住宅課題賞2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／酒井優</li> </ul> </li> <li>●第12回ヒューリック学生アイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／梅澤秀太、藍野友輝、小野田鼓、齋藤慶悟 <b>日本一</b></li> <li>・佳作／富永玲央、若松瑠苒、八阪柊吾、大木貴裕</li> </ul> </li> <li>●第3回学生プロジェクトデザインコンペティション2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入選／藤崎知輝</li> </ul> </li> <li>●第14回学生 BIM&amp;VR デザインワールドカップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップ賞／薄井李空、小野田鼓、齋藤慶悟 <b>世界一</b></li> </ul> </li> <li>●スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀賞／嶋川隼史、鈴木陸、高田悠真、森田健太郎</li> <li>・優秀賞／草野真司、芦ヶ原治希</li> </ul> </li> <li>●土木デザイン設計競技景観開花。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・佳作／安藤大翔、樋口大雅、仲澤和希、五十嵐功、酒井優、星野輝太</li> <li>・ドーコン賞／浅井翔、鈴木暖、小林弘真、三野宮弘太郎、牧野元汰、田原愛夏</li> </ul> </li> <li>●Next 東静岡～創る・継げる・結わえる街へ～まちづくりアイデアコンペ <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生未来賞／藤崎知輝、玉川将太、横山晃己、池田拓未</li> </ul> </li> <li>●丹青社空間アワード2024 <ul style="list-style-type: none"> <li>・審査員特別賞／糸魚川颯大、池田拓未</li> </ul> </li> </ul>

## 令和六年度 設計製図担当教員一覧

### 1年生（ベーシックデザイン演習）

佐藤信治（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
江川香奈（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
長谷川洋平（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
菅原 遼（ベーシックデザイン演習）／海洋建築工学科  
奥村梨枝子（ベーシックデザイン演習）／YTRO DESIGN INSTITUTE  
金子太亮（ベーシックデザイン演習）／空間研究所  
木内厚子（ベーシックデザイン演習）／STUDIO 8  
高野洋平（ベーシックデザイン演習）／高野洋平建築設計事務所  
門間正彦（ベーシックデザイン演習）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所

### 2年生（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）

佐藤信治（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
江川香奈（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
長谷川洋平（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／海洋建築工学科  
菅原 遼（デザイン演習Ⅰ）／海洋建築工学科  
勝又 洋（デザイン演習Ⅱ）／大成建設  
金子太亮（デザイン演習Ⅰ）／空間研究所  
田中克典（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／大林組  
玉上貴人（デザイン演習Ⅱ）／タカトタマガミデザイン  
筒井紀博（デザイン演習Ⅱ）／筒井紀博空間工房  
船曳桜子（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／船曳桜子建築設計  
星 裕樹（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／KAJIMA DESIGN  
森田敬介（デザイン演習Ⅰ、デザイン演習Ⅱ）／森田建築設計事務所  
山田晶子（デザイン演習Ⅱ）／かめ設計室

### 3年生（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）

佐藤信治（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／海洋建築工学科  
長谷川洋平（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／海洋建築工学科  
小林直明（建築計画及び演習）／海洋建築工学科  
光井 純（デザイン演習Ⅲ、建築計画及び演習）／光井 純アンドアソシエーツ建築設計事務所  
・海洋建築工学科  
小平純子（デザイン演習Ⅲ）／竹中工務店  
川久保智康（デザイン演習Ⅲ）／川久保智康建築設計事務所  
桔川卓也（デザイン演習Ⅲ）／ナスカ  
高野洋平（デザイン演習Ⅲ）／高野洋平建築設計事務所  
鶴田伸介（デザイン演習Ⅲ）／熊工房

### 4年生（総合演習）

佐藤信治（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科  
山本和清（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
江川香奈（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
長谷川洋平（総合演習デザイン系）／海洋建築工学科  
菅原 遼（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
寺口敬秀（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
桜井慎一（総合演習計画系）／海洋建築工学科  
吉田郁夫（総合演習デザイン系）／清水建設

「むすび  
くヤマタネの遺伝子をむすぶ」 穴井悠士朗・神田壮一朗・草野真司・森田健太郎

「船橋水景を宿す  
く水辺の生業と文化を蓄積する記憶装置」 若松瑠芽

「海の駅」 酒井 優・有本百花

「島嶼建築 ―瀬戸内海を対象とした離島環境と地域文化に基づいた宿泊建築の提案―」 梅澤秀太

「変化する文化塔  
く消えゆく祭礼の蓄積装置」 園田悠太

「都市型リゾート機能を有したホテル」 酒井 優・江口和李

「船の橋掛 ―かつての船橋と現代の船橋の架け橋的提案―」 齊藤慶悟・薄井李空・小野田鼓・藤崎知輝

「掘削リグを用いた移動式防災拠点の提案  
ジャカルタにおけるジャッキアップ式リグを用いた防災拠点の提案」 安藤大翔

「Connect with ～川を繋ぐ、地域を繋ぐ、人を繋ぐ～」  
今井克久・江口 楓・塩沢陸斗・相馬咲良・高田悠真